

The Toyota Foundation 2015-6 Annual Report

# トヨタ財団 2005-6年度年次報告

平成17-8年度

# 目次

- 6 トヨタ財団の助成プログラムについて—財団活動として、社会への発信機能強化を 加藤広樹

---

## 第一部 | 2005年度

12 理事・監事

13 評議員

---

### Ⅰ 研究助成プログラム

16 I-0 | 研究助成プログラムの概要と活動結果

18 I-1 | 研究助成

24 I-2 | 特定課題—近代化とくらしの再発見

26 I-3 | 特定課題—アジア周縁部における伝統文書の保存、集成、解題

29 I-4 | 特定課題—助成金が活きるとは

---

### Ⅱ 地域社会プログラム

34 II-0 | 地域社会プログラムの概要と活動結果

37 II-1 | 活動助成

40 II-2 | 成果普及助成

---

### Ⅲ ネットワーク形成プログラム

42 III-0 | ネットワーク形成プログラムの概要と活動結果

43 III-1 | アジア隣人ネットワークプログラム

47 III-2 | 東南アジア研究地域交流プログラム(SEASREP)

50 III-3 | 成果発表助成

---

### Ⅳ 計画助成プログラム

54 IV-0 | 計画助成プログラムの概要と活動結果

---

### Ⅴ 事業実績の概要

58 V-0 | 事業実績の概要

60 V-1 | 2005年度(平成17)年度会計報告

64 V-2 | 2005年度(平成17)年度事業日誌

---

## 第二部 | 2006年度

68 理事・監事

69 評議員

---

### Ⅰ ネットワーク形成プログラム

72 I-0 | ネットワーク形成プログラムの概要と活動結果

73 I-1 | アジア隣人ネットワークプログラム

78 I-2 | 東南アジア研究地域交流プログラム(SEASREP)

81 I-3 | 成果発表助成

---

### Ⅱ 地域社会プログラム

86 II-0 | 地域社会プログラムの概要と活動結果

89 II-1 | 活動助成

92 II-2 | 成果普及助成

94 II-3 | 特定課題 離島助成

95 II-4 | 特定課題 ユース助成

---

### Ⅲ 研究助成プログラム

98 III-0 | 研究助成プログラムの概要と活動結果

100 III-1 | 研究助成——くらしといのちの豊かさをもとめて

106 III-2 | 特定課題——アジア周縁部における伝統文書の保存、集成、解題

110 III-3 | 特定課題——助成金が活きたとは

---

### Ⅳ 計画助成プログラム

115 IV-0 | 計画助成プログラムの概要と活動結果

---

### Ⅴ 事業実績の概要

118 V-0 | 事業実績の概要

120 V-1 | 2006年度(平成18)年度会計報告

124 V-2 | 2006年度(平成18)年度事業日誌

#### 注記

◎この年次報告書は、2006(平成18)年6月14日の第112回理事会、および2007(平成19)年6月19日の第117回理事会において承認された「平成17(2005)年度事業報告書」ならびに「平成18(2006)年度事業報告書」に基づき、当財団の2005年度(2005年4月1日～2006年3月31日)2006年度(2006年4月1日～2007年3月31日)の事業内容を取りまとめたものです。

◎本報告書中の助成対象一覧はいずれも助成決定時のものであり、決定以降の変更は割愛いたしました。ただし、これまでの助成対象について助成金額の変更があったものについては、会計報告欄にそれを記載いたしました。

◎助成対象一覧において、助成番号の下に記載した(継n)はこのプロジェクトがn回目の継続助成であることを示します。



# トヨタ財団の助成プログラムについて

## 財団活動として、社会への発信機能強化を

トヨタ財団常務理事  
加藤広樹

### 主な特徴

この2005-06年度は、30周年を機にまとめた中長期構想の下、新しいプログラムの骨格を形作り、本格的実行に向けてスタートした年と位置づけられる。構想諮問委員会の最終答申(05年9月)をふまえて、新しいプログラム体系は「地域社会の活性化」、「東南アジアを含む東アジアにおける諸課題に取り組むネットワーク形成」、「将来世代の育成」といった長期目標の実現をめざし、「ネットワーク形成プログラム」、「地域社会プログラム」、「研究助成プログラム」の3つのコア・プログラムと「計画助成プログラム」の構成にした。また、答申の具体化を図るために、「プログラム改革委員会」を発足(05年10月)させている。

各年度における各助成プログラム運営の主な特徴は以下の通り。

#### 〈2005年度〉

##### 1. 研究助成プログラム

- ・ 研究助成(本体)の基本テーマを平成6年度から続いた「多元価値社会の創造」から「くらしといのちの豊かさをもとめて」に改定する作業を行った。
- ・ 「アジア周縁部における伝統文書の保存、集成、解題」ならびに「助成金が活きたとは」という2つの特定課題を新しく立ち上げた。

##### 2. 地域社会プログラム

- ・ 旧市民社会プログラムを発展的に解消させ、「地域社会プログラム」として立ち上げ試行2年度目となる。来年度からの本格的プログラムに向けて準備を進めた。

##### 3. ネットワーク形成プログラム

- ・ アジア地域間のさまざまな次元での交流を促進し、より広い意味での国際的なアジアにおける諸課題に取り組むためのネットワーク形成を支援するプログラムとして創設した。このため、研究助成のサブプログラムであった「アジア隣人ネットワークプログラム」を正式プログラムとして独立させ、「東南アジア研究地域交流プログラム(SEASREP)」および「成果発表助成」と併せて「ネットワーク形成プログラム」として再編成した。
- ・ SEASREPについては、現地化を図るため事務運営をSEASREPカウンシル事務局(マニラ)に移管した。

## 〈2006年度〉

### 1. ネットワーク形成プログラム

#### 【アジア隣人ネットワーク】

- ・基本テーマとして「『人と人とのつながり』がアジアの可能性をひらく」を新たに設定するとともに、ネットワーク構築のプロセスを重視するなど趣旨を変更した。

#### 【SEASREP】

- ・9名で構成される評議員会において、財団運営の自立化に向けたプログラムの見直し、ファンドレイジング等を検討した。

### 2. 地域社会プログラム

- ・2年間の試行期間を経て、当年度から本格的なプログラムとしてスタートした。  
試行結果を基に、重点地域(北海道、東北6県、新潟県)を設定した。
- ・新たに特定課題として、島における地域活性化への取り組み支援として「離島助成」と地域の高校生が主体となった活動プロジェクトへの支援として「ユース助成」を創設した。

### 3. 研究助成プログラム

- ・12年ぶりに、基本テーマを「くらしといのちの豊かさをもとめて」に一新するとともに、副次的テーマを「アジアにおける多元性、相補性、協働性」と設定し、趣旨、内容を変更した。

## 30年史について

2005-06年度において、助成プログラム以外で特筆すべきことは『トヨタ財団30年史』の発行である。

『トヨタ財団30年史』の編纂は2003年4月からスタートし、各方面への取材や主要な構成の検討を経て、2005年度から本格的な原稿作成、編集作業に入った。

編集においては、膨大なデータとプログラム・オフィサー(PO)の作成した元原稿、インタビュー記録、関係者からの寄稿などを基にしてリライトを加えるとともに設立にかかわった方々へのヒアリングをもとに書き下ろしたりするなどの作業を進めた。

最終的に「本文編」、「助成実績編」ともそれぞれ400ページを超え、さらにそれらをすべて収録した「CD-ROM」を加えた3部構成とした。

日本語版は2005年度末の2006年3月に、それを質の高い英語で全訳した英語版は2006年度末の2007年3月にそれぞれ完成し、国内外の大学、研究機関、図書館、主要公館、他財団その他の関係先に寄贈した。

## 今後に向けて

### 1. プログラム改善の仕組みづくり

「(社会)公募—選考—助成—報告—評価・解析—(社会)発信」のサイクルのなかで、とくに前半(公募—報告)の各ステージにおいて、申請者とPO、「選考委員会」の三者が連携を強化して議論を深めることがプログラム充実の基本であり、とりわけ申請者(助成対象者)と「選考委員会」を結ぶPOの役割は大きい。このため、POによる助成プロジェクトのモニタリング、完了プロジェクトのフォローを網羅的・系統的に実施することを2006年度から開始した。POは助成プロジェクトを通して社会の今を知り、明日のトレンドを読むことができる。そして何よりもそこに多くのプログラム改善のヒントが埋まっている。また、プロジェクト総体としてのプログラムの成果として、社会発展への手がかかりを見出すことが求められている。今後POは「選考委員会」との連携のもと、一層工夫したモニタリング、フォローが求められる。この活動を踏まえて「プログラム評価・モニタ研究会」を研究助成プログラムの中で発足させた。次年度は他のプログラムを含む財団全体の研究会として位置づけ、プログラム運営の充実に向けて議論を深めたい。

### 2. 統合的運営

財団プログラムの共通目標は、グローバル化とともに起きている地球規模の変容とそれへの対応を明らかにし、地域社会の活性化に寄与することにあると考えている。このもとに、3つの課題——質の領域を重視すること、共生軸発見のためのネットワーク形成、人と人の支えあいによる地域の再構築——を設定し、独立したプログラムを運営している。しかし、3つの課題を抱えている対象領域はともに「地域」であり、しかも、そのなかで課題は相互にオーバーラップしている。研究、実践とアプローチ方法を分けているものの、実践が主体の地域社会プログラムにおいても、より生活、地域に根ざした政策として提言するには、調査・解析機能が求められている。また、研究、解明が狙いの研究助成プログラムにおいても、実社会における実践領域が必要なテーマもある。今後は、各プログラムが相互に連携し活性化を図り、プログラムとしての成果を高め、共通目標に向けて財団としてより説得力・インパクトのある社会への発信に努めたい。

### 3. 公的研究資金との差別化

政府の学術研究費補助金、いわゆる科研費の予算規模は、2006年度は約1,900億円とこの10年間に倍増し今後も増加する傾向にある。相対的に研究費助成の必要性の低下が指摘されているなかで、民間財団としての研究支援の特徴、独自性をどこに求めるかが助成財団の課題となっている。科研費の対象になりにくい、人文社会への応用、実践研究を重視する助成プログラムとして一定の評価を得ている当財団プログラムにおいても例外ではない。この点で、「くらしといのちの豊かさをもとめて」を基本テーマとする研究助成プ



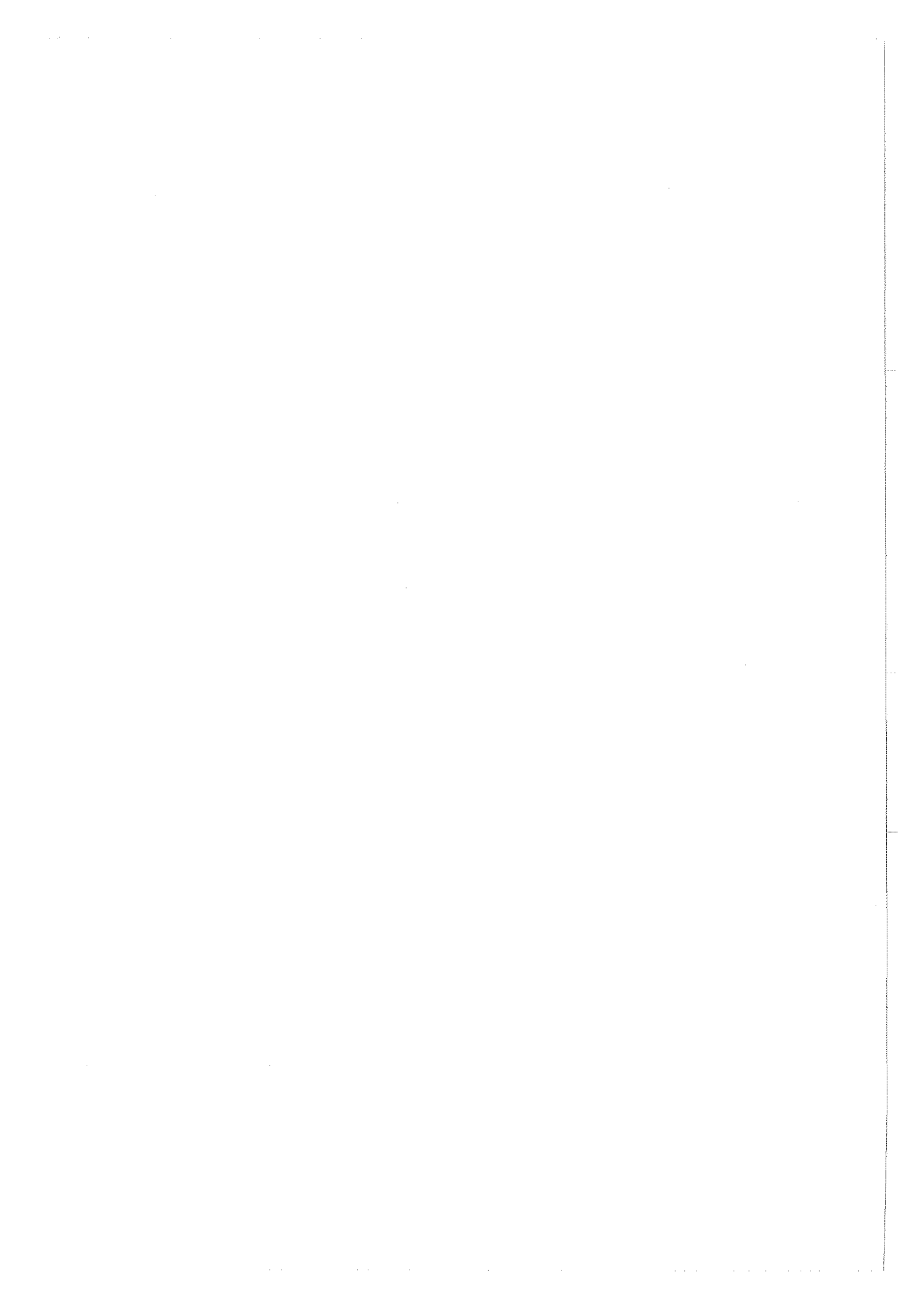
プログラムは検討の余地があると考えている。抽象度が高いがゆえに、応募テーマの幅が広がり、自由度の高い企画につながる反面、プログラムの狙い、考えが絞りきれず戸惑うことも指摘されている。プログラムのテーマ、趣旨は財団から社会へのメッセージでありより簡明であることが望ましい。今後は現実社会の課題に焦点を当てて、その課題解決を狙う研究を促すなど、さらに深掘りした課題設定が望まれる。また、成果の発信においても、純粋な学問研究とは異なり、より社会へのインパクト力を考慮した方法、媒体など工夫したい。なお、プロジェクトによっては、複数年にわたり継続して助成することも検討したい。

#### 4. 社会への発信機能強化

- 1 助成の成果は、助成対象者(グランティ)のプロジェクトの成果にかかっている。このため前半ステージ(公募—報告)をさらに充実させるとともに、今後、助成財団が強化すべき機能は社会への発信と考えている。運営サイクルでは後半のステージ(報告—発信)の充実である。助成成果報告後に必要であれば調査・解析をくわえ、財団として課題解決に向けた問題意識や方向性などを社会に発信、提示し、多様な議論が生まれることを期待したい。財団として成果を社会に公表し、共有する姿勢が求められている。また、後半のステージを強化することにより、財団とより広範な社会の各層、組織とのネットワークが形成され、財団活動基盤の充実につながるであろう。
- 2 これまでの助成活動を通して多くのグランティが各国・地域で活躍している。グランティは財団の財産であると位置づけ、グランティのネットワーク形成を促進し、財団との交流をとおして、財団活動の支援者、理解者としてだけでなく、引き続きパートナーとして地域活性化の人づくり・拠点づくりへの継続的支援につなげたい。
- 3 財団広報活動について、目的、媒体などが整理されてきたが、まだ発信対象が限定され、いわば身内への発信にとどまっている。今後は、社会との接点となる財団広報の‘場’に寄稿などを増やし、いろいろな立場からの情報発信が可能となる体制をつくり、社会とともに歩む財団広報に育てたい。また、財団活動の社会との受発信を充実・強化するうえで、会長、理事長をはじめ役員・関係者の役割とその影響力は大きなものがあり、このサポート体制も強化したい。

#### 5. (財)助成財団センターの組織強化

現在、研究・事業などへの支援、奨学金支給、顕彰活動などを行っている助成型財団は約2,500あり、そのうち約260の財団はトヨタ財団が中心となって設立した(財)助成財団センターに加盟している。民間による公益活動をより社会への影響力あるものにするには、NPO支援などにおいて共同助成やステップアップ助成——先駆的な取り組みには個々の財団が順次助成し、そのたびに事業が成長し社会に定着するようなもの——など、さらに各財団が連携、協力することが求められている。このため同センターが来年20周年を迎えるのを機に、運営、機能強化を他財団と連携し推進したい。



The Toyota Foundation 2005 Annual Report

# トヨタ財団 2005年度年次報告

平成17年度

## 理事・監事

2006(平成18)年3月31日現在(理事・監事は五十音順、敬称略)

会長	豊田達郎	トヨタ自動車株式会社相談役
理事長	木村尚三郎	東京大学名誉教授
常務理事	蟹江宣雄	
理事	天城 勲	文部科学省顧問
	石井米雄	人間文化研究機構機構長、京都大学名誉教授
	岩崎正視	トヨタ自動車株式会社顧問
	奥田 碩	トヨタ自動車株式会社取締役会長
	末松謙一	株式会社三井住友銀行名誉顧問
	立川 涼	愛媛大学名誉教授
	豊田章一郎	トヨタ自動車株式会社取締役名誉会長
	藤井宏昭	独立行政法人国際交流基金顧問
	星野昌子	特定非営利活動法人日本NPOセンター理事
	八城政基	株式会社新生銀行代表取締役会長
	吉川弘之	独立行政法人産業技術総合研究所理事長
	龍澤 武	株式会社トランスアート顧問、株式会社平凡社顧問
	監事	松方 康
山口日出夫		元財団法人助成財団センター専務理事

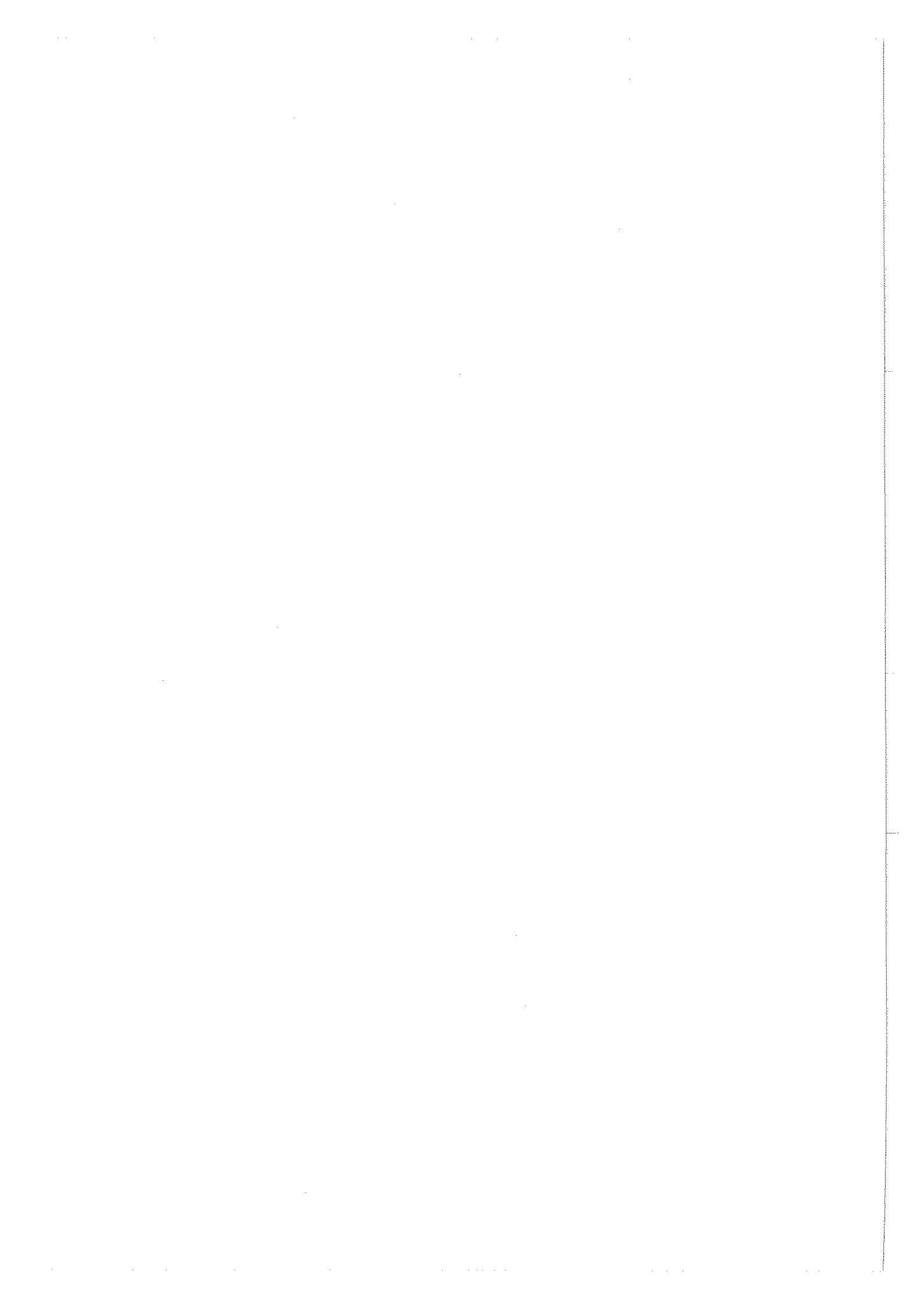
---

## 評議員

2006(平成18)年3月31日現在(五十音順、敬称略)

---

石澤良昭	上智大学学長
今井 敬	新日本製鐵株式会社相談役名誉会長
大賀典雄	ソニー株式会社名誉会長
大木島巖	トヨタ自動車株式会社顧問
勝俣恒久	東京電力株式会社取締役社長
加藤延夫	愛知医科大学理事長・学長
熊谷直彦	三井物産株式会社相談役
佐々木紫郎	トヨタ自動車株式会社顧問
新宮威一	ダイハツ工業株式会社相談役
立本成文	中部大学大学院国際人間学研究科長
張富士夫	トヨタ自動車株式会社取締役副会長
豊田英二	トヨタ自動車株式会社最高顧問
中村桂子	JT生命誌研究館館長
永澤 満	豊田工業大学名誉学長
林雄二郎	財団法人未来工学研究所副理事長
松本 清	トヨタ自動車株式会社顧問
本明 寛	早稲田大学名誉教授
山本幸助	トヨタ自動車株式会社顧問
和田明広	トヨタ自動車株式会社顧問



# I

## 研究助成プログラム

## I-O 研究助成プログラムの概要と活動結果

2005年度の研究助成プログラムは従来の研究助成プログラム(本体)、今年度が最終年度となる4年間限定の特定課題「近代化とくらしの再発見」、に加えて、新たに立ち上がった特定課題「アジア周縁部における伝統文書の保存、集成、解題」、特定課題「助成金が活きたとは」から構成される。

研究助成(本体)は前年度に引き続き「多元価値社会の創造」を基本テーマのもと、

- 1.「多様な諸文化の相互作用——グローバル、リージョナル、ローカル」
- 2.「社会システムの改革——市民社会の発展をめざして」
- 3.「これからの地球環境と人間生存の可能性」
- 4.「市民社会の時代の科学・技術」

という4つの課題が設けられた。そして、4月1日から5月20日まで一般公募を行い、合計で1,089件の応募を得た。

当年度は、次年度の基本テーマの切り替えに向けての移行的なものとして位置づけ、その準備作業として、個人研究の流れに対してよりスケールの大きな共同研究を奨励することを目的として、個人研究への助成と共同研究への助成を統合した。

選考体制は研究助成本体では、後藤乾一(早稲田大学大学院教授)委員長以下全8名からなる選考委員が選考にあたった。

選考の結果、42件1億2,500万円が候補として選出され、第110回理事会において決定した。

申請件数に対する助成件数を採択率とした場合、全体では3.85%ときわめて高い競争率となっている。

特定課題「近代化とくらしの再発見——私たちがみつける地域の歴史」は2002年度に4年間の計画で立ち上がったものであり、今年度が最終年度となった。そのため今年度は継続案件のみを募集対象とした。また、今年度からこれまでの研究成果の公開を目的とする「成果発表助成」を開始した。選考体制は朝岡康二(沖縄県立芸術大学

教授)選考委員長以下3名の選考委員によって実施された。なお、本特定課題の成果発表助成に関しては年2回の公募を実施した。選考の結果、15件987万円が候補として選出され、第110回理事会および、第111回理事会において決定した。

特定課題「アジア周縁部における伝統文書の保存、集成、解題」は、2004年度において幕を閉じたトヨタ財団(旧)東南アジアプログラムの貝葉文書などの郷土文書保存(集成)事業への支援の流れを引き継いだものである。また、対象とする地域は、東南アジアよりも広域的な「アジア周縁部」となっている。選考体制は、クリスチャン・ダニエル(東京外国語大学教授)委員長以下全3名からなる選考委員が選考にあたった。選考の結果、7件1,543万円が候補として選出され、第110回理事会において決定した。

特定課題「助成金が活きたとは」は近年爆発的に増大し、研究者集団に大きな影響を与えているいわゆる外部競争的資金とその評価に関わる課題にあらたな光を当てようというものである。選考体制は石田紀郎(京都学園大学教授)委員長以下、3名からなる選考委員が選考にあたった。選考の結果、3件680万円が候補として選出され、第110回理事会において決定した。

2006年1月11日に、「ユーラシア内陸部研究者の集い」と題して、国際的な枠組みでの研究交流会をおこなった。参加者は、中国(内蒙古)、モンゴル、ロシア、中央アジア地域の歴史、環境、文化を研究対象としている若手・中堅の研究者である。当該地域の抱える研究課題をはっきりさせ、併せて異なる分野の間の交流を促進する効果があったと考える。この後、この研究交流会から新たな企画が生まれることを期待する。なお、この「ユーラシア内陸部研究者の集い」については後日大手メディアが好意的に取り上げることとなった。



[表I-0] 2005年度研究助成プログラム助成実績

	応募件数 (件)	助成件数 (件)	予算 (万円)	助成金額 (万円)
研究助成(本体)	1,089	42	12,500	12,500
特定課題「近代化とくらしの再発見」	17	15	1,000	987
特定課題「アジア周縁部における 伝統文書の保存、集積、解題」	28	7	1,500	1,543
特定課題「助成金が活きるとは」	8	3	1,000	680
計	1,142	67	16,000	15,710

## I-1 研究助成

### 選考について

内海愛子 [選考委員]

日本にある多くの財団の中で、民間色の濃い学問、在野色の濃い学問を支援することを明示的に打ち出しているのはトヨタ財団くらいではないだろうか。アカデミズムを大学の中だけに限定せずに、在野の「知」に目を向け、最小限の支援をすることの中で、その「知」の結実を考えている財団である。巨額の資金をトップ校中心の巨大プロジェクトに注ぎ込む科研費とも適切な距離をとっている。このような財団があることがアカデミズムの世界にも大きな意味をもっていると考える。特に近年、日本では市民団体・NGO・NPOの活動の中には、国際的なそれらの団体とも肩を並べうような力をつけてきているところもある。アカデミズムと在野の境界線も低くなっており、双方の交流も盛んである。学問が批判力を失い、「知」が権力と金になびくことは、市民社会、あるいは地域や海域に生きる人々の危機につながる。トヨタの支援は、巨額ではないが一人一人の研究者や調査者の地道な「知」の活動をサポートすることで、このような危うさに抗していくささやかな力になればと望んでいる。

このような意図の下に毎年、選考が行われている。後藤委員長を中心に、選考にあたる委員の時には厳しい議論が展開される。企画書は多くのスタッフ、選考委員の審査を経由して絞り込まれていく。今年、最終的に理事会に推薦することとなったのは、1,089件の応募案件中42件である。この内訳を見ると、地方大学・首都圏の大学、あるいは中国、韓国、インドネシア、フィリピン、ミャンマー(ビルマ)といったアジア諸国の研究機関、民間の研究機関(NGOを含む)など、その地域・対象は多様である。

ある選考委員は、企画書を見終わった後、「世界の半分の縮図を見ている思いで、目がくらみそうであった……

虚心にひたすらすべてを読もうとつとめた。そうすると、いくつかの問題の塊が見えてきた。たとえば、地域紛争、災害復興、貨幣、自然資源の活用、地域医療、子供の人権など」と感想を述べている。まことに正鵠を得た表現で、理事会に推薦にいたった42件の案件は、大なり小なり、アジアを中心とする世界の問題群に対して、広い意味で研究者や活動家たちが積極的な働きかけを行い、手探りながらも、何らかの答えを見出そうとする実践的、そして学術的な試みである。

上の「問題の塊」という表現を借りながら、推薦案件の一部を鳥瞰してみよう。

「アフガニスタンにおける女性医療従事者の養成」(永井真理)、「カンボジア農村部の妊産婦貧血の実態とその乳児への影響」(宮本和子)、「東ティモール地方保健所職員の医薬品使用の向上をめざして」(樋口倫代)、といった案件は、内戦や外部の大勢力の介入のため、民力が傷んだ土地での保健や医療に携わる人を育てようというものである。その活動を担っているのはいずれも女性であった。「カンボジアにおける子どもの人権擁護に対するNGOの取組みのあり方」(甲斐田万智子)も、これに近い。

アフガニスタン、カンボジア、東ティモールそしてパプアといった地域などでは、これからも外部のNGO(市民社会といってもよい)の一過的ではない支援が求められていくことになるだろう。

「ブータン王国における山菜等野生植物利用とそれに関する伝統知識の伝承について」(松島憲一)、「ミャンマー西部チン州ナマタン国立公園における環境資源の多元的

活用と保全」(藤川和美)、「宮古島の湧水に生息する甲殻類の保全」(藤田喜久)、「佐渡の里地生態系にトキを甦らせる」(関島恒夫)、ミャンマー(ビルマ)南部シャン州インレー湖浮島の農耕体系の調査(K. L. シュウェ)などは、開発の波にさらされている、(トヨタ財団が好んで使う表現に従えば)アジア周縁部の生物や植物などの記録、保全、そして場合によっては再生をめざそうという企画である。ブータンやミャンマー(ビルマ)のような、かつては半ば鎖国をしていたような地域にも開発の衝撃がおしよせ、その生態系を危うくするようになってきている。それは人びとの心をも荒廃させていくのではないだろうか。これにどのように取り組んでいくのか。その意味でも先進国(ほめられたことではない)である日本の体験からなんらかの意味のある示唆と支援が出来るのではないのか、先の企画はこうした意欲的な活動に取り組む人びとによるものである。

『朝鮮総動員体制』の構築過程(1917~1945)とその構築(庵道由香)、「ハンセン病施設における関連資料の整備集成並びに環境保全に関する研究」(宮野秋彦)は、企画の対象も方法も異なるものである。だが、戦前の日本帝国が、植民地朝鮮と宗主国である日本国内において、それぞれどのように動員体制——それを後ろからみれば動員にはあたいしない存在を切っていくものである——を作り上げていったかを明らかにしようという意味で同一線上にある研究である。歴史の叙述と資料整備を通して、歴史認識や今を生きるわれわれに多くの示唆をあたえてくれるような成果が期待される。

「植民地時代の韓半島での日本人による考古学調査の検討」(李基星)、「中国所蔵20世紀前半における日本人研究者による現地実態調査資料に関する調査とカタログの作成」(格日勳)も同じような位置にある研究である。ここでは、日本帝国統治の下で、日本人研究者がどのような課題に取り組み、何を明らかにしようと試みたかが、浮かび上がってくる。現在、日本のアジア研究者たちの多くは、意識的かあるいは無意識のうちにも、戦前のアジア研究の系譜と断絶したところに自らの立つ場所をおくことが多い。太平洋戦争開戦の翌年1942年1年間に発行された南方に関する書籍は大東亜共栄圏関係のものを含めると2,000点に達し、雑誌論文は5,000点をくだらないだろうと言われている。満鉄調査部や朝鮮・台湾での調査や研

究もある。こうした戦前のアジア研究の批判的な継承をふまえたアジア研究の企画書も出されていた。「近代日本人の異文化理解」(高本康子)は、日本の西藏学の源流の一つである西本願寺僧侶多田等観の資料を集成しようとするものである。

「中山道中津川宿を中心とする幕末・維新の歴史的資料の収集、調査および整理」(仁科吉介)、「日韓の海域生活者による漁撈文化形成に関する実証的研究」(伊地知紀子)、「北部九州における近代化遺産の地域的意義についての考察」(山本理佳)、「カンボジアにおける地方都市の歴史的位置付け」(ケオ・K)、「中国周縁部における地域文化育成のための知的支援ネットワークの構築」(包慕萍)、「活き活きとした人と地域づくり」(大崎四郎)、「21世紀の『田舎学』に関する学際的研究」(杉村和彦)、「飯田・下伊那地方の歴史情報に関する調査研究と活用システムの構築」(多和田雅保)といった「塊」が次にある。これは塊の中でもっとも大きいものかもしれない。特定の地域、そしてそれと同じように重要な海域とそこに暮らす人々を対象とした研究企画である。現在世界をおおっている情報と金中心のグローバル化の流れを抑制する上では、地域や海域に積み重ねられた歴史や文化、そして人のもつ力が大きい。これらの企画がそのような抵抗力を明らかにし、さらに活性化する道筋を示してほしい。

「パプアニューギニア、トーライ社会における二つの貨幣」(深田淳太郎)、「世界史にみる貨幣流通の非均質性、補完性についての研究」(黒田明伸)も、上の論との関連が深い。グローバル化に向かう諸力とは別のところに地域や海域がたとうとするのなら、当たり前の事だが、別の貨幣の仕組みが必要になってくる。国家ではなく地域や海域がその信用を作り出そうとするのなら、そのよりどころは何になるのだろうか。

他にも興味深い企画はいくつもある。ただ紙数もつきているので、最後に、来年度の申請を希望されている人が留意してもらいたい点をいくつか挙げておきたい。

第一に、堅実な金額の予算というものが高く評価される。

第二に、もがきながらも自分の枠組みを作ってほしい。その「もがき」は、間違いなく選考委員に伝わる。

第三に、いきなり未来の規範を語るのではなく、歴史の

中にある多様な経験を探ってほしい。過去の現実というものは、机上の議論よりもさらに多くのものを教えてくれる。

第四に、NGOや民間からの申請もさらに望む。

第五に、学問領域にとらわれない、豊かな感性に支え

られた行動力ある独創的な個人研究・調査も依然として待望される。

[後藤乾一選考委員長の所用のため、本選後評は内海愛子委員が執筆しました]

◎助成対象一覧

助成番号	題目 氏名 所属	助成金額(円)
<b>課題1:多様な文化の相互理解と共存</b>		
D05-R-0069 (継2)	鹿児のコミュニケーション手段の選択と支援に関する研究 山之内幹 鹿児島県立鹿児島聾学校 教諭	1,100,000
D05-R-0104	エスニック・トランスナショナル・アクター再考——中国朝鮮族の脱北者への関与を中心に 宮島美花 早稲田大学第一文学部 非常勤講師	640,000
D05-R-0126 (継2)	東アジアの運搬による建造物装飾彩色と壁画の保存修復研究——韓国の通度寺を研究対象として 山内 章 (財)元興寺文化財研究所 彩色資料研究室 室長	6,000,000
D05-R-0131	中山道中津川宿を中心とする幕末・維新の歴史的資料の収集、調査および整理——幕末期における情報ターミナルとしての中津川の視点から 仁科吉介 (特活)中津川中山道歴史文化研究会 理事	6,000,000
D05-R-0148 (中国)	中国チベット民族文化遺産の保護と利用に関する研究 郝 時遠 中国社会科学院民族学・人類学研究所 所長	3,000,000
D05-R-0241	日韓の海城生活者による漁撈文化形成に関する実証的研究——19世紀末以降の社会変化への対応過程として 伊地知紀子 愛媛大学法文学部 助教授	4,500,000
D05-R-0305 (韓国)	植民地時代の韓半島での日本人による考古学調査の検討——その妥当な認識と評価を目指して 李 基星 立命館大学大学院文学研究科 院生	1,000,000
D05-R-0350 (韓国)	在韓華僑に対する差別意識の歴史学的研究——1945年～現在 李 正熙 京都創成大学経営情報学部 助教授	1,210,000
D05-R-0367 (モンゴル)	旧社会主義国における中小企業の現状と課題——モンゴル・カザフスタン・キルギスの人材育成に関する実態調査 ウルジネ・ボロル 専修大学大学院経営学研究科 院生	2,020,000
D05-R-0369 (中国)	中国朝鮮族の形成に関する歴史的研究——国共両党の朝鮮人政策を中心に 李 海燕 一橋大学大学院社会学研究科 院生	1,190,000
D05-R-0430 (継2)	フィリピン都市下層民の文化活動と生活基盤形成に関する実証的研究——マニラ・バラニャーケ市に居住するボクサーとその親族を事例として 石岡文昇 筑波大学大学院人間総合科学研究科 院生	600,000
D05-R-0459	バブアニューギニア、トーライ社会における二つの貨幣——貝貨タブと法定通貨キナの共存に関する人類学的研究 深田淳太郎 一橋大学大学院社会学研究科 院生	1,600,000
D05-R-0607	北部九州における近代化遺産の地域的意義についての考察——北九州・佐世保両市の事例から 山本理佳 お茶の水女子大学大学院人間文化研究科 院生	910,000

助成番号	題目 氏名 所属	助成金額(円)
D05-R-0656	ブータン王国における山菜等野生植物利用とそれに関する伝統知識の伝承について 松島憲一 信州大学大学院農学研究科 助手	4,000,000
D05-R-0717	カンボジアにおける地方都市の歴史的的位置付け——バタンバン州の宗教建築の基礎資料の収集を中心として (カンボジア) ケオ・K. 文化芸術省 特別研究員	2,000,000
D05-R-0740	近代日本人の異文化理解——チベット留学僧多田等観資料の基礎的整理 (継2) 高本康子 東北大学大学院国際文化研究科 院生	1,750,000
D05-R-0782	「朝鮮総動員体制」の構築過程(1917~1945)とその構造 庵造由香 歴史問題研究所 研究員	1,300,000
D05-R-0823	世界史にみる貨幣流通の非均質性、補完性についての研究——自律的で共存的な貨幣システムの可能性を探る 黒田明伸 東京大学東洋文化研究所 教授	3,000,000
D05-R-0842	インドネシア・アチェ州の災害対応過程における情報の整理と発信に関する調査研究 山本博之 国立民族学博物館 地域研究企画交流センター 助教授	4,500,000
D05-R-0862	中国所蔵20世紀前半における日本人研究者による現地実態調査資料に関する調査とカタログの作成 (中国) 格日勒图 内蒙古農業大学草原文化研究所 副所長	3,000,000
D05-R-0988	東南アジア無文字社会(カレン社会)における伝統的染織技術の図録・映像による保存と技術伝承に関する研究 下田敦子 大妻女子大学人間生活科学研究所行動疫学研究部門 研究員	5,500,000
D05-R-0998	日本・韓国・中国の現代大衆文化の比較研究——テレビドラマとポピュラー音楽の生産・流通・消費をめぐって 毛利嘉孝 東京芸術大学音楽学部音楽環境創造科 助教授	5,500,000
D05-R-1001	中国周縁部における地域文化育成のための知的支援ネットワークの構築——内モンゴル自治区・青海のチベット仏教文化遺産の緊急調査をベースとして (中国) 包 慕萍 東京大学生産技術研究所 博士研究員	5,500,000
D05-R-1007	フィリピン南部イスラム教圏における平和と開発に関する記録 (フィリピン) W.I.ギアラル 民間研究者	1,350,000
D05-R-1076	日本の都市近郊農村における国際結婚の現状——愛知県A町の中国人妻の生活適応と性別役割分業を中心に (中国) 賽洪卓娜 名古屋大学大学院教育発達科学研究科 院生	2,320,000
<b>課題2:新しい社会システムの提案——市民社会の構築をめざして-</b>		
D05-R-0172	カンボジア農村部の妊産婦貧血の実態とその乳児への影響——農村地域の女性・子どもの健康を育むための、地域保健活動の実現をめざして(農村部に働く保健行政との共同研究) 宮本和子 神戸大学大学院医学系研究科 院生	2,460,000
D05-R-0336	活き活きとした人と地域づくり——赤米栽培やモノづくりを通して「地元への誇り」と「人びとのつながり」を呼び起こす活動(滋賀県守山市下之郷遺跡の上で) (継2) 大崎四郎 農業	1,850,000
D05-R-0360	21世紀の「田舎学」に関する学際的研究——今立型モデルの構築をめざして 杉村和彦 福井県立大学学術教養センター 教授	4,500,000

助成番号	題目 氏名 所属	助成金額(円)
D05-R-0409	日米英3カ国の比較医療史研究に基づく医療政策の長期的展望 猪飼周平 佐賀大学 助教授	3,000,000
D05-R-0426	アフガニスタンにおける女性医療従事者の養成——問題点の要因分析と将来への提言 永井真理 名古屋大学大学院医学系研究科 助手	4,000,000
D05-R-0527	中国におけるNGOの対外活動に関する調査研究 (中国) 翟 新 上海交通大学 副教授	1,500,000
D05-R-0587	飯田・下伊那地方の歴史情報に関する調査研究と活用システムの構築——生活世界の再生に向けて 多和田雅保 飯田市歴史研究所 研究員	4,000,000
D05-R-0691	カンボジアにおける子どもの人権擁護に対するNGOの取組みのあり方——子どもの権利基盤型アプローチと権利教育の有効性と課題 甲斐田万智子 国際子ども権利センター 代表	2,450,000
<b>課題3:これからの地球環境と人間生存の可能性</b>		
D05-R-0003	黄土高原の植林・森林管理による土壌浸食抑制・水流出安定化手法の開発 (中国) 張 建軍 北京林業大学水土保持学院 助教授	3,000,000
D05-R-0021	ミャンマー(ビルマ)南部シャン州インレー湖浮島上の農耕体系の調査 (ミャンマー) K.L.シュウェ イェジン農業大学 助教授	1,000,000
D05-R-0396	佐渡の里地生態系にトキを甦らせる——住民・行政・大学の協働による生息環境再生プログラムの立案と実施に向けて 関島恒夫 新潟大学大学院自然科学研究科 助教授	4,500,000
D05-R-0460	アジアにおける自動車リサイクルの実態調査および国際的制度化に関する政策研究 寺西俊一 一橋大学大学院経済学研究科 教授	6,000,000
D05-R-0746	ミャンマー西部チン州ナマタン国立公園における環境資源の多元的活用と保全 藤川和美 高知県立牧野植物園 研究員	4,000,000
D05-R-0793	統合された沿岸部農業のモデル——沿岸地域の民力強化とその環境システム保全へと向けた総合的なアプローチ (インドネシア) アーマン・W. ガジャマダ大学農学部 助教授	1,250,000
D05-R-0967	宮古島の湧水に生息する甲殻類の保全——研究者と地域住民とが共同で行う湧水環境の保全と管理 (衆2) 藤田喜久 琉球大学大学教育センター 非常勤講師	2,000,000
<b>課題4:市民社会の時代の科学・技術</b>		
D05-R-0254	東ティモール地方保健所職員の医薬品使用の向上をめざして——標準治療ガイドラインとそのトレーニングにさらに何が必要なのか? 樋口倫代 ロンドン大学衛生学熱帯医学大学院 院生	4,000,000
D05-R-0313	ハンセン病施設における関連資料の整備集成並びに環境保全に関する研究 宮野秋彦 名古屋工業大学 名誉教授	6,000,000

## I-2 特定課題 近代化とくらしの再発見

### 選考について

朝岡康二 [選考委員長]

「近代化とくらしの再発見」というテーマのもと進められている市民グループへの研究助成は、同時期に進行した文部科学省科学研究費補助金による専門研究者の研究「江戸のモノづくり」プロジェクトに連動しながら、地域における技術・文化・生活の継承を再発掘する市民研究として始められてさまざまな成果を上げてきたが、今回、最終年度を迎えることになった。そのために、本年度は新規募集を行わず「継続研究」に限って募集すること、これまでの研究成果の発表に助成を行うこと、に分けて実施することになった。「継続研究」については12件の応募があったが、2件は継続研究とはみなせなかったため除外し、残りの10件について採否を検討した。

各委員からあらかじめ提出された採点を基にして、高得点のものから意見交換を行った上で採択していったが、総じて初年度の活動について高い評価が与えられて、引き続き「継続研究」をおこなう意義を十分に感じさせるものが多かった。しかし、最終年次ということもあって、研究評価をめぐって丁々発止の議論がおこなわれた。また、助成金の使用計画をめぐっても厳しい意見が出されるなどした。

その結果、採択7件、補欠2件、不採択1件、となった。補欠になったものは、芸能の子弟への伝承活動に偏りすぎており、研究計画が不十分であるとされたものや、助成金の使用計画が物品購入に偏りすぎている、などの指摘のあったものである。これらについては、選考委員会の意見を付して、研究計画や助成金の使途の見直しなどを含む再検討をお願いして、その結果によって採択かどうかの結論をうることにした(後日、計画の修正案が提出されて、採択が承認された)。不採択の1件は、これまでの研究活動の蓄積に依拠して概説書を作ろうとする内容で、自由な

市民研究らしさに欠けるとされて、「近代化とくらしの再発見」という観点にそぐわないとして不採択となった。

「成果発表助成」はいずれも過去に研究助成を受けたもので5件の応募があった。ここではどのような視点で成果が表現できるかについて意見交換がおこなわれた。

先に「成果発表助成」の枠組みを検討した際に、地域社会への還元、成果発表の方法の開発など、既存の枠組みを乗り越える市民参加の研究らしい工夫が期待できる、という点で意見の一致をみたので、その観点から採否を決めること、応募の機会が秋以後にも残されているので、問題があるものは再応募していただく、ということにして、ここでは厳しく選抜することになった。

その結果、3件が採択された。

成果発表の形式はさほどユニークなものではなかったが、報告書作成、シンポジウム、成果の公開活動といったものが中心となっており、採択された3件は、中核となる発表形式をはっきりさせた上で、複合的な活動が計画されており、また、地域社会への自覚的な発信がもくろまれていて、その計画は実現可能な具体性をもっていた。

不採択の2件については、次回に手直して再応募していただけるものとする。

以上が選考過程の概略であるが、本プロジェクトは、「江戸のモノづくり」研究の専門研究者との積極的な連携がおこなわれるなど、これまでの市民研究の水準を越える成果をあげることができた。また、多くの地域において市民研究の可能性ははぐくまれながら、それぞれ孤立していて、ともすれば狭い地域的な枠組みに埋没している実情も明らかになってきた。したがって、この成果をどのように展開していくことができるかが、これからの課題である。



助成番号	題目 氏名・所属	助成金額(円)
<b>プロジェクト</b>		
D05-H-001 (継2) (三重)	射和祇園祭囃子の保存と次世代への継承 中村正之 射和祇園祭囃子保存会 会長	500,000
D05-H-002 (継2) (東京(利島))	離島利島(としま)における在来「椿」産業の近代化について——利島椿の製油技術と商品化をめぐる基礎研究 前田清一 利島学術研究委員会 代表	500,000
D05-H-003 (継2) (岩手)	民具から掘り起こす近代化へのあゆみ——岩手県葛巻町小田地区の生活史研究 名久井文明 葛巻町小田地区の民具・生活史研究会 代表	500,000
D05-H-004 (継2) (沖縄)	「沖縄の紙」関連ネットワークづくりについて——製作・復元・保存・研究・普及 安慶名清 沖縄の紙を考える会 代表	500,000
D05-H-006 (継2) (高知)	竹のある暮らし——高知県における竹製民具の利用・製品生産・流通の一事例 梅野光興 とさ民俗文化研究会 代表	500,000
D05-H-007 (継2) (新潟(佐渡))	金山の町相川の暮らしと鉾山技術・その近代の変容について——金銀山開発によって築かれた相川の食生活の諸相から 上林章造 鉾山町文化史研究会 代表	500,000
D05-H-008 (継2) (三重)	みんなで作ろう企画展!「大黒屋光太夫のふるさと研究——探して・調べて・未来へ遺そう」 代田美里 大黒屋光太夫資料研究会 代表	500,000
D05-H-010 (継2) (京都)	日本最古の花街・北野上七軒の現状と将来に関する研究——花街のもつ文化的多面性のコミュニティに果たす役割 太田 達 上七軒花街文化研究会 代表	500,000
D05-H-011 (継2) (沖縄)	沖縄県伊江島の阿波根昌鴻資料の調査と活用 久部良和子 阿波根昌鴻資料調査会 代表	500,000
<b>成果発表</b>		
D05-H-014 (継3) (新潟(佐渡))	布の一生と生活の近代化(シンポジウム・出前講座・展示) 佐藤利夫 佐渡生活伝承研究会 代表	1,000,000
D05-H-016 (継3) (東京)	地域に残る水車の歴史と技術の保存活用に関する研究(小冊子作成) 小坂克信 新車の水輪をつくる会 代表	500,000
D05-H-017 (継3) (鹿児島)	みんなの集成館——わたしたちが見つけ、わたしたちが伝える地域の歴史「島津斉彬と集成館事業」(シンポジウム) 寺尾美保 みんなの集成館 代表	1,000,000
D05-H-019 (継3) (京都)	賀茂季鷹など江戸期における賀茂文化人と賀茂地域文化の調査・研究(シンポジウム) 梅辻 諄 賀茂文化研究会 会長	970,000
D05-H-020 (継3) (長野)	お六櫛製作に関する伝統技術・資料の情報提供を中心としたネットワークづくり 北川 聡 木祖村お六櫛研究会 会長	1,000,000
D05-H-021 (継3) (滋賀)	国友一貫齋の科学性についての研究(公開・交流・伝承・記録) 廣瀬一實 「国友一貫齋」科学技術研究会 会長	900,000

## I-3 特定課題

### アジア周縁部における伝統文書の保存、集成、解題

#### 選考について

クリスチャン・ダニエルズ [選考委員長]

##### 1. 初年度審査結果の概要

「アジア周縁部における伝統文書の保存、集成、解題」は本年度より発足した新しい特定課題である。本年度4月初め、短期間で専門家による会合を開催し選考の方針を決定、公募へ移行するという慌しい立ち上げだったにもかかわらず、応募件数28件は初年度としてはまずまずの出発だったと言える。28件のうち10件はアジア周辺地域在住の研究者や機関からの申請案件であったが、それはインターネットによる公募が功を奏したと同時に、本特定課題に対する需要がアジア地域に潜在することを意味していると選考委員会は受け止めている。さらに、採択件数が7件にものぼり、うち海外からの申請2件が含まれていることから、本特定課題の趣旨に即した堅実な伝統文書保存計画を立てた申請者が多数いたことを反映している点を最初に申しておきたい。

##### 2. 保存の緊急性と地元参加の必要性

近年来、中国やインドのような大国のみならず、アジアの中小国においても奥地まで急速に経済開発が進行している一方、現地で伝統文書を保存する意欲の低下したところが多くなっている。経済発展と政治統合が進む中で、アジア各国がかかえる少数民族の伝統文書が等閑視されていることも事実である。少数民族の伝統文書は多数民族の歴史・文化に寄与しないため度外視される場合もあれば、現地で重視されていても資金不足や専門家の不在で保存ができないといった場合もある。事情はさまざまであるにしても、直面する現実、すなわち民間に保有されている伝統文書が、次第に消滅の危機に晒されているという現実是不変である。国家の大小を問わずこの傾向

が顕著にみられる現状では、アジア各国内で周縁部と位置づけられる少数民族地域における伝統文書を保存するプロジェクトが急務と化している。

緊急性の他にも、地元の人々がいづく伝統文書保存への強い要望も無視できない。伝統文書は歴史と文化の記録であるため、学術研究のみならず地元の人々にとっても重要である。地元の人々にとっては、伝統文書は自らの歴史と伝統を再構築する貴重な資料となっており、伝統文書の保存は地域文化の維持・発展にも貢献し、地元の人々のためになるという意識が広くみられるようになっている。このような地元の要望を取り入れるためにも、また保存事業を円滑に進めるためにも、本特定課題の選考では地元の人々が参加する申請案件に対して高い優先順位を与えることにしている。

##### 3. 助成の地域的広がり

上で述べたような緊急性に対処するために、本特定課題はアジア周縁部を対象にしている。アジア諸国の歴史と文化は往々にして重層する地域や文化圏と絡みあっており、複数の国家にまたがって存在する場合も多い。アジア周縁部は緩やかな概念であるが、ここでいう周縁部とは、1ヵ国の中にも存在し、また大文明や強大な文化圏からみて周縁部に位置づけられた地域と民族を指している。この概念の中には、いわゆる大文明に対して小文明とされた地域や文化圏も含まれ、また国家の大小を問わず、アジア各国内で周縁部と位置づけられる少数民族が居住する地域なども含まれる。

本年度の応募案件はアジア各地域に及んでいたが、採択された案件の地域的分布は、中央アジア2件、モン

ゴル1件、中国西南部1件、東南アジア2件及びインド1件となり、本特定課題を企画した当初に想定した通りの広い地域をカバーする結果となった。地域別にみると、採択された各案件は以下の通りである。

#### 〈中央アジア〉

「新疆・フェルガナ両地域におけるマザール文書の調査・集成・研究」(菅原純)は、中華人民共和国とウズベキスタン共和国の両地域において、地元の研究者と共同で民間に所蔵されているマザール文書を調査し、解題目録を作成して収集文書の影印本による出版を行なう。「ウズベキスタン共和国におけるイスラーム法廷文書の収集・保存・目録化」(堀川徹)は、ウズベキスタン共和国の専門家と協力しながら、同共和国内で民間と研究機関に所蔵されているイスラーム法廷文書などを研究の対象にしている。

#### 〈モンゴル〉

「シルクロード草原の道における仏像遺跡(石窟)出土モンゴル語の古文書の保存と解題」(大野旭(楊海英))は、中華人民共和国内蒙古オールドス市のアルジャイ石窟から出土した文書をマイクロフィルム撮影・影印出版の手法によって保存する企画である。作業は現地の文物管理所と共に行なう体制になっている。

#### 〈中国西南部〉

「貴州省苗族民間文書の調査と保存プロジェクト」(武内房司)は、中華人民共和国貴州省の少数民族である苗族の農民の手に残る社会習俗・政治組織にかかわる文書をマイクロフィルム撮影によって保存プロジェクトである。この地方ではこのような保存事業が初めての試みであり、現地の研究者が強い参加の意志を表明して事業に当たる姿勢を示している。

#### 〈東南アジア〉

「北部ラオスにおける解題付タイ・ナー文書目録作成」(コンドゥアン・ネータヴォン)は、今まで等閑視されたラオスに居住する少数民族のタイ・ナーの文字で書かれた文書を調査・目録化する。これは現地発案のプロジェクトであり、タイ・ナーの専門家も企画に参加している。「ラオ千年王国文学—保存、翻字、翻訳」(P. コレート)は、ラオスにおける千年王国関係文献を収集して現代ラオ文字に転写して注釈をつける企画であるが、現地の専門家の協力体制が整

備されている。

#### 〈インド〉

「東部インド・オリッサ州丘陵地域における伝統文書の目録化と収集・保存・編纂プロジェクト」(杉本淳)は、現在、オリッサ州の周縁部に位置づけられる丘陵地域の旧ケオンジャル藩王国の貝葉文書を影印本出版という形で保存する計画であるが、現地の研究者のほかにも、この文書群に対して豊富な知識を有する現地の僧侶を動員して文書に対する知識の保存・継承をも視野に入れている。なお、インドの周縁部における貝葉文書の保存は、これまでトヨタ財団が東南アジア地域において支援してきた貝葉文書プロジェクトの線上にあると言える。

トヨタ財団は約30年にわたり、東南アジア地域の伝統文書の保存事業を助成してきたが、本特定課題はその保存事業をアジア周辺地域へと転換する試みでもある。本年度採択された案件の地域的広がり、このような伝統文書の保存事業が東南アジアを含みつつアジア周辺地域へと拡大していることを明示する結果となった。

## 4. 来年度以降に向けて

初年度の申請書から、伝統文書を保存する方法として実にさまざまな手段が想定されていることが判明した。最適とされるマイクロフィルム撮影以外にも、デジタル撮影や影印本による出版を企画している申請もみられた。選考委員会では、現地において、伝統文書に対するアクセスを高める手段としては影印本による出版は有効ではあるが、出版費が過大な比重を占める予算を組む刊行目的の申請案件は本特定課題の趣旨から外れているという意見が表明された。保存・集成・解題の作業や地元の人々の参加は、伝統文書と地域によって異なるが、どの企画においても適正な予算を計上して最大の成果を狙うことが望ましいとの指摘もあった。

初年度の審査経過から、アジア地域において伝統文書の保存事業に対して研究者と地元の人々から大きな期待が寄せられていることが確認された。本財団の助成の特質を生かして、伝統文書の保存・普及に資する成果をもたらす企画を促進していきたい。

◎助成対象一覧

助成番号	題目 氏名・所属	助成金額(円)
D05-Q-008	ウズベキスタン共和国におけるイスラーム法廷文書の収集・保存・目録化 堀川 徹 京都外国語大学 教授	2,000,000
D05-Q-011	北部ラオスにおける解題付タイ・ナー文書目録作成 (ラオス) コンドゥアン・ネータヴォン ラオス国立博物館 館長	1,200,000
D05-Q-012	ラオ千年王国文学:保存、翻字、翻訳 (アメリカ) P.コレート 極東学院 准研究員	1,930,000
D05-Q-015	新疆・フェルガナ両地域におけるマザール文書の調査・集成・研究 菅原 純 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 共同研究員	3,000,000
D05-Q-021	貴州省苗族民間文書の調査と保存プロジェクト 武内房司 学習院大学文学部史学科 教授	4,500,000
D05-Q-024	シルクロード草原の道における仏教遺跡(石窟)出土モンゴル語の古文書の保存と解題 大野 旭(楊海英) 静岡大学人文学部 助教授	1,500,000
D05-Q-027	東部インド・オリッサ州丘陵地域における伝統文書の目録化と収集・保存・編纂プロジェクト 杉本 浄 東海大学大学院文学研究科文明研究専攻博士課程後期 院生	1,300,000

## I-4 特定課題 助成金が活きるとは

### 選考について

#### 選考委員会

今年度は、トヨタ財団研究助成特定課題「助成金が活きるとは」の公募ならびに選考がはじめて行われた。まことに試行的な枠組みであり、応募する側の戸惑いもあったかもしれない。応募は8件にとどまり、採択にいたった案件も3件であった。応募件数の増大は、情報の普及を含め、来年度へ向けた課題となるだろう。

その一方で、益する点も非常に多かった。民間助成を活かす方向論の趣旨を汲んだ応募があり、それを受けての方向性ある論議がすすんだことは有意義である。「活きるとは」を検討すると、インジケータ群を扱う案件と、社会コミュニケーション推進を考える案件との2つに分かれるらしいことが、応募内容からも、当日の議論からも確かめられて、この点は今後につながると考えられる。

社会コミュニケーション面が民間助成経緯に含まれるべきであるとの考えは以前からあり、事実そうした思いが審査過程の論議でも受け止められたことは今後の助成決定過程にもおおいに影響するものとなるであろう。社会を横に展開するコミュニケーション面に現実味があり、それを裏付ける構造もありそうである。

安全・健康(もう少し広くいって、ウェルビーイング)に取り組むさいには、リスク評価(ウェルビーイングまで含めれば、社会生活の質の向上に向けた現実の動き方のベクトル評価に当たる)のためのインジケータ群のほかに、「リスクコミュニケーション」を大いに重視される。「リスクコミュニケーション」は、リスクの存在と質、それへの個人・集団の取り組みにかかわる情報と意識の横展開と、その取り組みの近未来を含めた方向性／持続性の総体推進を意味する用語である。このコミュニケーションは、当事者間の連携に当たる面となる。現実の安全健康・ウェルビーイングの取り組みでは、

インジケータ群と並んで注目されている面に他ならない。それとアナロジーの効く「社会コミュニケーション」面が民間助成取り組みにも認識されねばならない。

今年の応募は、選考委員の感想の通りに、やや未熟成ともいえる。しかし、上記の2つの面をつく応募がそれなりにきちんとあったことは、前向きに受けとめることができると考える。「活きるとは」の提言が、さらに一般の研究助成応募者と社会にどう受け止められていくかの論議にまですすむと、この特定課題の企図が「活きるとは」と思われる。来年度以降の積極的な応募を期待したい。

採択にいたった3案件についてコメントをするのは、たしかに本特定課題の今後、とりわけ将来の応募者に役立つだろう。各応募者の思いとの相互作用の上でだが、試みに以下のようにコメントをしてみる。

「尾鷲『ロマン座』に、映画の日をもう一度——研究者と地域の人たちがともに活動して助成金を『活かす』とは」(鳥岡哉 京都大学大学院文学研究科)

地域の人たちと研究者が同じ視線にたって取り組み、成果を共有して出してゆく面に焦点を当てていくことは、今回設定した特定課題に対して、きわめて有意義と思われる。競争的応募による民間助成金がどう活かされていくかを検討する立場からは、研究手法の成否のみでなく、そうした研究手法や研究成果提示が持つどういう点や特性が「助成金が活きる」ことにつながるか(そして、その理由は何か)の検討もぜひ必要と考えられるからである。そこ

で、本特定課題の趣旨を汲んでくださって、そうした観点を入れた助成金の使い方が本来望ましいのではないかと一般化を念頭に置いた検討が加味されることをおおいに期待するし、本申請は期待できると考える。例えば、民間助成金の特質からみでの助成のあり方をさぐる意味で本企画の研究手法および成果提示の有効性を検討すると意図を明確にすることがよいのではないかと思われる。

「教育助成の成果を構成する諸要因の探求」(波多野和彦  
独立行政法人メディア教育開発センター助教授)

競争的資金の配分に当たって「何が大切か」を明らかにしていくことは、本特定課題にとって重要な点である。教育改善のための研究受託を例にして、この面の検討をしていくに際して、案件採択が積極的に新たな方向付けや課題遂行の機会になると考えられる。取り上げる指標群の妥当性の検討に合わせて、そうした助成金配分が

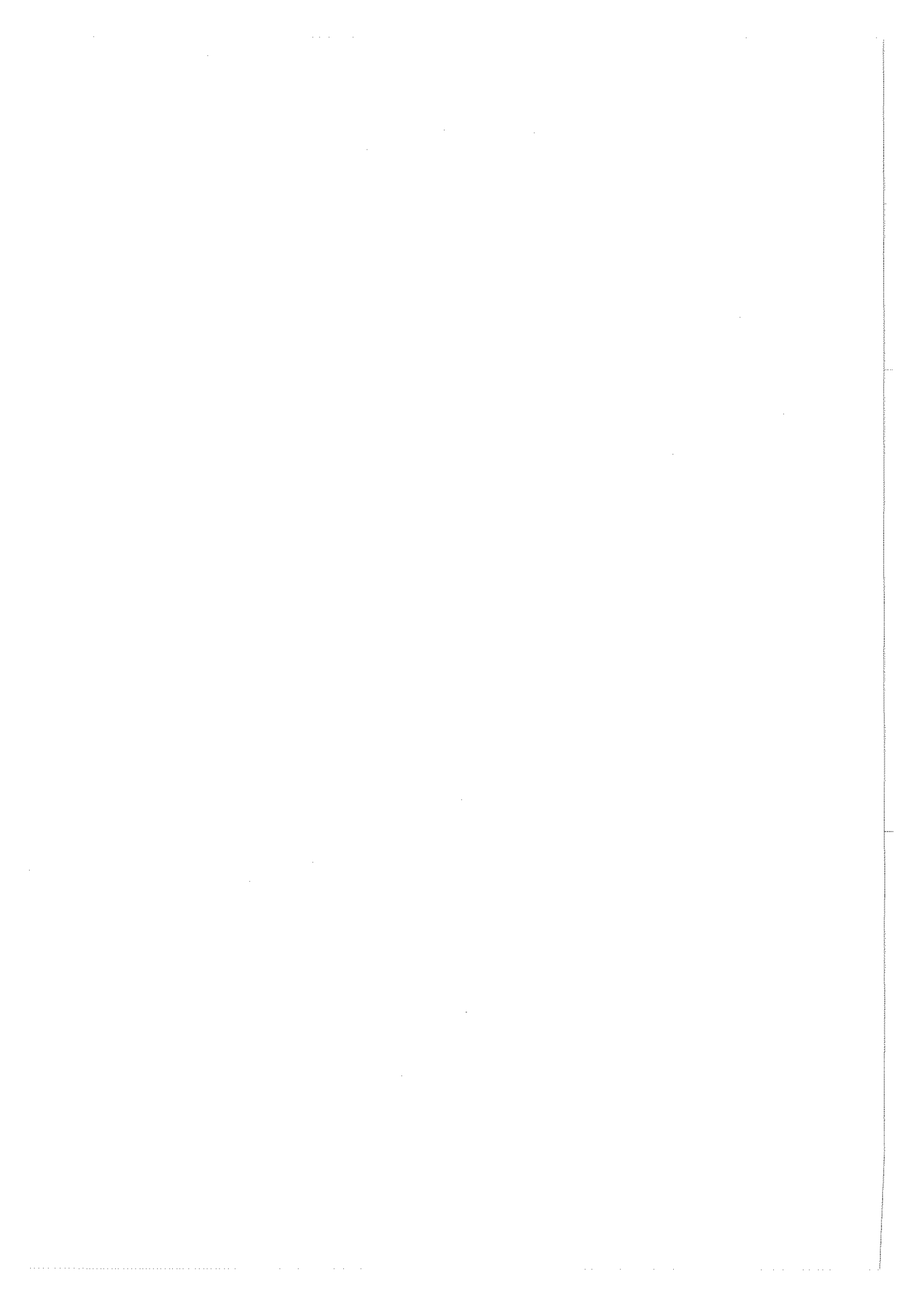
社会に対して持っている波及効果の面も検討され、このような助成金配分の持つ効用について多少とも一般化した考察を加えられることを期待する。教育改善への寄与としての応募案件評価を行う指標の構成をみるとともに、それらの応募採択が助成金配分の波及効果にどのように貢献していくかの視点からも検討されるものと期待する。

「研究者の研究評価観に関する研究——人文・社会科学  
研究、分野横断型研究を中心に」(緒方三郎 財団法人未来  
工学研究所主任研究員)

本特定課題では、研究助成金を活かす立場から、研究評価と助成事業運営とを幅広く扱うこととなる。その意味で、本研究内容に沿った検討はきわめて有意義であると思われる、との期待が選考委員会が本申請を採択した理由である。ただし、面接調査対象者数や面接手法をさらに吟味して研究内容の質的向上を図ることを期待する。

◎助成対象一覧

助成番号	題目 氏名 所属	助成金額(円)
D05-J-001	尾鷲「ロマン座」に、映画の灯をもう一度——研究者と地域の人たちがともに活動して助成金を「活かす」とは 島岡 哉 京都大学大学院文学研究科行動文化学専攻 院生	3,500,000
D05-J-003	教育助成の成果を構成する諸要因の探求 波多野和彦 独立行政法人 メディア教育開発センター 助教授	1,300,000
D05-J-005	研究者の研究評価観に関する研究——人文・社会科学研究、分野横断型研究を中心に 緒方三郎 財団法人 未来工学研究所 主任研究員	2,000,000





# II

## 地域社会プログラム

## II-0 地域社会プログラムの概要と活動結果

2005年度の地域社会プログラムは「地域社会の再構築を目指して—支えあう暮らしのち」というテーマの下、10月1日から11月20日まで一般公募を行い、合計で467件の応募を得た。当年度は新テーマでは2年目にあたる。

選考体制は姜尚中(東京大学大学院教授)選考委員長以下全8名からなる選考委員が選考にあたった。選考の結果47件5454万円が候補として選出され、第111回理事会において決定した。申請件数に対する助成件数を採択率とした場合、全体では10パーセントとなっている。

前年度の採択案件の評価と当年度の運営方法について議論するために、2005年7月に、選考委員による「評価会議」を開催した。その結果、応募書類、説明会を含めた広報、選考基準等については概ね肯定的な評価となった。一方で、「助成成果の社会化」については、地方新聞

社との「協力体制の強化」といった次年度以降に向けての課題も提案された。

また、プログラムの趣旨「地域社会の活性化・再構築」、「支えあう暮らしのち」に沿う採択案件を増加させるために、地方(和歌山、長崎、徳島)での応募説明会の実施等、さまざまな機会で趣旨説明を実施した。

2006年4月に初年度同様に助成団体の交流促進を目的として、助成決定者を対象とした贈呈式を開催し、各地方から多数の参加を得た。

総じて、地域社会の抱える深刻な問題への取り組み、各地域における資源等の活用を通じての創意工夫等、「下から」芽をふきつつあるさまざまな試みを支援する傾向にあるといえる。

[表II-0] 2005年度地域社会プログラム助成実績

	応募件数 (件)	助成件数 (件)	予算 (万円)	助成金額 (万円)
活動助成	366	35		3,731
成果普及助成			5,500	226
				1,497
計	467	47	5,500	5,454

### 選考について

姜尚中 [選考委員長]

#### 1. はじめに

地域社会プログラムは、「構想諮問委員会」の中間答申の提言を受け、2年間の試行的なプログラムとして昨年度より開始し今年が最終年度(2年度目)であった。当プログ

ラムの狙いは、要約すれば、いのちと暮らしを支え、育む基本的な生活の場である地域社会の活性化に資することにある。

この狙いに基づいて、当プログラムでは、3つの点に工

夫をこらしている。第一に、応募・採択件数の分布を大都市に特化させず、可能な限り地域分散型に切り替える、第二に採択件数を増やし、多くの地域の取り組みのニーズに応える、第三に、助成金額が少なくても、それを効率的かつ選別的に活用できるような応募案件を選考する、というもので、この基本姿勢は、昨年度と同様である。

こうした基本姿勢のもとに、以下の選考基準を重視した。①地域社会活性化の触媒的な役割が認められる、②資源の有効活用がはかられている、③非営利性と公開性が確保されている、④実験的な試みであるものは取り上げる、そして⑤社会への情報発信の工夫が伺える、こと等である。

2年間の期限付きのプログラムであるため、その成果と評価については、今後も検討を続けていくこととなるが、採択件数を増やし、同時にその地域的なバランスをはかるといふ上述の目的はほぼ果たされたと言える。この地域社会プログラムを財団のひとつの柱にし、今後の発展をはかる上で、一定の成果をもたらしたものと評価できる。

## 2. 応募の状況

まず、応募件数については、応募総数は467件と、ほぼ昨年度並みの応募をいただいた。ただ、「広域ネットワーク」分野への応募が減少していることが、大都市圏からの応募が減少していることと関係しているのではないかと推測される。

応募件数の地域的な分布状況を見ると、応募は46都道府県にまたがっており、昨年度よりも、さらに「地域分散型の傾向」に拍車がかかったと言える。この事実は、本プログラムの所期の目的のひとつが果たされたことを意味しているが、3カ所(和歌山、徳島、長崎)での応募説明会の実施、3カ所(北海道、秋田、長野)での「NPO支援財団研究会」によるシンポジウムにおけるプログラム説明の実施、の効果があらわれたものと思われる。実際、上記説明会およびシンポジウムの実施地域からの応募件数は増加している。

このような応募件数が地域分散型になったのは、本プログラムが、敷居の高くない、身近なプログラムと受け止められていることも一因ではないかと推測されるが、応募概況の詳細からは、県庁所在地からの応募が、それ以外の地域と比較すると多い等、「格差」の問題も露呈している。

また、組織形態について見ると、任意団体からの応募

件数の割合が、全体の50パーセントに達しており、一方でNPO法人からの応募数の割合は、減少している。また、以前は応募がなかった組合等の法人形態からも応募があるなど、多様化、広がりがでてきているように思われる。

なお、応募テーマについては、「社会福祉」、「保健・医療」、「人権」といった「人のいのち」を扱うテーマが全体の3割と多い。また、「芸術・歴史・スポーツを媒介とした共同体づくり」、「まちづくり」、「地域における子ども・青年・教育問題への取り組み」といった足元(地域社会)に目を向けた応募も合計すると全体の4割となっている。基本テーマ「地域社会の再構築を目指して——支えあうくらしのいのち」が、受け入れられつつある証左ではないかと思う。

## 3. 選考の過程と採択案件の特徴

採択された案件数は、応募総数467件のうち47件にのぼり、10パーセントを上回る採択率であった。本年度の採択案件についてなべて言える特徴は、粒揃いの、身の丈にあったプログラムが多かったことである。その特徴は以下の通りである。

第一にほとんどの案件で応募金額が絞り込まれ、リーズナブルと評価できる予算での実施計画になっていることがあげられる。この点は、採択案件数の増加を目指しつつ、集中と選別によって助成額の効率的な配分を図ろうとする本プログラムの意図が、前年にも増して周知されるようになったことを示唆している。

第二に、採択案件が、27都道府県にまたがり、地域分散型の分布状況が実現されたことである。首都圏に特化したような採択案件の分布状況が是正され、北海道や東北、北陸、四国、九州など、多くの地域にゆきわたったことは、本プログラムが、全国的な広がりをみせつつあることを意味している。

第三に、いのちとくらしを支える「基礎社会」の再生、活性化に向けて、それぞれの地域の歴史や環境、人的ネットワークや資源に応じた積極的な取り組みが生まれつつあることである。この点も、本プログラムの趣旨に合致したプロジェクトが確実に立ち上がりつつあることを示している。

以上のように採択案件は、地に足のついたプロジェクトで占められているが、その選考は、前年度と同じく次のようなプロセスで進められた。

まず、選考に先立ち、各委員が担当する応募案件から

「推薦」と「準推薦」の個別評価を募り、選考委員会の基礎資料とした。次に選考委員会を2月上旬に財団会議室で開催した。諸般の事情により2名の委員が欠席せざるをえず、6名の出席による選考となった。なお、欠席の2名の委員からは事前に評価表とコメントを提出してもらい、その内容を適宜、事務局が紹介する形で選考過程に反映させるようにした。

選考委員会はまず、選考のねらい、要件、進め方、その手続きなどについて共通の了解をうることから始まった。次の6点にわたって共通了解が得られた。①採択率は10パーセントを確保すること。②地域分散型の採択を心掛けること。③応募団体の活動歴と本年度予算規模を参考に、効率的な助成額の供与につとめること。④本プログラムは2年度のため、継続案件が5件残っているが、新規案件と横並びで評価すること。⑤「推薦」2以上の案件は、採択を原則とし、採択決定の場合には、同時に金額の査定を行うこと。⑥「準推薦」のうち、検討希望案件を確定し、「推薦」1の案件とともに採択の有無を決定し、助成額の査定を行うこと、以上である。

本年度は、冒頭でも指摘したように、粒揃いの案件が多かったせいか、各委員の「評価表」にバラツキは見られず、「推薦」と「準推薦」の絞り込み、取斂が際だっていた。その結果、選考過程も円滑に進み、各委員の満足のゆく総意が得られた。選考に要する時間も規定の枠内に収まり、効率的かつ充実した選考の成果が得られた。

採択案件数とその基本的な特徴については、上記の通りであるが、その内容に踏み込んで言えば、それぞれの地域の人的ネットワークや自然、遺跡や建造物など、身の丈にあった資源を発見、活用し、地域社会の活性化に繋げようとする創意工夫が特徴的である。このような傾向の案件は今後も増えていくのではないかと予想されるが、とくに本年度の場合に際だっていたのは、淡路島や三宅島、トカラ列島など、いわゆる「離島」からの応募が多かったことである。この傾向が一過性のものなのか、それともより定着していくのか、その動向は今後の課題であるが、本プログラムの新規開拓分野として注目してゆきたい。

本年の選考過程を振り返って思うのは、難病者や機能障害者、高齢者の社会参加や若者の就業問題、「ニート」や不登校、引きこもりなど、地域社会の抱える深刻な問題に取り組もうとする案件が一定の数を占める一方、上記のような資源活用型の案件も確実に増えつつあることである。このようなふたつの類型の案件の間にどんな関係が見られるのか、これもまた今後の課題であるが、例えば「障害者機織り施設産産施設」によって温泉街の活性化を図る「ケアタウン浅間温泉」のプロジェクトのように、両者を繋げようとする試みが立ち上がりつつあることは注目に値する。

地域社会に「下から」芽を吹きつつある様々な独自の試みをできるだけすくい上げていく試みを今後も続けてゆきたい。

## II-1 活動助成

### ○助成対象一覧

助成番号	題目 氏名・所属	助成金額(円)
	<b>活動</b>	
D05-L-028	ふるさと文化財の森を育てる 〔福井〕 小堂清之 ふるさと文化財の森を育てる会 代表	1,400,000
D05-L-044	みんなで耕す(小)学校 草の根農業小学校の開催 〔滋賀〕 関田 哲 農業小学校をつくる会 代表幹事	900,000
D05-L-047	障害(児)者の余暇活動サポート事業 〔徳島〕 梶川みね子 (特活)サポートゆう 理事長	1,200,000
D05-L-065	地域が抱える薬物問題「再犯、低年齢化」の予防 〔三重〕 南川久美子 三重ダルク運営委員会 委員長	770,000
D05-L-080	精神障害者にもあかるく社会参加できる事業 〔沖縄〕 池間平治 (特活)マーズ 理事長	1,200,000
D05-L-085	出会い、つながり、地域再生 〔石川〕 森 要作 (特活)ワネススクール 理事長	500,000
D05-L-086	ボランティア育成と実践交流(ねたきりになら連の活動から学ぶ) 〔徳島〕 石川富士郎 ねたきりになら連 代表	1,000,000
D05-L-090	ニート・ひきこもり・不登校の青少年の地域参加に向けた支援 〔京都〕 谷 圭祐 (特活)京都教育サポートセンター 理事長	1,000,000
D05-L-100	三宅島火山の魅力と噴火の教訓を全国に発信 〔東京〕 宮下加奈 ネットワーク三宅島 代表	1,000,000
D05-L-116	トカラ列島共生・共助の仕組みで島の再生、鳥起しプロジェクト 〔鹿児島〕 牧口光彦 (特活)トカラ・インターフェイス 代表理事	1,200,000
D05-L-132	足尾の山に100万本の木を植えよう 〔栃木〕 神山英昭 (特活)足尾に緑を育てる会 会長	1,000,000
D05-L-135	多摩地域における多文化共生の情報ネットワークづくり 〔東京〕 羅 休 (特活)たちかわ多文化共生センター 理事・事業委員会委員長	1,400,000
D05-L-136	旧産炭地域における暴走族離脱促進・地域教育向上事業 〔福岡〕 金 泰泳 田川市地域活性プロジェクト実施委員会 事務局長	600,000

助成番号	題目 氏名 所属	助成金額(円)
D05-L-145	視覚障害者の情報支援と肢体障害者の就労を結びつけるネットワーク事業 (鳥根) 三輪利春 (特活)プロジェクトゆうあい 理事長	1,200,000
D05-L-167	地元の“達人”の技・価値観・文化を子どもたちへ伝えるための仕組みづくり (静岡) 広瀬敏通 (特活)ホールアース研究所 代表理事	1,500,000
D05-L-180	しゃくなげ学校「賑わい空間創出プロジェクト」——里山の資源を活かした地域再生プログラム (温賀) 井阪尚司 (特活)蒲生野考現倶楽部 理事長	1,200,000
D05-L-187	堺市における重度身体障害者の訪問ききとり調査活動 (大阪) 野村 博 堺重度身体障害者訪問ききとり調査実行委員会 実行委員長	1,500,000
D05-L-226	劇場のアウトリーチ活動と小学校における舞台表現活動指導人材ネットワーク形成事業 (北海道) 岩崎義純 札幌市こどもの劇場やまびこ座 館長・プロデューサー	1,000,000
D05-L-236	「地産地消の料理教室」を起点とした郷土食に関わる人・食材・料理法のネットワーク作り (秋田) 谷口吉光 地産地消を進める会 代表幹事	1,000,000
D05-L-259	認知症でもだいじょうぶ・だいじょうぶ大作戦 (東京) 香丸眞理子 (特活)アビリティクラブたすけあい 理事長	800,000
D05-L-260	新潟県魚沼地域における外国人花嫁の定住支援のためのネットワークの構築 (新潟) 大平悦子 うおぬま国際交流協会 運営委員・日本語プログラム担当	1,000,000
D05-L-273	歩き出した養成講座で地域を支える「くらし改善のバリアフリーアドバイザー」育成 (熊本)	1,200,000
D05-L-276	障害者機織り授産施設による、温泉街のまちなみ保存と空き店舗による賑わいの創出 (長野) 白木 力 バリアフリーデザイン研究会 事務局長	1,000,000
D05-L-285	食で地域をつなぎ直す——真室川もてなしの形づくり (山形) 水澤勇一 (特活)ケアタウン浅間温泉 代表	1,000,000
D05-L-295	コミュニティFM・精神保健定時番組の企画・取材・運営事業 (神奈川) 佐藤正彌 真室川里山文化研究所 理事長	540,000
D05-L-296	精神障害者グループホームのQOLに関する第三者評価基準の設定——地域に施設型囲い込みを作らないための方略の点検 (茨城) 横山 滋 (特活)ピアたちばな 理事長	1,200,000
D05-L-315	白神の「桃源郷」復元事業 (秋田) 吉田昭久 (特活)茨城県精神障害地域ケア研究会 代表理事	1,200,000
D05-L-316	牛のいる鳥づくりのための「フンデン義勇牛基金」立ち上げ (新潟) 大高孝雄 手道坂活用研究会 会長	1,000,000
	十文字修 佐渡の牛1200年倶楽部 代表	

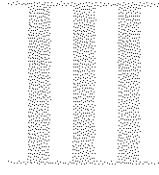
助成番号	題目 氏名 所属	助成金額(円)
D05-L-340	阿蘇の大切な草原を守るため、草の利用を拡大させるプロジェクト (熊本) 吉田愛梨 (特活)九州バイオマスフォーラム 理事長	1,200,000
D05-L-347	スローでナチュラルな明日のために「民家の甲子園」を成功させる (香川) 亀山啓司 民家の甲子園実行委員会 実行委員	1,000,000
D05-L-365	若者たちの高齢者支援活動 (東京) 渡辺絵梨子 グループみつばち 代表	1,200,000
D05-L-366	淡路島の空き家と観光地における「淡路島アートフェスティバル2006」の開催と地域コミュニティの拠点づくり (兵庫) 山口久仁子 (特活)淡路島アートセンター 理事長	1,000,000
D05-L-386	中山間地域におけるCSA(Community Support Agriculture)プログラムの検討 (新潟) 大滝 聡 (特活)都岐沙羅パートナーズセンター 理事	1,200,000
D05-L-424	地域社会連携を基盤とした「ぎょしょく教育」の実践活動 (愛媛) 若林良和 えひめ農林水産業育み(はぐくみ)研究会 代表	1,200,000
D05-L-427	非行からの再生——再生塾-YAR (Youth As Resources) (大阪) 吉見れい Japan Youth Treasure House 代表	1,000,000

## II-2 成果普及助成

### ◎助成対象一覧

助成番号	題目 氏名、所属	助成金額(円)
<b>出版</b>		
D05-L-084	「コミュニティカフェの整備・運営ノウハウ紹介とコミュニティカフェの意義について」に関する出版 〔橋本〕 陣内雄次 ときぎ市民まちづくり研究所 代表	600,000
D05-L-094	「リゾート計画によらず、自然を活かした環境教育、エコミュージアムを目指して」に関する出版 〔高知〕 前田些代子 大手の浜なぎさの会 代表	750,000
D05-L-278	「外国人の医療講座の記録『外国人の医療と福祉～病院・地域で外国人にであったら～』」に関する出版 〔東京〕 矢野まなみ 移住労働者と連帯する全国ネットワーク 事務局長	910,000
<b>広域ネットワーク</b>		
D05-L-070	阪神大震災体験手記集全10巻のインターネット公開 〔兵庫〕 高森香都子 阪神大震災を記録しつづける会 代表	870,000
D05-L-178	地域をつなぐ動画ネットワーク—Connect & Communicate the Planet 〔東京〕 白石 草 (特活)OurPlanet-TV 代表理事	2,400,000
D05-L-246	人身売買被害者支援の連携の構築—地域・国境を越えた支援に向けて 〔東京〕 齋藤百合子 人身売買禁止ネットワーク(JNATIP) モニタリングプロジェクトチーム共同責任者	2,500,000
D05-L-270	12時間美術館:知識と思考の配信者—小さなコミュニティーのゆるやかなネットワーク 〔東京〕 小澤有子 (特活)アーツインシアティヴトウキョウ 理事長	2,000,000
D05-L-271	「女性の視点」で考える防災・災害復興—女性センターを核とした広域ネットワークを活用して 〔愛知〕 渋谷典子 (特活)参画プラネット 代表理事	1,500,000
D05-L-279	女性農業者ネットワーク活性のためのワークショップとコミュニティ構築 〔福井〕 山崎洋子 (特活)田舎のヒロインわくわくネットワーク 理事長	1,000,000
D05-L-402	地域における視覚・聴覚障害者にとっての放送バリアフリー 〔大阪〕 高田英一 (特活)シーエス障害者放送統一機構 代表理事	2,000,000
D05-L-410	『いのちの電話帳』作成プロジェクト 〔東京〕 清水康之 (特活)自殺対策支援センター ライフリンク 代表	1,500,000
D05-L-414	「子どもが育つ地域社会」の新しいデザインづくり事業 〔福岡〕 大谷順子 (特活)子どもNPOセンター福岡 代表理事	1,200,000





# ネットワーク形成プログラム



## III-0 ネットワーク形成プログラムの概要と活動結果

2005年度のネットワーク形成プログラムは、研究助成のサブ・プログラムであった「アジア隣人ネットワーク」を予算強化した上で正式プログラムとして独立させ、「東南アジア地域研究交流プログラム(SEASREP)」および「成果発表助成」とあわせて「ネットワーク形成プログラム」として再編成した。SEASREPについては、現地化を図るため

事務運営をSEASREPカウンスル事務局(マニラ)に移管した。2004年度をもって東南アジアプログラムは幕を閉じたが、そのプログラムで助成を行った案件の成果の公開を目的として、成果発表助成には当該プログラムの受け皿としての予算枠を設定した。

## III-1 アジア隣人ネットワークプログラム

2005年度のアジア隣人ネットワークプログラムはアジア各地の具体的な課題発見・解決に資する研究者、実務家、実践家の出会い、共有、相互協力を促進し、さらにそれに関連する情報を相互発信させるための企画を支援するものである。当年度は4月1日から5月20日まで一般公募を行い、合計で86件の応募を得た。

選考体制は濱下武志(京都大学東南アジア研究所教授(当時))委員長以下全6名からなる選考委員が選考にあたり、16件、総額5860万円を助成対象として、第110回理事会において決定された。

申請件数に対する助成件数を採択率とした場合、全体で18.6%となった。

2005年度は、独立したプログラムとして公募を行った初めての年であり、過去2年間の内容を継続展開することを基本方針とした。そして、「ネットワーク形成プログラム」の核となるプログラムとして、その趣旨を明確化し、本プログラムで考える「ネットワーク」とは何かということへの理解を深めることを目的として、シンポジウム「アジアの人々をつなぐネットワーク——その多様な試み」や助成対象者等を講師とした勉強会などを開催した。

〔表III-1〕アジア隣人ネットワーク助成実績

	応募件数 (件)	助成件数 (件)	予算 (万円)	助成金額 (万円)
アジア隣人ネットワーク	86	16	6,000	5,860

### 選考について

#### 濱下武志 [選考委員長]

「アジア隣人ネットワーク」プログラムの趣旨は、応募要項によると以下のように示されています。

「近年、人の移動の増大と情報通信技術の発達によって、人の相互移動、情報の相互発信が作り出すネットワークが新たな価値を生み出し始めています。トヨタ財団は、アジアにおける『多元性と相補性と協働性』の追求をめざして、アジア域内の研究、実践のためのネットワーク作り、ネットワークの強化を進めようと考えます。このプログラムでは、アジア各地の具体的な課題解決に資する研究者、

実務家、実践家の出会い、交流、相互協力を促進し、さらにそれに関連する情報を相互発信させるための企画を重点的に支援します。」

ここで強調されていることは、現代社会の変化、流動化、多様化、情報化などのこれまでとは異なる、新たな動きを前に、「ネットワーク」という「しくみ」を考えることをとおして、そして、「ネットワーク」そのもののありかたにも注目して、そこに比重をおいて企画を立てることを促しています。

さらに、そのためには、「人の相互移動、情報の相互発信が作り出すネットワークが新たな価値を生み出し始めています。」と強調されていますように、現代世界の「相互性」「流動性」の動きに対応したひとびとの動きやつながりのあたらしいつながりを追求しようとしています。そこにみられる「トヨタ財団は、アジアにおける『多元性と相補性と協働性』の追求をめざして、アジア域内の研究、実践のためのネットワーク作り、ネットワークの強化を進めようと考えます」というメッセージに集約されていますように、これまでのいわば個別単独の企画を支援するのではなく、ネットワークをとおしてはじめて実現される「相互性」「流動性」を考えようとする企画が必要であり、それによって時代の変化に対応する新しい企画を開拓する方向をめざそうとしています。

このようにして出発した「アジア隣人ネットワークプログラム」は、意欲的な企画が応募されつつあり、今後さまざまな可能性をきり開きつつあると考えられますが、移行期・過渡期にみられる、そして何よりも多様な変化が同時並行的に、また複合的に起こっていることを背景に、よりいっそう検討していく必要があることもいくつか見られます。

選考過程では、以下の分野に大別して検討しました。

継続案件4件、社会問題17件、自然環境17件、開発協力10件、芸術9件、歴史7件、医療7件、地域研究4件、IT関連2件、その他9件であり、これに「ネットワーク」に関する特徴の議論が加わって、総合的な判断が行われました。

その結果、採択されたプロジェクトは、別表のとおりです。選考委員会の討論では、各委員のネットワークに対する考えが多様に示され、必ずしも共有されていたわけではないのですが、これは、ネットワークそれ自身が最終的に採択されたプロジェクト全部が、その内容自体は意義あるものであると思いますが、ネットワークプログラムそのものとして助成するには、さらに検討する領域も残されているという点も指摘されました。申請企画のほほすべてに共通して見られる特徴は、「プロジェクト」と「ネットワーク」の二つが、必ずしも有機的な相互連動性を持っていないことでした。すなわち、「プロジェクト」がまずあり、そ

れを「ネットワーク」する、あるいは広げる、という企画が多く見られました。この点は、研究支援プログラムとあまり区別されないという印象を持ちました。あくまでも、「ネットワークプログラム」ですから、「ネットワーク」の部分を中心として、そこに、もっとさまざまな工夫と取り組み、試行、挑戦がありうると思いました。

「ネットワーク」という一つの表現では包みきれない、多様なつなげかた、むすびつけかた、相互交流活動、コミュニケーション、などなどが考えられます。そこでの言葉や表現方法などももっと工夫が考えられると思います。その意味では、ネットワークの奥にある、その企画に個性的なネットワークを必ずしもネットワークという言葉そのものには必ずしもこだわらず、多様に表現することによって、「ネットワーク企画」が充実するのではないのでしょうか。目に見えない部分を、企画の中でどのように表現するか、とりわけ、「双方向性」「相互性」にかかわる課題と困難性は何か、という予測やシミュレーションが必要ではないかと思えます。

ネットワークそれ自身は、なにか固定した形式や形態があるものではなく、対照に応じて変化するものであるといえます。その意味では、今後、本プログラムは、応募者のみならず、財団とりわけプログラム・オフィサー、選考委員会の三者が、より相互に交流し、コミュニケーションを密にしながらいっしょに進捗過程にも強く注意を払い、議論を深め、そうすることによってプログラム全体をさらに充実したものに作り上げていくことが必要であると強く感じました。そして、この点は、1年間の進行状況を判断してから、今一度企画を再検討するという1年間プロジェクトとして、また、継続申請プロジェクトにおいて、これまでの進行に密着してコミュニケーションを継続してきた、財団プログラム・オフィサーのイニシアチブに基づいて、三者で徹底的に吟味、評価するという過程を経るなど、選考と実施にかんしても、すでに、本プログラムの特徴に対応した方法がとられており、今後、より広く、よりチャレンジングなプロジェクトの応募を強く期待したいと思えます。

◎助成対象一覧

助成番号	題目 氏名・所属	助成金額(円)
D05-N-003	カラジ地域内ネットワークによる女性向上促進計画	1,300,000
(イラン)	シリーン・A.S. 女性向上促進センター(カラジ、イラン) 国際渉外係	
D05-N-013	健康をキーワードとした日中民間交流を深めるネットワークの構築	2,100,000
(中国)	魏 長年 熊本大学政策創造研究センター 助教授	
D05-N-020	アジア地域虐待防止ネットワークの構築	4,500,000
	柳川敏彦 和歌山県立医科大学保健看護学部 教授	
D05-N-026	海域アジア近世交流史の研究——「バンテン遺跡研究会」拡大ネットワークの形成	2,100,000
	坂井 隆 上智大学アジア文化研究所 客員研究員	
D05-N-031	バングラデシュにおけるグローカルな農業改善への取り組み(GRAINS)	4,900,000
(バングラデシュ)	A.R.C. レボン バングラデシュ安全衛生環境基金(OSHE-BD) 代表	
D05-N-032	中央アジア地域研究のための希少史資料保存・出版・活用ネットワーク「デジタル・トルキスタニカ」の立ち上げ	4,000,000
	帯谷知可 国立民族学博物館 地域研究企画交流センター 助教授	
D05-N-050	ローカル・ニュースに基づく多様なジェンダー課題を反映した国際協力の推進——草の根住民組織支援のための次世代ネットワーク	4,000,000
	服部朋子 株式会社ウォーター・リサーチ 専門員	
D05-N-051	難民に関する国際基準遵守のための双方向のデータベースの設計及び運営	3,000,000
	奥村礼子 大阪大学大学院国際公共政策研究科 院生	
D05-N-062	アジア市民権ネットワーク——21世紀における国家安全保障、メディア、権利の伸張	7,000,000
(イタリヤ)		
(オーストラリア)	テッサ・モーリス＝スズキ オーストラリア国立大学アジア太平洋研究学部 教授	
D05-N-066	東アジア環太平洋亜熱帯・熱帯地方における植物種に関する共同研究と生物資源データベース作成を目的としたネットワークの構築	4,000,000
	國府方吾郎 国立科学博物館筑波実験植物園 研究官	
D05-N-071	医療従事者の参加型労働環境改善研修ツール開発を通じたアジア地域ネットワーク構築	3,700,000
	吉川 徹 財団法人労働科学研究所教育・国際協力センター 主任研究員	
D05-N-072	三池炭じん爆発の総合的研究——三池の教訓をアジアへ伝えるネットワークの構築	3,000,000
(韓国)		
	美奈川成章 三池炭じん爆発事件研究会 代表	
D05-N-082	東南アジアにおける情報処理専門家のネットワーク構築——現地の情報の保存ならびに共有のための戦略開発フォーラムの開催と現地若手専門家の訓練にむけて	4,000,000
(タイ)	スリトーン・S. マハサラカム大学 シリンドン・イサン情報センター長	

助成番号	題目 氏名 所属	助成金額(円)
D05-N-083	アジアにおける「女性と科学/技術」のネットワーク——「真」のアジア科学技術コミュニティの構築をめざして 小川眞里子 三重大学人文学部 教授	3,000,000
D05-N-084 (継続)	多民族、多文化、共生構造の沿海州——沿海州社会の民族間相互作用に関する研究と「多民族間法律扶助ネットワーク」の構築による共生構造の創出 (韓国) 金 太基 湖南大学校外国語学部 助教授	5,000,000
D05-N-085	移動自由自在の芸術コミュニティ(MAC)——生活のための芸術 (シンガポール) オン・ケン・セン シアター・ワークス 芸術監督	3,000,000

## III-2 東南アジア研究地域交流プログラム (SEASREP)

SEASREPは東南アジアの人々による東南アジア研究の促進を目的として、①語学研修、②ルイサ・マリヤリ・フェローシップ(いずれも国際交流基金担当)③地域共同事業、④SEASREP財団関連事業の4つのサブ・プログラムから構成される。

2005年度においては①～③については2005年4月1日から9月30日まで公募を実施し、2006年(平成18)1月の選考委員会で助成案件を採択、第111回理事会で承認された。④については、財団内プログラム会議での審議に基づき、同理事会で承認された。

当年度をもってSEASREP全体の事務運営をマニラのSEASREPカウンスル事務局へ移管する作業が完了した。これに伴って、財団は資金的支援に専念することとなり、2006年から2009年の事務局経費として400,000ドルの一括送金を実施した。また、SEASREPカウンスルからSEASREP財団へと名称が変更された。

組織改編に伴い、評議委員会が設置され、5名の東南アジア学識経験者、2名の東南アジア非在住者の学識経験者とともに、当財団もコアプログラム助成金を負担する

組織のメンバーとして評議員に加わることとなった。

助成事業については昨年度から大きな変化はなく、SEASREP財団が実施する複数のプログラムのうち、「地域共同助成」、「SEASREP財団企画事業」に加えて上述した「SEASREP財団事務局経費」に助成を行った。

2005年12月にタイ・チェンマイでSEASREP10周年記念シンポジウムを実施した。さまざまな研究者との交流を行うことを目的とし、助成を行ったプロジェクトから「東南アジア——古代とグローバルの十字路」、「東南アジア——越境する民族」などのテーマを選んで33のパネルを組織し、助成対象者が成果発表を行い、活発な議論が展開された。SEASREPは構想諮問委員会の提示するアジアにおける「多元性と相補性と協働性」の理念の追求の一翼を担い、東南アジア研究における東アジアの人々とのインターフェイス、ネットワーキングの「場」を提供する仕組みを組み込むことを視野にいれているが、東南アジアだけでなく、東アジアからも参加者のあった本シンポジウムは、まさにこのネットワーキングの「場」の役割を果たしたといえる。

[表III-2] SEASREP助成実績

	応募件数 (件)	助成件数 (件)	予算 (ドル)	助成金額 (ドル)
地域共同事業	53	18	190,000	187,200.0
SEASREP財団企画事業		1	30,000	30,000.0
SEASREP財団事務局経費		2	470,000	450,484.5
計	53	21	690,000	667,684.5

◎助成対象一覧

助成番号	題目 氏名 所属	助成金額
<b>地域共同事業</b>		
<b>インドネシア</b>		
D05-EC-13	「法と権力と文化——法の多元性における超国家、国家、地方のプロセス」 第15回民俗法と法的多元主義に関する国際会議の開催 スリステイヨワティ・I. インドネシア大学女性とジェンダー研究所 所長	\$14,000
D05-EC-15	プサントレンのジェンダー構築——ジャワとマレーシアにおけるプサントレンの事例研究 トリ・マルハエニ・PA. スマラン国立大学女性研究所 事務局長	\$8,000
<b>ラオス</b>		
D05-EC-16	「汚職と戦うための民衆による取り組み」に関するワークショップの開催 ソンバット・S. 参加型開発トレーニングセンター 専務理事	\$17,000
<b>マレーシア</b>		
D05-EC-08	言語分布——多様化と共通化 チョン・S. マレーシア国民大学マレー世界文明研究所 リサーチ・フェロー	\$15,000
D05-EC-11	周縁の人たちの声——マレーシアにおける移民の子供たちの国を越える子供らしさとアイデンティティと文化 L.A.ルマヤグ マレーシア・ブトラ大学コミュニティと平和研究所 研究員	\$5,000
<b>ミャンマー(ビルマ)</b>		
D05-EC-05 (継2)	シャン(タイ)法典とその発展に関する研究 サイ・カン・モン 在地研究者	\$12,000
<b>フィリピン</b>		
D05-EC-04	アテネオ・デ・マニラ大学でのコサル・パス氏(南カリフォルニア大学)、シロテ・クワンパイブーン氏(ハワイ大学マノア校)、およびアブドゥル・ワヒド氏(ガジャマダ大学)による「東南アジア現代史における記憶、アイデンティティ、悲劇」に関する集中講義 B.T.トロサ・Jr. アテネオ・デ・マニラ大学アテネオ・アジア研究所 所長	\$5,500
D05-EC-07	サン・カルロス大学でのファルク博士(ガジャマダ大学)とチャヤニングルム・デワジャティ女史(ガジャマダ大学)による「インドネシアの文学と女性」に関する集中講義 H.S.ユ. サン・カルロス大学言語文学科 助教授	\$5,000
D05-EC-09	イガル——フロンティアと交差する舞踊の比較研究 M.C.M.サンタマリア フィリピン大学ディリマン校アジアセンター 准教授	\$5,000



助成番号	題目 氏名 所属	助成金額
D05-EC-10	東南アジアの三輪自動車——都市文化地理的予備調査 R.G.タランバス フィリピン大学マニラ校社会科学科 助教授	\$5,000
D05-EC-12	フィリピン、マレーシア、タイ、シンガポールのデジタル・シネマについての比較研究 E.M.P.ヘルナンデス フィリピン大学芸術研究学科 助教授	\$15,000
D05-EC-14	フィリピンとタイにおける地方コミュニティのグローバリゼーションの影響とその対応に関する事例研究 G.L.ウィー フィリピン大学第三世界研究所 フェロー	\$5,000
<b>シンガポール</b>		
D05-EC-06	「アジア太平洋の子供——アジア太平洋の児童研究者のための新しい概念とネットワーク」に関する国際会議の開催 B.ヨー シンガポール国立大学アジア研究所 教授	\$14,000
<b>タイ</b>		
D05-EC-01 (継2)	下ビルマにおけるモン仏教僧院の建築 チョティマ・C. シルパコン大学建築学部 講師	\$3,700
D05-EC-03	地域インフラ空間の登場？——タイ-ヴェトナムならびにラオス-タイ国境を跨ぐ第9号線沿いの動向と社会変化についての研究 ワックナ・P. シンガポール国立大学東南アジア研究プログラム 准教授	\$15,000
D05-EC-17	「開発の地域化——メコン地域の地方文化、空間およびアイデンティティの再定義」に関するワークショップの開催 チャヤン・V. チェンマイ大学社会科学および持続可能な発展のための地域センター 所長	\$14,000
D05-EC-18	「東南アジアにおけるイスラームの声」に関する若手研究者のためのワークショップの開催 ウタイ・D. ワライラク大学学芸研究所地域研究プログラム プログラム長	\$17,000
<b>ヴェトナム</b>		
D05-EC-02 (継2)	クメールとジャワの美術との関係性からみたチャンパ芸術の研究——7世紀から10世紀にかけての仏塔の構造について チャン・K.P. ヴェトナム少数民族文化芸術協会 研究員	\$12,000
<b>SEASREP財団事務局経費</b>		
D05-ER-01 (継11) (フィリピン)	SEASREPカOUNシル事務局 M.S.I.ジョクノ SEASREPカOUNシル 事務局長	\$49,110
D05-ER-03 (継12) (フィリピン)	SEASREP財団事務局運営費(2006年～2009年) M.S.I.ジョクノ SEASREP財団 専務理事	\$400,000
<b>SEASREP財団企画事業</b>		
D05-ER-02 (フィリピン)	東南アジアの学生によるアジア・エンボリウム講座への参加費用 M.S.I.ジョクノ SEASREPカOUNシル 事務局長	\$30,000

### III-3 成果発表助成

研究助成プログラム関連、旧東南アジアプログラム関連と対応するプログラムごとに2つのカテゴリーにわけて実施された。

いずれも、同プログラムの助成を過去に受けた人を対象としており、非公募である。申請については1年を通じて受け付けている。選考については、財団内プログラム会議で審議後、理事会に報告することとなっている。

研究助成プログラム、旧東南アジアプログラムいずれの対象者も本プログラムに対する関心は高いが、実際の申請にいたるものは少なく、結果として当初予算が未消化となった。

#### 1. 研究助成プログラム関連

5件(880万円)が助成の対象となった。5件中4件が、書籍の刊行を目的としたものであった。今後とも書籍刊行への助成が中心となる。

2005年度の助成により出版された『十九世紀日本の園芸文化 江戸と東京、植木屋の周辺』(平野恵・文京ふるさと歴史館文化財調査員)では、植木屋と本草学者や文人との交流を通して、十九世紀における園芸文化史を江戸・東京を中心に叙述している。本書に描かれる学者と民間人の

交流のあり方から、当時の民間における学問の多様な広がりが見える。

#### 2. 旧東南アジアプログラム関連

本プログラムに応募を予定していた案件は他にもあったが、申請したものの助成に至らなかったケースや、年度内に審議が終了しなかったものや、作業が遅れ申請に至らなかったケースがあったために、予算を余らせることになってしまった。

当年度は10件(US\$52,400)が助成の対象となった。10件のうち8件がベトナム、1件がタイ、1件がフィリピンからの応募であった。これまでの助成件数を反映してか、ベトナムが多数となっている。ベトナム少数民族文学・芸術協会所属のP. チャム氏による『チャム民族の叙事詩に関する研究』の出版は2000年の助成による研究成果の出版を目的としたものである。これまで「現代東南アジアにおける文化の諸課題」のテーマで東南アジア国別助成を実施してきたことから、このような地方や少数民族のアイデンティティ形成の一助になることが期待されるプロジェクトに助成する結果となっている。

[表III-3] 成果発表助成助成実績

	助成件数 (件)	予算 (万円)	助成金額 (万円)
研究助成プログラム関連	5	2,000	880
旧東南アジアプログラム関連	10	2,000	約576
計	15	4,000	1,456

◎助成対象一覧

助成番号	題目 氏名・所属	助成金額(円)
<b>研究助成プログラム関連</b>		
D05-S-001	19世紀日本の園芸文化——植木屋とその周辺(出版) 平野 恵 文京ふるさと歴史館 文化財調査員	1,800,000
D05-S-002	日本植民地時代の台湾における青年団をめぐる人類学的研究——台北州A街の事例を中心に(出版) 宮崎聖子 お茶の水女子大学大学院人間文化研究科 アソシエイト・フェロー	2,000,000
D05-S-003	半檀家にみる「家」と寺院の関係史——宗門改帳の分析を中心として(出版) 森本一彦 関西大学 非常勤講師	2,000,000
D05-S-004	低身長を伴う先天性疾患の身体発育に関する縦断的研究(ソフト開発) 藤田弘子 兵庫県立塚口病院 医師	1,000,000
D05-S-005	第二次世界大戦中の徴兵忌避運動——とくにワイオミング州ハートマウンテン強制収容所の場合(出版) 森田幸夫 金沢大学経済学部 非常勤講師	2,000,000
<b>旧東南アジアプログラム関連</b>		
D05-SI-001 (継3) (ヴェトナム)	『チャム民族の叙事詩に関する研究』の出版 P. チャム ヴェトナム少数民族文学・芸術協会 研究員	\$2,800
D05-SI-002 (継4) (タイ)	『シャン年代記(ムアン・ヤイ宮本)——現代タイ語への翻字・翻訳』の出版 レイヌー・W. チェンマイ大学人文学部タイ語学科 准教授	\$6,400
D05-SI-003 (継3) (ヴェトナム)	『クローン(メコン)川デルタ地帯における仏教およびバラモン教芸術の考古学的調査研究』の出版 L.T. リエン ヴェトナム社会科学アカデミー考古学研究所 研究員	\$6,000
D05-SI-004 (継4) (ヴェトナム)	『チャム民族文書に関する研究』の出版 T. ファン ホーチミン市国家人文社会科学大学 学部長	\$4,000
D05-SI-005 (継2) (ヴェトナム)	『中国のキン民族(ヴェトナム民族)の婚姻儀礼——中国広西省東興市ワンウェイ村の事例研究』の出版 N.T.P. チャム ヴェトナム社会科学アカデミー民俗学研究所 研究員	\$3,700
D05-SI-006 (継2) (ヴェトナム)	『ヴェトナムの石器時代の遺跡カタログ』の出版 N.G. ハイ ヴェトナム社会科学アカデミー考古学研究所 副院長	\$3,500
D05-SI-007 (継3) (ヴェトナム)	『チャン氏遺稿集——ヴェトナムのグオン民族の民俗文化』の出版 V.T.T. ビン サイゴン外国人学校 所長	\$3,200

助成番号	題目 氏名 所属	助成金額
D05-SI-008 (継3) (フィリピン)	『相互作用する地方文学と国文学——フィリピン国民文学構築におけるマグダレナ G. ハランドニ著「ホアニタ・クルス」』の出版 L.V. ホシロス 作家	\$9,800
D05-SI-009 (継2) (ヴェトナム)	『ハノイの青少年に対するインターネットの影響の研究』の出版 B.H.ソン ヴェトナム文化芸術研究所 研究員	\$5,000
D05-SI-010 (継7) (ヴェトナム)	『マー川、チュー川流域の金属器時代』の出版 P.M.フエン ヴェトナム社会科学アカデミー考古学研究院 助教授	\$8,000

# IV

## 計画助成プログラム

## IV-0 計画助成プログラムの概要と活動結果

財団独自の調査と企画による長期的、あるいは弾力的な助成を展開するため、次の性格を持つプロジェクトに助成するという考えに基づき実施した。

1. 現在及び将来の財団の助成プログラムを展開する上で重要なもの。
2. わが国の民間助成活動を活発化し、その発展を図る上で重要なもの。
3. そのほか、他団体等との共同助成、および民間財団としての助成の意義の大きいもの。

計画助成は非公募とし、年間を通じて申請を受け付けている。選考体制としては財団内部プログラム会議での審議後、理事長の助言(確認)を経た上で理事会にて採択となる。

トヨタ財団2005年度事業計画の計画助成に関して、「財団による問題・課題のより積極的な提起とともに、財団のネットワークの活用・拡大・新構築を目指す」旨が特

記されている。

一方、2005年度の場合、前年度に構想諮問委員会の議論の深まりを受けた実験的な企画がいくつも立ち上がっているために、その継続助成をすることによりかなりの資金とエネルギーが割かれている。

その中で、次の世代の財団が取り組むべき課題を開拓する可能性を持っているものは、民間の博物館の間の交流をうながす含みをもつ「神戸華僑歴史博物館の資料収集、公開および日本・海外の華僑華人関係機関・研究者との交流促進プログラム」、東南アジアと韓国の研究者の関係強化が期待される「日本占領期の文学に見られる人々の語り——東南アジアと朝鮮」、次の世代の現代史研究者を育てる可能性を持つ「行政改革を中心とした1980年代の政治・経済・社会の状況に関する文献目録編纂計画」、民間色の濃い研究者の論考を発表する場を提供する『自然と文化そして言葉』(仮称)の出版プロジェクトなどと思われる。

[表IV-0] 計画助成プログラム助成実績

	助成件数 (件)	予算 (万円)	助成金額 (万円)
計画助成	17	6,000	5,960

◎助成対象一覧

助成番号	題目 氏名 所属	助成金額(円)
D05-P-001	アフガニスタン国立公文書館所蔵文字資料群の調査・整理および保存 八尾師誠 東京外国語大学外国語学部 教授	5,060,000
D05-P-002	『自然と文化そして言葉』(仮称)の出版 眞島建吉 東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所 編集囑託	5,000,000
D05-P-003	(財)助成財団センター 情報整備プロジェクト 堀内生太郎 (財)助成財団センター 専務理事	3,000,000
D05-P-004	植民地・占領地の「協力」の比較研究——韓国、中国、満州、台湾、ベトナムの事例とヨーロッパの経験 (韓国) 朴尚洙 高麗大学アジア問題研究所 研究助教授	7,080,000
D05-P-005	雲南におけるタイ文字文献の調査と保存プロジェクト——臨滄地区 (続4) (オーストラリア) クリスチャン・ダニエルズ 東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所 教授	3,900,000
D05-P-006	国連・障害者の権利条約特別委員会 参加と提言 (続2) 児玉 明 (福)日本身体障害者団体連合会 顧問	1,000,000
D05-P-007	市民チャリティ委員会創設に向けた実践的調査研究 太田達男 (財)公益法人協会 理事長	1,992,000
D05-P-008	『地平を越えて: 還暦を迎えた田辺先生とタイ研究』の出版 (続2) (タイ) クワンチーワン・ブアデー チェンマイ大学社会研究所 研究員	\$2,500
D05-P-009	『アルゼンチン日本人移民史第二巻戦後編』の刊行 (アルゼンチン) 一色田暉 アルゼンチン日本人移民史編纂委員会 委員長	2,000,000
D05-P-010	日本占領期東ティモールに関する資料・文献・口述調査 (続3) 後藤乾一 日本占領期東ティモール史料フォーラム 代表	4,500,000
D05-P-011	神戸華僑歴史博物館の資料収集、公開および日本・海外の華僑華人関係機関・研究者との交流促進プログラム (続2) (中国) 藍 璞 神戸華僑歴史博物館 館長	3,000,000
D05-P-012	日本占領期の文学に見られる人々の語り——東南アジアと朝鮮 (続2) (インドネシア) トミー・クリストミー インドネシア大学人文学部文学科 講師	\$31,725
D05-P-013	「インドパシフィック先史(IPPA)第18回会議」の開催 (フィリピン) V.バス フィリピン大学考古学プログラム 所長	\$7,300

助成番号	題目 氏名 所属	助成金額(円)
D05-P-014 〔継2〕	市場経済下の現代チベット—宗教復興と文化教育 村田雄二郎 東京大学大学院総合文化研究科 教授	5,000,000
D05-P-015 〔継2〕	行政改革を中心とした1980年代の政治・経済・社会の状況に関する文献目録編纂計画 並河信乃 社団法人 行革国民会議 事務局長	7,000,000
D05-P-016	市民チャリティ委員会創設に向けた実践的調査研究 太田達男 (財)公益法人協会 理事長	3,930,000
D05-P-017	『新版 東南アジアを知る事典』の編集作業および出版 下中直人 平凡社 代表取締役	2,500,000





# 事業実績の概要

.....

## V-0 事業実績の概要

本年度の助成事業の内訳は、次ページの表に示すとおりである。研究助成本体、特定課題計で67件1億5,710万円、地域社会プログラム助成は47件5,454万円、アジア隣人ネットワークプログラム助成は16件5,860万円、東南アジア研究地域交流プログラム助成は21件7,304万6,838円\*、成果発表助成は15件1,456万706円\*、計画助成は17件5,959万9,566円\*、以上合計すると助成件数は183件、助成金総額は4億1,744万7,110円である。

その結果、これまで31年間の助成金累計は件数で6,538件、金額で138億5,744万3,435円となった。なお、以上の金額は理事会決定段階のものであり、その後の変更(一部助成金の返納等)は含んでいない。

本年度の会計状況は、以降の3つの表に示すとおりである。

★——金額が円単位まで細かくなっているのは、海外向け助成金については、為替相場による現地通貨額の変動をできる限り少なくするために、決定金額を米ドルにしたためである。

### 本年度の財団の自主事業

#### ■ ネットワーク形成プログラムシンポジウム「アジアの人々をつなぐネットワーク——その多様な試み」

日時：2005年11月2日

場所：新宿区・京王プラザホテル

#### ■ SEASREP10周年記念シンポジウム「いにしえからの世界の十字路、東南アジア」

日時：2005年12月8日～9日

場所：タイ・チェンマイ市

#### ■ 研究助成研究交流会「ユーラシア内陸部研究者の集い」

日時：2006年1月11日

場所：新宿三井ビル会議室

助成金累計表

平成18(2006)年3月31日現在

助成種別	1975年度 —2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	累計	
研究助成金	1,745 5,734,050,000	72 185,970,000	85 216,890,000	81 190,700,000	71 160,450,000	67 157,100,000	2,121 6,645,160,000	
地域社会プログラム 助成金					56 55,000,000	47 54,540,000	103 109,540,000	
市民活動助成金	308 467,780,000	24 29,600,000	24 35,800,000	30 40,200,000	[当プログラムは 2003年度にて終了]		386 573,380,000	
市民社会プロジェクト 助成金	13 59,500,000	4 19,600,000	4 20,350,000	1 5,000,000	[当プログラムは 2003年度にて終了]		22 104,450,000	
市民研究コンクール 助成金	198 372,600,000	[当プログラムは1994年度にて終了]					198 372,600,000	
アジア個人ネットワーク 助成金						16 58,600,000	16 58,600,000	
東南アジア国別 助成金	1,250 2,125,102,714	68 64,684,573	62 81,638,572	48 60,335,316	40 58,091,284	[当プログラムは 2004年度にて終了]	1,468 2,389,852,459	
東南アジア研究 地域交流プログラム助成金	193 218,101,646	15 26,509,332	21 29,926,088	20 24,879,322	17 24,969,172	21 73,046,838	287 397,432,398	
研究能力向上プログラム 助成金		1 3,202,250	4 15,832,741	7 29,411,990	[当プログラムは2003年度にて終了]		12 48,446,981	
インドネシア若手研究 助成金	601 125,246,497	[当プログラムは2000年度にて終了]					601 125,246,497	
「個人を以て知る」 プログラム 翻訳出版 促進助成金	日本向け	226 474,560,000	5 9,580,000	8 12,810,000	5 9,000,000	[当プログラムは 2003年度にて終了]		244 505,950,000
	アジア 相互間	230 477,327,813	17 11,944,811	14 8,838,001	14 9,390,299			275 507,500,924
計画助成金	233 675,986,460	16 46,450,290	13 54,748,191	14 33,371,151	16 55,825,280	17 59,599,566	309 925,980,938	
特別助成金他	56 446,559,587						56 446,559,587	
成果発表助成金	404 597,776,665	5 8,650,000	4 5,740,000	5 8,899,080	7 11,117,200	15 14,560,706	440 646,743,651	
合計	5,457 11,774,591,382	227 406,191,256	239 482,573,593	225 411,187,158	207 365,452,936	183 417,447,110	6,538 13,857,443,435	

- 注 1—金額は各年度の理事会で決定したものであり、その後の変更については含んでいない。  
 2—上段は件数を表す。  
 3—下段は金額(円)を表す。  
 4—計画助成金は他のプログラムと関連する助成、他の財団との共同助成への参加、緊急な対応を要する助成を示す。  
 5—特別助成金他は10周年記念特別助成金、フェローシップ助成金、その他の助成金を示す。

## V-1 2005年度(平成17)年度会計報告

### 1. 収支計算書

(自 2005年4月1日 至 2006年3月31日)

	項目	金額(円)
収入	財産運用収入	628,384,006
	研究助成基金取崩収入	200,000,000
	雑収入	21,797,051
	当期収入合計(A)	850,181,057
	前期繰越収支差額	21,235,685
	収入合計(B)	871,416,742
支出	事業費	584,368,660
	30周年記念特別事業費	64,950,119
	構想諮問委員会特別事業費	13,950,351
	管理費	156,149,433
	特定資産支出	9,245,796
	当期支出合計(C)	828,664,359
	当期収支差額(A)-(C)	21,516,698
次期繰越収支差額* (B)-(C)		42,752,383

★——次期繰越収支差額は、次年度収入予算繰入

## 2. 貸借対照表

(2006年3月31日現在)

借方科目	金額(円)	貸方科目	金額(円)
(資産の部)		(負債の部)	
現金・預金	380,725,294	未払金	203,811,681
定期預金	2,766,000	預り金	2,659,115
有価証券	29,411,620,749	仮受金	999,486
前払金	5,686,722	退職給与引当金	105,989,896
立替金	3,190,771	(正味財産の部)	
仮払金	952,612	正味財産	29,543,377,435
未収金	1,270,413	(うち基本金)	(20,000,000,000)
		(うち研究助成事業基金)	(9,450,000,000)
		(うち当期正味財産減少額)	(178,483,302)
<b>合計</b>	<b>29,856,837,613</b>	<b>合計</b>	<b>29,856,837,613</b>

### 3. 財産推移表

年度末	基本財産(円)	運用財産(円)*	正味財産計(円)
1974(昭和49)年度	3,000,000,000	133,057,559	3,133,057,559
1975(昭和50)年度	3,000,000,000	2,157,688,541	5,157,688,541
1976(昭和51)年度	3,000,000,000	3,186,517,747	6,186,517,747
1977(昭和52)年度	3,000,000,000	5,287,322,930	8,287,322,930
1978(昭和53)年度	3,000,000,000	7,399,047,725	10,399,047,725
1979(昭和54)年度	3,000,000,000	7,861,285,758	10,861,285,758
1980(昭和55)年度	7,000,000,000	4,003,621,400	11,003,621,400
1981(昭和56)年度	7,000,000,000	4,149,064,517	11,149,064,517
1982(昭和57)年度	7,000,000,000	4,287,154,437	11,287,154,437
1983(昭和58)年度	7,000,000,000	4,516,076,037	11,516,076,037
1984(昭和59)年度	7,000,000,000	4,657,945,551	11,657,945,551
1985(昭和60)年度	7,000,000,000	4,790,109,445	11,790,109,445
1986(昭和61)年度	7,000,000,000	4,895,989,935	11,895,989,935
1987(昭和62)年度	7,000,000,000	4,897,677,802	11,897,677,802
1988(昭和63)年度	7,000,000,000	4,638,898,571	11,638,898,571
1989(平成元)年度	7,000,000,000	4,675,999,340	11,675,999,340
1990(平成2)年度	7,000,000,000	4,707,768,117	11,707,768,117
1991(平成3)年度	7,000,000,000	4,705,697,939	11,705,697,939
1992(平成4)年度	7,000,000,000	4,593,449,759	11,593,449,759
1993(平成5)年度	7,000,000,000	4,543,287,609	11,543,287,609
1994(平成6)年度	7,000,000,000	4,492,182,175	11,492,182,175
1995(平成7)年度	7,000,000,000	4,505,449,966	11,505,449,966
1996(平成8)年度	7,000,000,000	9,572,944,480	16,572,944,480
1997(平成9)年度	12,000,000,000	9,641,774,178	21,641,774,178
1998(平成10)年度	17,000,000,000	9,486,314,837	26,486,314,837
1999(平成11)年度	20,000,000,000	11,496,321,907	31,496,321,907
2000(平成12)年度	20,000,000,000	11,259,353,528	31,259,353,528
2001(平成13)年度	20,000,000,000	9,734,386,335	29,734,386,335
2002(平成14)年度	20,000,000,000	9,546,555,972	29,546,555,972
2003(平成15)年度	20,000,000,000	9,434,672,015	29,434,672,015
2004(平成16)年度	20,000,000,000	9,721,860,737	29,721,860,737
2005(平成17)年度	20,000,000,000	9,543,377,435	29,543,377,435

★——運用財産は、研究助成事業基金、固定資産および次期繰越収支差額の合計額

#### 4. 助成金変更及び返納一覧

(自 2005年4月1日 至 2006年3月31日)

助成番号	助成代表者・団体名 事由	助成決定日 助成金種別	上段：決定金額(円)	
			中段：変更及び返納金(円)	
			下段：最終助成額(円)	
1	98-B-02 平凡社 翻訳出版促進助成日本向け 助成打ち切り	1998. 9.22	1,960,000 1,960,000 0	
2	D02-K-490 神田優 市民活動助成 計画中止	2003. 3.24	1,200,000 1,199,160 840	
3	D02-EC-01 トゥン・ユ・ラン 東南アジア研究地域交流プログラム助成 助成金残	2003. 3.24	2,373,950 413,271 1,960,679	
4	D02-EC-09 ダイアナ・ウォン・イン・ポー 東南アジア研究地域交流プログラム助成 助成金残	2003. 3.24	1,256,090 51,000 1,205,090	
5	D03-B1-116 庄司博史 研究助成 助成金残	2003.10. 7	4,000,000 214,877 3,785,123	
6	D04-B-426 ジミンゴア 研究助成 助成金残	2004. 9.24	4,150,000 3,145 4,146,855	
7	D04-ER-01 マリア・セレナ・ジョクノ 東南アジア研究地域交流プログラム助成 助成金残	2004. 3.16	2,926,324 360,705 2,565,619	
8	D05-ER-01 マリア・セレナ・ジョクノ 東南アジア研究地域交流プログラム助成 助成金残	2005. 3.14	5,426,406 147,965 5,278,441	

## V-2 2005年度(平成17)年度事業日誌

### 2005年

- 4月1日 研究助成、アジア隣人ネットワークプログラム公募開始
- 4月9日 2004(平成16)年度地域社会プログラム助成金贈呈式
- 4月14日 トヨタ財団レポートNo.102発行
- 5月20日 研究助成公募の受付締切(1,142件)  
アジア隣人ネットワークプログラム助成公募の受付締切(86件)
- 6月7日 第109回理事会  
2004(平成16)年度事業報告書、収支計算書の承認  
計画助成、助成先決定 4件  
選考委員の選任  
諸規則・諸規程見直しの承認  
成果発表助成、助成先報告 4件  
研究助成・アジア隣人ネットワークプログラム応募状況報告  
第32回評議員会  
2004(平成16)年度事業報告書、収支計算書の報告  
研究助成・アジア隣人ネットワーク助成応募状況報告
- 6月17日 Occasional Report No.35発行
- 7月7日 2004(平成16)年度年次報告書(和文)発行
- 9月20日 第110回理事会  
研究助成、助成先決定 64件  
アジア隣人ネットワークプログラム、助成先決定 16件  
計画助成、助成先決定 6件  
成果発表助成、助成先報告 6件  
構想諮問委員会最終答申報告  
構想諮問委員会後継組織の承認  
30年史編纂進捗状況報告  
助成金贈呈式・シンポジウムについて  
個人情報保護法への対応について
- 第33回評議員会  
構想諮問委員会最終答申報告  
30年史編纂進捗状況報告  
助成金贈呈式・シンポジウムについて  
個人情報保護法への対応について
- 10月1日 地域社会プログラム公募開始
- 10月17日 トヨタ財団レポートNo.103発行



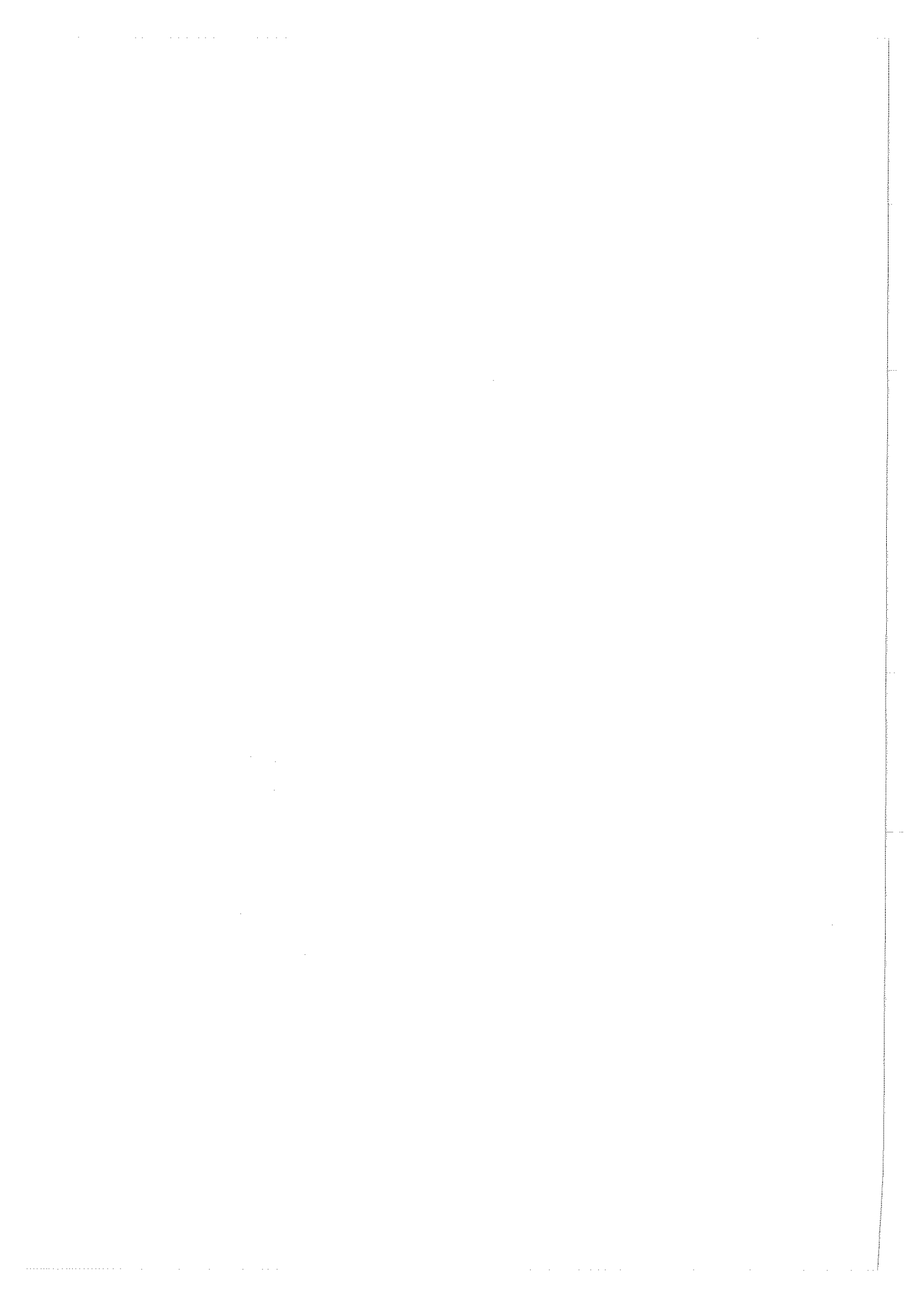
- 
- 11月2日 2005(平成17)年度助成金贈呈式・シンポジウム  
「アジアの人々をつなぐネットワーク——その多様な試み」
- 11月20日 地域社会プログラム公募の受付締切(467件)
- 12月8日-9日 SEASREP10周年記念シンポジウム  
「いにしえからの世界の十字路、東南アジア(タイ・チェンマイ)」
- 

---

**2006年**

---

- 1月11日 研究助成研究交流会「ユーラシア内陸部研究者の集い」
- 3月9日 第111回理事会
- 地域社会プログラム、助成先決定 47件
  - SEASREP、助成先決定 18件
  - 研究助成特定課題、助成先決定 3件
  - 計画助成、助成先決定 7件
  - 2005(平成17)年度収支決算見込の説明・承認
  - 2006(平成18)年度事業計画、収支予算の承認
  - 新公益法人会計基準への対応について
  - 成果発表助成、助成先報告 5件
  - SEASREP財団の組織改編について
  - 地域社会プログラム助成金贈呈式について
  - 30年史編纂進捗状況報告
  - 30年史編纂委員会の期間延長について
  - 2006(平成18)年度計画助成、助成先決定 1件
- 第34回評議員会
- 新公益法人会計基準への対応について
  - 2006(平成18)年度事業計画、収支予算の報告
  - SEASREP財団の組織改編について
  - 地域社会プログラム助成金贈呈式について
  - 30年史編纂進捗状況報告
-



The Toyota Foundation 2006 Annual Report

# トヨタ財団 2006年度年次報告

平成18年度

## 理事・監事

2007(平成19)年3月31日現在(理事・監事は五十音順、敬称略)

会長	豊田達郎	トヨタ自動車株式会社相談役
理事長	遠山敦子	財団法人新国立劇場運営財団理事長
常務理事	加藤広樹	
理事	岩崎正視	トヨタ自動車株式会社顧問
	内海愛子	恵泉女学園大学人文学部教授
	姜 尚中	東京大学大学院情報学環・学際情報学府教授
	末松謙一	株式会社三井住友銀行名誉顧問
	立本成文	中部大学大学院国際人間学研究科長
	田中耕司	京都大学地域研究統合情報センター教授・センター長
	張富士夫	トヨタ自動車株式会社取締役会長
	豊田章一郎	トヨタ自動車株式会社取締役名誉会長
	藤井宏昭	独立行政法人国際交流基金顧問
	八城政基	株式会社新生銀行シニア・アドバイザー
	吉川弘之	独立行政法人産業技術総合研究所理事長
	龍澤 武	株式会社トランスアート顧問、株式会社平凡社顧問
監事	平松義夫	公認会計士
	松方 康	三井住友海上火災保険株式会社常任顧問

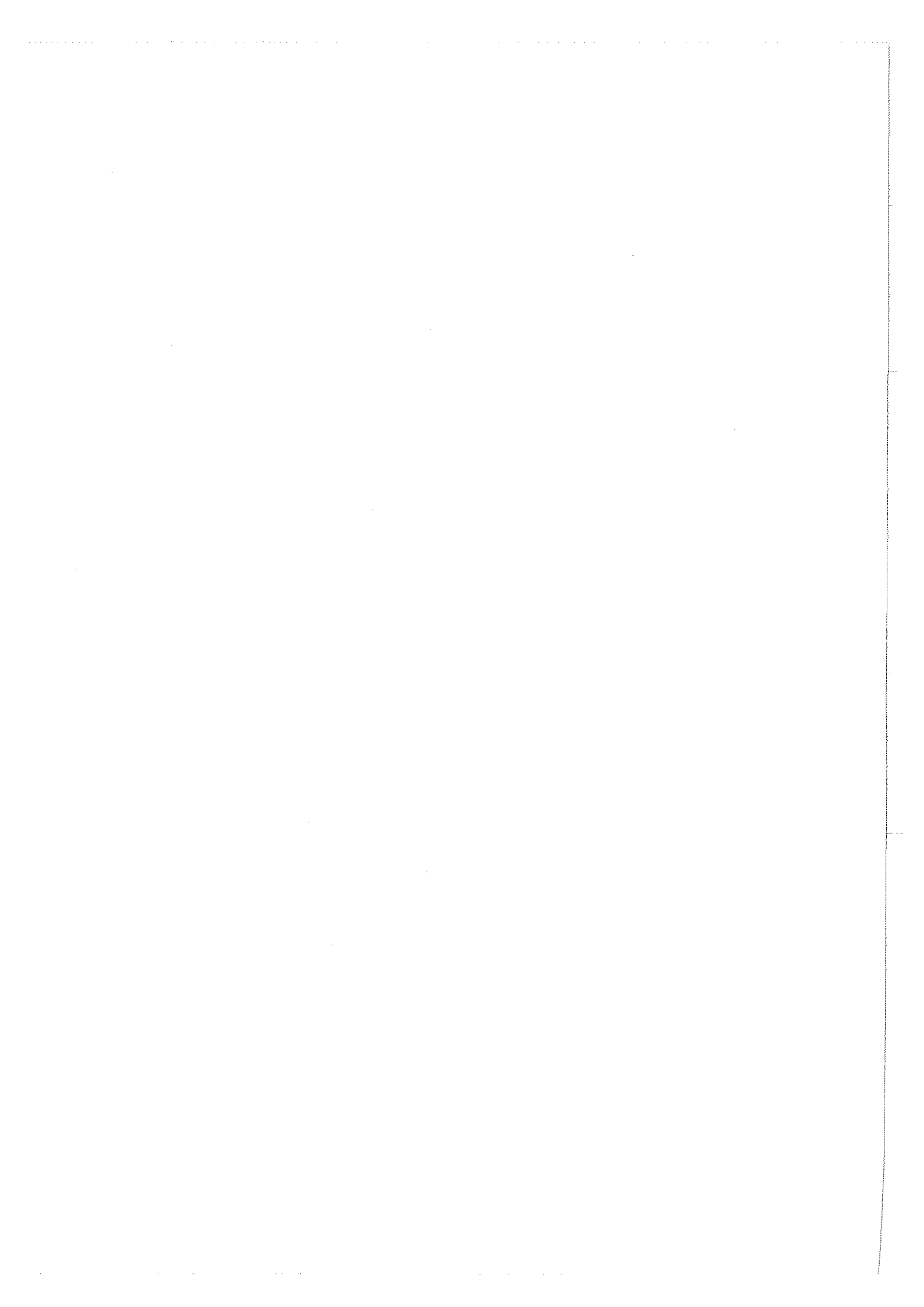
---

## 評議員

2007(平成19)年3月31日現在在(五十音順、敬称略)

---

朝岡康二	大学共同利用機関法人人間文化研究機構理事
生嶋 明	豊田工業大学学長
石澤良昭	上智大学学長
今井 敬	新日本製鐵株式会社相談役名誉会長
大賀典雄	ソニー株式会社名誉会長
大木島巖	トヨタ自動車株式会社顧問
奥田 碩	トヨタ自動車株式会社取締役相談役
片倉もとこ	国際日本文化研究センター所長
勝俣恒久	東京電力株式会社取締役社長
加藤延夫	愛知医科大学理事長・学長
熊谷直彦	三井物産株式会社特別顧問
佐々木紫郎	トヨタ自動車株式会社顧問
新宮威一	ダイハツ工業株式会社相談役
豊田英二	トヨタ自動車株式会社最高顧問
中村桂子	JT生命誌研究館館長
濱下武志	龍谷大学国際文化学部教授、東京大学名誉教授
松本 清	トヨタ自動車株式会社顧問
山本幸助	社団法人日本商事仲裁協会理事長
渡辺捷昭	トヨタ自動車株式会社取締役社長
和田明広	アイシン精機株式会社相談役



# I

## ネットワーク形成プログラム

## I-0 ネットワーク形成プログラムの概要と活動結果

ネットワーク形成プログラムは「アジア隣人ネットワークプログラム」、「東南アジア研究地域交流プログラム (SEASREP)」、「成果発表助成」の3本の柱で構成される。

「アジア隣人ネットワークプログラム」は、ネットワーク形成プログラムの重要なプログラムと位置づけ、当年度より新たに基本テーマ「『人と人とのつながり』が新しいアジアの可能性をひらく」を掲げ、趣旨も変更した。

東南アジア研究地域交流プログラム(SEASREP)は、SEASREP財団の運営の独立化に向けたプログラムの将

来の方向性やファンドレイジングの強化に関して、さらに協議・検討を継続することとなった。

成果発表助成は、研究助成、同特定課題「近代化とくらしの再発見」、旧東南アジアプログラムの3つのカテゴリーから構成される。いずれも過去に助成を受けた人が対象となっている。

当年度は助成件数が予想を大幅に下回った。助成プロジェクトのフォローアップを充実させることが課題となった。



## I-1 アジア隣人ネットワークプログラム

2006年度のアジア隣人ネットワークプログラムは「『人と人とのつながり』がアジアの可能性をひらく」を基本テーマに、アジアに生きる人々がお互いの個性、特性を認めながら(多元性)、知恵を出し合っ(相補性)、国際的なアジアの視点にたって共生していく(協働性)ことに取り組むためのプロジェクト、特にその企画段階や実施段階での「人と人とを複合的につなげていくプロセス」を支援するため、4月1日から5月20日まで一般公募を行い、合計で189件の応募を得た。

選考体制は濱下武志(龍谷大学教授)委員長以下全8名からなる選考委員が選考にあたった。

選考の結果、合計31件1億円が助成対象として選出され、第113回理事会において決定された。

申請件数に対する助成件数を採択率とした場合、全体で16.4%となった。

2006年12月には選考委員懇談会を実施した。同年の選考結果およびモニタリング結果から、人と人の結びつきによって「新たな課題を発見する」ことがネットワークの第一義的な目的として確認されるとともに、課題とネットワークの関係性について、今後よりいっそうの検討を行う必要性が指摘された。

なお募集にあたっては、募集要項を報道機関や学会等に積極的に送付し、新聞教紙で募集内容が掲載された。その結果、応募件数は、前年度より120%増となった。

【表I-1】アジア隣人ネットワークプログラム助成実績

	応募件数 (件)	助成件数 (件)	予算 (万円)	助成金額 (万円)
アジア隣人ネットワークプログラム	189	31	10,000	10,000

### 選考について

#### 濱下武志 [選考委員長]

2006年度の「アジア隣人ネットワーク」プログラムへは、合計189件の応募をいただいた。これまでに比較して、「ネットワーク」そのものについて、その性質、しくみ、広がり、つながり、その中での個人の役割、カウンターパートの役割、などについて多様に吟味・検討がなされたものが数多く見られた。このように、「ネットワーク」の特徴そのものを取り出して検討しようとする試みが見られたことは、大きな変化であった。プログラム全体としても、次第に、

また着実に、「アジア隣人ネットワーク」に対して、地域コミュニティの視点から、生活者の視点から、相互性を持ち、ネットワークに参加する全てのメンバーが、ネットワークを作ることによって、これまでの二者関係の中では、また、縦割りの組織の中では、考えることが困難であった問題を発見し、ネットワークを作ることによってはじめて可能となる課題に取り組んでいくことができる方向が浮かんでくる。この動きは、今後のプログラムの進展に向けて、大変

力強い前進が見られたと概括することができよう。

本年度の採択候補として、31件を理事会に上程する。選考委員会では、プログラムの「鍵概念」である「ネットワーク」、および「アジア」について以下のような意見が出された。

ネットワークは、規則や対象が明確に規定されている組織や制度とは異なって、一見したところ融通無碍に動き回ることを可能とするための仕組みであるとも言える。したがって、ネットワークは、見えていないところはどのようなになっているか、これまでとは異なる結びつけや組み合わせはないか、などということ浮かび上がらせる方法であるとも言える。さらに、組織や制度の補完的な役割を為すのではなく、むしろ積極的に、ネットワークに参加し、ネットワークを構成する“ひと”と“ひと”、地域コミュニティ相互を、“オフライン”で対面させる方法であるということである。

そしてまた、この、ネットワークのさまざまな“型”とともに、ネットワークとテーマとの関連についても、さまざまに意識され、取り組みに工夫がなされていたことも大きな特徴であるといえる。そこで論ぜられ、試みられようとしていることは、ネットワークは、必ずしも同一のテーマで、それに基づいてつながりを放射状に広げていけばよいものとしては考えられてはいないということである。むしろ、異質なものの、異なる地域、異なる言語文化などを前提として、それらの異質性や多方向性を、さらに一段広い枠組みを双方向で考えようとする、しかも変化する状況のなかであたらしい足場を追求するためにこそ、ネットワークが必要であり、ネットワークのダイナミズムが引き出されなければならないということである。

このことは、ネットワークが“組織”として展望されるというよりも、絶えず変化するもの、“進化”するものである、ある時点、ある局面におけるネットワークのつながりは、絶えず次の局面へと展開させることを追求しなければならず、その“過程”を絶えず意識し、問う、ということが必要

となろう。その意味では、いわゆる“成果”や“目標”は、テーマの達成そのものというよりも、ネットワークの取り組みの過程において直面した、アジア隣人との交流や交渉の多様さ・複雑さ・困難さ、などが明らかにされるものが“成果”であると考えられる。

アジアという“問題群”についてさまざまに体験し、多面的に検討することも、本プログラムの大切な柱である。アジアという空間の持つ現実性と理念性は、これまで絶えず議論されてきた。そのようななかで、アジア隣人ネットワークプログラムのアジアは、地理的に、あるいは国の総和として、固定したアジアがあるというよりも、むしろ、それぞれのネットワークによって、絶えず作られていくものであるということができる。したがって、どのようなアジアを歴史的に考え、現在そして未来に向けて作っていくのかという点をめぐって、多様な、そして、多層的な、構想力が問われるであろうし、何よりも、アジアの隣人同士が、またアジアを考える隣人同士がネットワークキングするということは、相互の交流や交渉によって共有された多様な領域を、重層的に組み合わせ、相互に連関させるエンジンを作り出していくことに等しいのではないだろうか。ここでは、アジアを論ずることが、エスニシティやナショナリティを前提としたり、固定したりすることなく、双方向に触発しあい、そして、多様に結びつけあうことが、何よりも大切となる。また、他との異質性や差異性を強調するというよりも、むしろ、共通の課題を見つけ出そうとし、それぞれの位置と条件に基づいて相手を受け止め、相互に触発し、コミュニケーションを持続させながら交流することによって、ネットワークそれ自身を進化させていくことが課題となると考えられる。

本年度の選考過程において議論されたネットワークの多様な側面は、それをさらに越える多様なネットワークキングとしてそれぞれのプロジェクトにおいて試みられ、さらにそれら相互が、プログラム・オフィサーによるネットワークキングのなかでいっそう進化していくことを期待したい。

◎助成対象一覧

助成番号	題目 氏名 所属	助成金額(円)
D06-N-008	スサントラの織り手ネットワークの構築:持続可能な農村暮らしを目的とした参加型リーダーシップ、および綿と天然染料におけるコミュニティ・トレードの確立 (イギリス) ウィリアム・イングラム プバリ文化愛好家財団 プロジェクト担当者	4,000,000
D06-N-012	カンボジア・ラオスの少数民族間のネットワーク形成による健康管理システムの構築——「少数民族会議」を形成し、少数民族が抱える共通問題の解決に取り組む 宮田 隆 (特活) 歯科医学教育国際支援機構 理事長	3,000,000
D06-N-013	マーシャル諸島における持続可能な社会発展のための草の根ネットワークの構築——次世代のオルタナティブな生活を目指して 岡野千里 (特活) アジアボランティアセンター マーシャルプロジェクトコーディネーター	3,400,000
D06-N-014	女性移住労働者の自立に向けたASEARA-ASPACネットワーク (マレーシア) ワジール・J.カリム 社会経済学のリサーチと分析アカデミー 常務理事	3,000,000
D06-N-036	徐福伝説を「縁」とした地域と人とのネットワークの構築——口承文芸における新たな比較研究の可能性に向けて 遠 志保 愛知県立大学文学部 非常勤講師	3,000,000
D06-N-042	東アジアにおける文化と思想の交流——近現代東アジアにおける多様な近代経験と主体のあり方を再検討し、新たな知／実践の可能性を探るプロジェクト 丸川哲史 明治大学政治経済学部 助教授	3,000,000
D06-N-048	貧困削減のためのアジアにおける持続可能な農業ネットワーク構築に向けて (フィリピン) ローエル・R.R. 貧困削減のための「アジア・日本」ネットワーク組合 企画管理者	2,500,000
D06-N-056	アジアとともに生きる日本の地域社会ボランティア・ネットワークの構築——在日外国人地域ボランティア・ネットワーク円卓会議の実現を目指して (韓国) 姜 誠 ルポライター	4,500,000
D06-N-057	アジア農民の生活はアジア農民が守る。アジア水稲文化圏の農民ネットワークを構築し、互いの経験や知恵を共有することで、豊かな農村生活を取り戻そう 萬田正治 全国合鴨水稲会 代表世話人	3,000,000
D06-N-059	批判と連帯のための東アジア歴史フォーラム (韓国) 板垣竜太 同志社大学社会学部 専任講師	3,000,000
D06-N-060	ヨルダン・パレスチナオーリーブ生産農家ネットワーク 大塚友子 (社) 日本国際民間協会 ヨルダン担当スタッフ	3,000,000
D06-N-069	アジアにおける連帯経済の発展を強化するネットワーク——経済のグローバル化に抗して、伝統的文化や地域の自立性を生かしながらグローバルな連帯経済の形成を目指す (韓国) 内田聖子 (特活) アジア太平洋資料センター(PARC) 事務局長	4,500,000
D06-N-070	東アジアにおけるまちづくりの現代史を共有するアーカイブ・ネットワークの構築 饗庭 伸 首都大学東京都市環境学部 研究員	3,000,000

助成番号	題目 氏名 所属	総資金額(円)
D06-N-077	アジアにおける新しいコミュニティの創造——対話と共生の場としてのアートを通して 池内靖子 立命館大学産業社会学部 教授	3,500,000
D06-N-081 (総2) (中国)	アジアにおける知的ネットワークの変容——ネットワークにおける言語コード・アイデンティティと空間環境 廖 赤陽 武蔵野美術大学造形学部 教授	3,500,000
D06-N-083	アジア諸国で水質管理分野の社会貢献活動に関わっている専門家ネットワークの形成 風間ふたば 山梨大学大学院医学工学総合研究部 助教授	3,000,000
D06-N-093	アジアの障害者の草の根交流を広げるネットワークづくり——2007年6月ベトナム・ハノイ市でのアジア4国(日本・韓国・フィリピン・ベトナム)交流大会を軸にして 斎藤縣三 (特活)共同連 理事	3,000,000
D06-N-095	小規模な植物利用に関する北東アジア・日本の伝統文化継承活動家の国際ネットワークづくりと情報交換 丹菊逸治 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 研究員	3,000,000
D06-N-104	「アジア環境協力」のための情報共有の促進とそれにもとづく多面的・重層的な人的ネットワークづくりの推進 大島堅一 日本環境会議 常務理事補佐	3,300,000
D06-N-106	アジアにおける「市民参加型・マルチメディアによる地域文化発信ネットワーク」の立ち上げ——インド・ゴアと日本・奈良から始める試み 松川恭子 奈良大学社会学部 講師	2,500,000
D06-N-111 (韓国)	中国・韓国・日本の間の「コミュニケーション・ファシリテーター」を目指して——3国を結ぶ研究者・ジャーナリスト・市民ジャーナリストのネットワーク構築 姜 尚中 東京大学大学院情報学環学際情報学府 教授	3,500,000
D06-N-116	アジア障害者自立生活支援ネットワークの構築 中西正司 ヒューマンケア協会 代表	3,800,000
D06-N-123	絵文字を用いたアジア地域子供のつながりネットワークの形成——ファシリテーターネットワークの構築と異文化コラボレーション・トレーニングに関するプログラムの開発 森由美子 (特活)バンゲア 理事長	3,000,000
D06-N-136	アジア・アート・ネットワーク——人と人を繋ぐ 天野太郎 横浜美術館 次席学芸員	4,000,000
D06-N-139	東アジアの環境文学研究ネットワーク構築と研究発信基盤の形成 結城正美 金沢大学外国語研究センター 助教授	3,000,000
D06-N-148	戦後アジアにおける学問体系の再編とアメリカ——「京都アメリカ研究夏期セミナー」(1951～1987)のネットワーク再演を通じて 吉野裕介 京都大学大学院経済学研究科 院生	3,000,000
D06-N-152	APPLE(Asbestos Precautionary Program by Local Empowerment)in the Mekong Delta 日本・メコンデルタ石綿障害予防参加型ネット 仲尾豊樹 (特活)東京労働安全衛生センター 環境測定士	3,000,000
D06-N-156	環フィリピン海文化復興ネットワークの構築——伝統的航海術の実践的研究支援を中心として 後藤 明 同志社女子大学現代社会学部 教授	3,500,000

助成番号	題目 氏名 所属	助成金額(円)
D06-N-178	バグダットにおける伝統的技能を基盤とした生産活動推進プロジェクト  (イラク) ハラ・ファタ アメリカ学術研究所(イラク) 研究員	3,000,000
D06-N-182	東南アジア文化財ネットワークの構築—文化遺産とそれに関わる人の情報共有の場として  (カンボジア) エク・ブンタ 文化芸術省人事局 副局長	3,500,000
D06-N-185	内陸、および中央アジア地域の大学を対象とした国際教育を専門とする研究者・職員のネットワークを構築  (モンゴル) アルタンツェツェグ・ソドノムツェレン モンゴル国立大学国際交流センター センター長	2,000,000

## I-2 東南アジア研究地域交流プログラム (SEASREP)

SEASREPは東南アジアの人々による東南アジア研究の促進を目的として、SEASREP財団が運営する(1)語学研修、(2)ルイサ・マリヤリ・フェローシップ(いずれも国際交流基金担当)(3)地域共同事業、からなるコアプログラム、およびトレーニングプログラム、共同プログラム、特別プログラムから構成される。

2006年度においては(1)～(3)のコアプログラムについてはSEASREP財団が2006年4月1日から9月30日まで公募を実施し、2007年1月の選考委員会で助成案件を選出し、(3)の地域共同事業については第116回理事会で承認された。トレーニングプログラム、および共同プログラムは、財団内部での審議に基づき、第112回、第114回理事会で決定された。

2006年度は、助成事業すべてをSEASREP財団が運営することになって2年度目となり、SEASREP財団にとって独自の運営を充実化させるための正念場と位置づけられた。募集や選考にあたっては、SEASREP財団のプログラム・オフィサーと選考委員会がよく機能し、SEASREP財団の活動が期待通り進行していることが確認できた。

地域共同研究助成においては、助成対象となったプロジェクトは、跨境を伴う広がりを持った人や物の動きを対象とした研究、共通の課題を抱える国々の比較研究など、SEASREPが助成するにふさわしいものとなった。ただし応募件数は増加したが、応募の内容の質は必ずしも向上したとはいえないことが、今後の課題として残された。

トレーニング・プログラムとしては、「アジア・エンボリウム」

集中講座が、2007年4月15日から5月25日までマラヤ大学で開催された(参加学生:6ヵ国、27名)。東南アジア研究の大家や気鋭の研究者などが教鞭をとり、内容のある講義が実施され、参加した学生間の交流も活発であった。

共同プログラムはSEASREP財団が他組織と共同でプロジェクトを実施するものである。当年度はSEASREP財団がオランダのSEPHISと共同で実施する「歴史学に関するワークショップ『挑戦を受ける支配者の語り——支配歴史と台頭する語り』」に助成を行った。本ワークショップでは南(第三世界)でこれまで個人・地域社会において語られている歴史的源泉と歴史語りに焦点をあて、歴史と歴史書物の問題について議論された。

特別プログラムはSEASREP財団が実施する多様な活動を支援するものであるが、当年度は助成を行わなかった。

2006年度から2009年度のSEASREP財団事務局経費として400,000ドルの一括助成を行っている。そうしたなかで、2007年1月11日にラオスのヴィエンチャンで開催されたSEASREP財団評議委員会において、当財団は今後のSEASREPの活動方針を評価し、密に連携をとっていくことを表明した。

東南アジア研究を軸としつつも、活動の範囲を広げ、ジャカルタにおいて韓国の東南アジア研究所と合同でフォーラムを開催し、韓国の東南アジア研究者との交流を行うなど、域外の東南アジア研究者とのネットワーク形成や協働を実施した。

[表I-2] SEASREP助成実績

	応募件数 (件)	助成件数 (件)	予算 (ドル)	助成金額 (ドル)
地域共同事業	60	19	190,000	189,608
トレーニング・プログラム		1		30,000
共同プログラム		1	60,000	18,200
計		21	250,000	237,808

◎助成対象一覧

助成番号	題目 氏名 所属	助成金額
<b>地域共同事業</b>		
<b>インドネシア</b>		
D06-EC-09	東南アジアにおけるイスラム書道 アリ・A. 宗教省宗教学研究開発センター 研究員	\$10,000
D06-EC-13	アンダラス大学でのDr. Bernadette Resurreccion(アジア科学技術学会・タイ)による「ジェンダーと天然資源管理——東南アジアの展望」に関する講義 ルディ・F. アンダラス大学大学院プログラム	\$5,000
D06-EC-14	アジアにおける現代舞踊——言説の見取り図の作成 ヘリ・M. クンチ・カルチュアル・スタディーズ・センター 研究員	\$13,000
<b>マレーシア</b>		
D06-EC-02 (継2)	言語分布——多様化と共通化 チョン・S. マレーシア国民大学マレー世界文明研究所 リサーチ・フェロー	\$12,725
D06-EC-12	マレーシア、シンガポール、およびフィリピンにおける高齢者保護 サイダトウアクマル・M. マレーシア科学大学社会科学部 講師	\$15,281
D06-EC-16	ポピュラー文化におけるジェンダーとセクシャリティー——東南アジアからの声 ルジー・S.H. マレーシア国民大学言語学科 代表	\$14,956
D06-EC-19 (継2)	『ボルネオにおける言語と民族性』の出版 シャムスル・A.B. マレーシア国民大学マレー世界文明研究所 所長	\$15,000
<b>ミャンマー(ビルマ)</b>		
D06-EC-08 (継3)	シャン(タイ)法典とその発展に関する研究 サイ・カン・モン 在地研究者	\$7,000
D06-EC-15	東南アジア文部大臣機構歴史と伝統地域センターでのDr. Ma. Luisa Camagay(フィリピン大学)によるフィリピン社会史に関する集中講義 ミヨ・A. 東南アジア文部大臣機構歴史と伝統地域センター 研究員	\$3,400

助成番号	題目 氏名・所属	助成金額
<b>フィリピン</b>		
D06-EC-03	跨境するイガル——サマ伝統舞踊の変化と継続の検証 M.C.サンタマリア フィリピン大学アジアセンター 助教授	\$15,196
D06-EC-05	周縁にいる人々の声——マレーシアにおける移民の子供たちの子供らしさ、アイデンティティ、及び文化 リンダ・L. マレーシア・ブトラ大学 研究員	\$12,000
D06-EC-10	不謹慎な言説——インドネシア女性の著述における売春婦と売春 H.S.ユ サン・カルロス大学言語文学科 助教授	\$5,000
D06-EC-11	女性であること——アジアにおけるニーズ、権利、開発、および文化的多様性 L.C.イラガン 女性学センター 会長	\$15,000
D06-EC-17	人文科学教育——21世紀の新しい展望とパラダイム M.J.ラディスラオ コンソラシオン・カレッジバコロド校 代表	\$3,800
<b>シンガポール</b>		
D06-EC-06	丘陵と平原を超えて——東南アジアの中央高地の経済、国家および社会についての再考 タン・B.H. シンガポール国立大学人文社会科学部 助教授	\$5,000
D06-EC-18 (継2)	人権から領有権へ——バタニ経済とタイ国家 (1880～1920年) マラ・R.S. マラヤ大学人文社会科学部東南アジア研究学科 講師	\$10,000
<b>タイ</b>		
D06-EC-04	メコン地域のトランスナショナルな開発と辺境の文化的グループ ヨス・S. チェンマイ大学社会科学部 教授	\$5,000
<b>ヴェトナム</b>		
D06-EC-01	主観が交錯する場としての学校——カンボジアとヴェトナムの多民族高地社会における教育の批判的エスノグラフィーに関する比較研究 T.H.チ シンガポール国立大学アジア研究所 リサーチ・フェロー	\$14,550
D06-EC-07	1660年代と1670年代のトンキンとサイアムの政治と通商関係 H.A.トゥアン ヴェトナム国立大学歴史学科 講師	\$7,700
<b>トレーニング・プログラム</b>		
D06-ER-02	東南アジアの学生によるアジア・エンボリウム講座への参加費用 (フィリピン) M.S.I.ジョクノ SEASREP財団 専務理事	\$30,000
<b>共同プログラム</b>		
D06-ER-01	歴史学に関するワークショップ——「挑戦を受ける支配者の語り: 支配歴史と台頭する語り」 (フィリピン) M.S.I.ジョクノ SEASREP財団 専務理事	\$18,200



## I-3 成果発表助成

成果発表助成は研究助成プログラム、旧特定課題「近代化とくらしの再発見」、旧東南アジアプログラムで助成を受けたプロジェクトのみを対象とし、プロジェクトの成果を広く社会に公表するための刊行物の出版、シンポジウムの開催等を支援するものである。

研究助成プログラム、旧東南アジアプログラムを対象としたものは、公募は行わずに、過去の助成対象者からの打診、応募を受けて財団内プログラム会議で決定され、理事会で報告された。

旧特定課題「近代化とくらしの再発見」を対象としたものに関しては、旧選考委員3名が審査にあたった。審査会議は年2回開催され、合計7件550万円の助成が採択され、財団内プログラム会議において決定され、第114回理事会、および第116回理事会で報告された。

研究助成プログラム、旧東南アジアプログラムの対象者も本プログラムに対する関心は高いが、実際の申請にいたるものは少なく結果として当初予算が未消化となった。

旧特定課題「近代化とくらしの再発見」関連は7件と計

画通りの助成であったが、研究助成プログラム関連は3件の出版プロジェクトを支援するにとどまった。

今後は、これまでの書籍出版やシンポジウム開催といった伝統的な成果公開の手法とは異なる発想が求められてくると思われる。デジタル媒体、映像媒体の活用なども今後の検討課題となるであろう。

なお、2003年度に当プログラムで助成を行った「新クメール建築」(助成代表者:ダリル・コリンズ氏—当時国立ブノンペン芸術大学講師)の成果である同名の書籍(英文)が、米Time誌(アジア版)において2006年「アジアにおける良書10冊」のうちの一冊に選ばれたことは特筆に値する。

旧東南アジアプログラム関連として、9件の出版プロジェクトを支援するにとどまった。これは本プログラムに応募を予定していたが、申請したものの助成に至らなかったケース、作業が遅れ申請に至らなかったケース等があったためである。このような結果を踏まえ、次年度はフォローアップを強化することによって、助成につながる案件を増加させることを目指す。

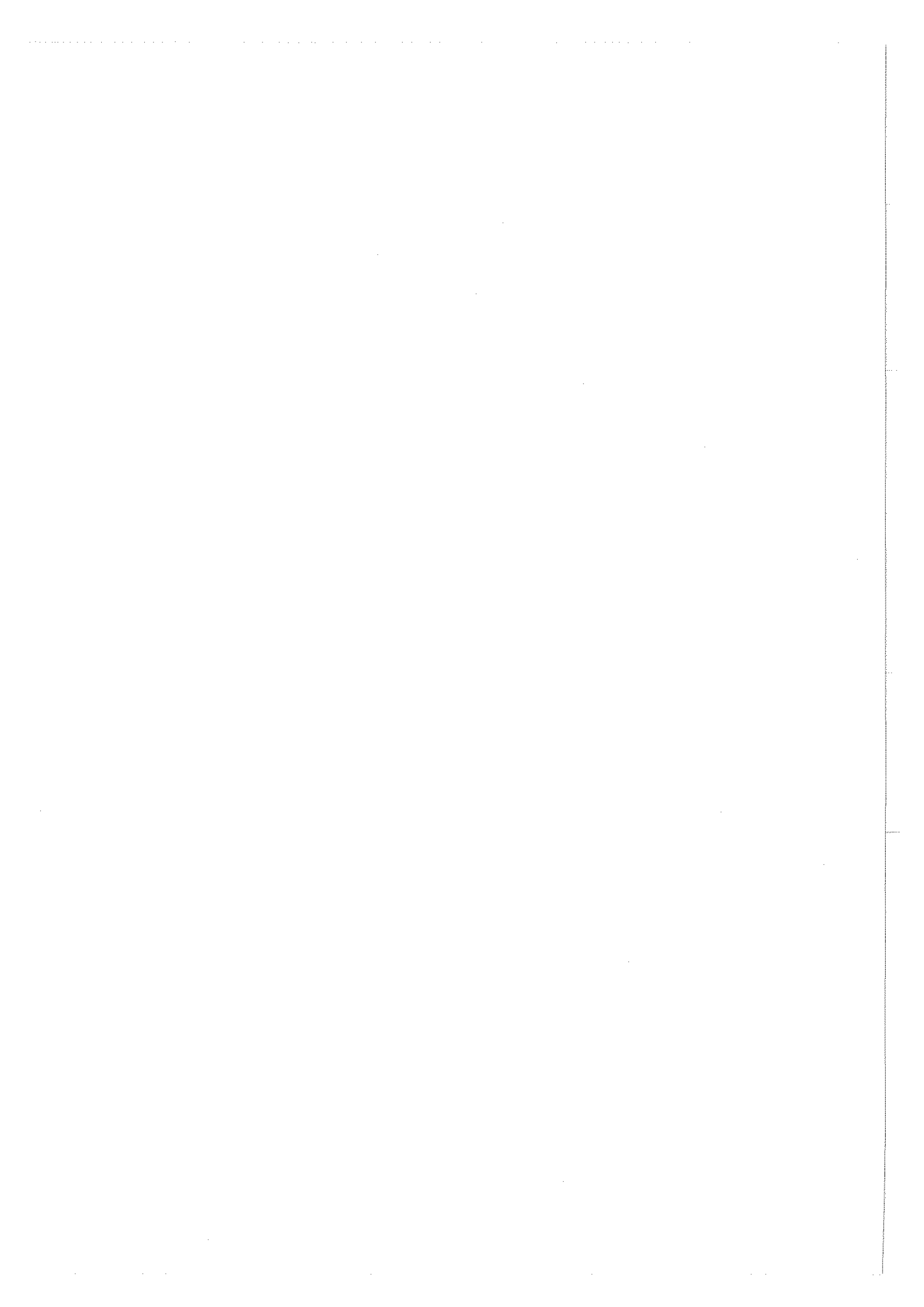
[表1-3] 成果発表助成助成実績

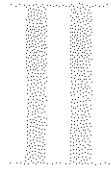
	助成件数 (件)	予算 (万円)	助成金額 (万円)
研究助成プログラム関連			
研究助成	3	1,500	560
旧特定課題「近代化とくらしの再発見」	7	500	550
旧東南アジアプログラム関連	9	2,000	1,028
計	19	4,000	2,138

◎助成対象一覧

助成番号	題目 氏名、所属	助成金額(円)
<b>研究助成プログラム関連</b>		
<b>研究助成</b>		
D06-S-001	日本におけるアーバンビレッジ手法の可能性——京都を例としてコモンズによる職住共存の都心再生をめざす試み(出版) 平竹耕三 財団法人 京都高度技術研究所 事務局長	2,000,000
D06-S-002	日米英3カ国の比較医療史研究に基づく医療政策の長期的展望(出版) 猪飼周平 佐賀大学経済学部 助教授	1,600,000
D06-S-003	野生種を利用した雑種生産における遺伝資源の活用——インド・グジャラート州にみられる野生ロバと家畜ロバの伝統的共生管理の評価(出版) 木村李花子 馬事文化研究所 所長	2,000,000
<b>旧特定課題「近代化とくらしの再発見」</b>		
D06-SH-001	日本最古の花街北野上七軒の現状と将来に関する研究——花街のもつ文化的多面性のコミュニティに果たす役割(映像記録・上映会) 〔京都〕 太田 達 上七軒花街文化研究会 代表	800,000
D06-SH-002	報告書作りわたしたちの暮らしと歴史の発見」企画 〔大阪〕 塩田豪一 能勢「時の会」 会長	800,000
D06-SH-004	坤輿万国全図解説本作成とその普及のための活動 〔富城〕 黒須 潔 名取春仲研究会 会長	1,000,000
D06-SH-007	民具から掘り起こす近代化へのあゆみ——岩手県葛巻町小田の生活史研究(出版) 〔岩手〕 名久井文明 葛巻小田地区の民具・生活史研究会 代表	1,000,000
D06-SH-008	大規模養蚕民家の次世代への新たな役割と展開(ホームページ作成、パネル展示) 〔群馬〕 中村 武 (特活)街・建築・文化再生集団 副理事長	630,000
D06-SH-009	「近代における石見銀山の展開と大森町——「モノ」による景観の復元を中心として」成果発表助成(報告書作成) 〔鳥根〕 河村政経 石見銀山世界遺産をめざす会 会長	640,000
D06-SH-010	離島利島における在来「椿」産業の近代化について——利島椿の製油技術と商品化をめぐる基礎研究(出版) 〔東京(利島)〕 前田清一 利島村学術研究委員会 代表	630,000

助成番号	題目 氏名 所属	助成金額
<b>旧東南アジアプログラム関連</b>		
D06-SI-001 (継3) (インドネシア)	『バンテン王の書簡』の出版 T. プジラストゥティ インドネシア大学文学部 講師	\$7,500
D06-SI-002 (継3) (インドネシア)	『バ・バタック・バスマリムの精神・音楽文化の民族誌』の出版 I. ハラハップ 北スマトラ大学文学部民族音楽学科 講師	\$18,400
D06-SI-003 (継4) (ヴェトナム)	『ミンマン帝統治下、1839年の農地分配政策に関する研究』の英文出版 P.P. タオ ハノイ国家人文社会科学大学歴史学部 講師	\$6,500
D06-SI-004 (継2) (ヴェトナム)	『中部ヴェトナムにおける社会文化問題——人類学研究の成果』の出版 N.H. トン ヴェトナム文化芸術研究所-フエ、ヴェトナム中部支部 支部長	\$11,900
D06-SI-005 (継2) (カンボジア)	『ヌー・ハイ文学ジャーナル第3号』の出版 コ・T. 仏教協会 プロジェクト・ディレクター	\$5,000
D06-SI-006 (継2) (ミャンマー・ビルマ)	『初期から1960年代までのシャン州の歴史』の出版 サイ・オン・トゥン ミャンマー歴史委員会 副会長	\$14,800
D06-SI-007 (継2) (カンボジア)	『カンボジアにおける寺院絵画』の出版 S. ファラ レイユーム芸術文化研究所 研究員	\$11,700
D06-SI-008 (継3) (ヴェトナム)	『ソクチャン省のクメール民族の楽器』の出版 S.N. ホアン ソクチャン省文化芸術学校 副校長	\$2,400
D06-SI-009 (継2) (ヴェトナム)	『ヴェトナム中部・リーソン島の先史時代後期遺跡』の出版 P.T. ニン ヴェトナム社会科学アカデミー考古学院 研究員	\$9,300





# 地域社会プログラム

## II-0 地域社会プログラムの概要と活動結果

2006年度地域社会プログラムは「地域社会の再構築を目指して——支えあうくらしといのち」というテーマの下、新規の特定課題として「離島助成」、「ユース助成」を立ち上げるとともに、助成重点地域を設定し、2006年度の重点地域は北海道・東北6県・新潟とした。10月1日から11月20日まで一般公募を行い、合計で404件の応募を得た。

選考体制は姜尚中(東京大学大学院教授)選考委員長以下全8名からなる選考委員が選考にあたった。

選考の結果、73件8,000万円が候補として選出され、第116回理事会において決定した。

申請件数に対する助成件数を採択率とした場合、全体

では18%となっている。

周知活動としては、応募案内先の見直し、追加とともに、助成重点地域(北海道、東北、新潟)の新聞社への募集案内の掲載依頼等を実施した。

また、2年間の試行期間に関する総括のために、既に助成期間が終了している2004年度助成プロジェクト47件について、完了報告書をもとにした内部評価を実施した。その結果、「当初計画の実施」、「触媒的役割」、「社会的インパクト」、「活動継続へ向けての努力」が評価の上で重要な項目として挙げられ、この評価結果を、選考準備会において報告し、2006年度の選考基準の見直しに反映した。

[表II-0] 2006年度地域社会プログラム助成実績

	応募件数 (件)	助成件数 (件)	予算 (万円)	助成金額 (万円)
活動助成(うち重点地域)	246(77)	34(13)		3,855(1,265)
成果普及助成			6,500	467(467)
活動記録の出版(うち重点地域)	23(15)	5(5)		
広域ネットワーク(うち重点地域)	54(12)	11(3)		2,178(500)
特定課題 離島助成	58	13	1,000	1,000
特定課題 ユース助成	23	10	500	500
計	404	73	8,000	8,000

### 選考について

姜尚中 [選考委員長]

#### 1. はじめに

地域社会プログラムは、2年間の試行期間を経て、本年度より本格的なプログラムとして立ち上がった。プログラムの狙いは、「『くらしといのち』を尊重し、地域の個性を活かした地域社会の活性化に資する活動」を支援することにある。

この狙いに基づいて、当プログラムでは、3つの点に工夫をこらしている。第一に、応募・採択件数の分布を大都市に特化させず、可能な限り地域分散型に切り替える、第二に採択件数を増やし、多くの地域の取り組みのニーズに応える、第三に、助成金額が少なくても、それを効率的かつ選別的に活用できるような応募案件を選考する、

というもので、この基本姿勢は、プログラム開始以来変わらない。

こうした基本姿勢のもとに、以下の選考基準を重視した。①地域社会活性化の触媒的な役割が認められる、②資源の有効活用がはかられている、③非営利性と公開性が確保されている、④実験的な試みであるものは取り上げる、そして⑤社会への情報発信の工夫がうかがえる、である。

なお、本年度より、従来の「地域社会プログラム(以下、「本体」とする)」の中に、「より緊要な支援を必要とする地域への重点的な支援」を行う目的で、「助成重点区」を設定している。

また、「『離島』(北海道、本州、四国、九州以外の島)への支援」を目的とした「離島助成」、および「地域社会活動における若者(高校生)による参加」を促す「ユース助成」を、新たに「特定課題」として開始している。

## 2. 応募の状況

本年度の応募件数は、総数で404件であった。内訳は、「本体」323件(うち「助成重点区」からの応募は104件)、「離島助成」58件、「ユース助成」23件である。

「本体」の応募総数のみ、昨年度との比較が可能だが、130件(昨年度の「沖縄」からの応募総数14件は除く)とかなりの減少である。東京(42件減少)、神奈川(12件減少)、愛知(15件)などの一部大都市圏において、応募が大幅に減少していることと、多少は関係があるかもしれない。

応募件数の地域的な分布状況をみると、応募は全都道府県にまたがっている。「地域社会プログラム」開始当初の目標として掲げた、「地域分散型」が、3年目で遂に達成された。また、本年度の「助成重点区」からの応募は、概ね増加(ただし、北海道、秋田では微減)という結果であった。公募開始に先立ち、該当地域の地方新聞社を直接訪問し、当プログラムについて説明した。いくつかの新聞社で、当プログラムに関する紹介記事を掲載いただいたが、その効果が応募増加につながったものと思われる。

また、組織形態について見ると、任意団体からの応募件数の割合が、全体の52%に達しており、活動年数も5年以内の団体が全体の6割となっている。地域で、ゆるやかな連携をとりつつ活動している団体(特定の事務所を持たない)、もしくは複数のNPO団体が共同で立ちあげた任意団体からの応募が増えている。この傾向は、過去2年間も続

いている。

なお、応募テーマについては、「子育て」、「不登校、ひきこもり、いじめ」、「教育」をテーマとする案件(「子ども・青年・教育」として分類)が、全体の18%と一番割合が多かった。中でも、「不登校、ひきこもり、いじめ」をとりあげている案件が目立っている(16件)。

一方で、「障害者の自立支援(6件)」、「過疎地での農業のいきづまりを打開する試み(10件)」等、「今日的に重要なテーマでの応募が意外と少ない」と思われる。前者は、他にも支援プログラムが少なからず存在していることから、当プログラムへの応募を回避したことも一因として考えられる。しかし、後者については、潜在的なニーズは多いと思われるが、「過疎地における少子高齢化」の問題と絡み、応募にまでいたらないのではないかと危惧される。

さて、「特定課題」のうち、「離島助成」へは58件の応募があった。県別で言うと、「沖縄」からの応募が12件と一番多かった。「次世代の育成、保護」を目的としたプロジェクトの応募が一件もなかったが、「離島」では「少子高齢化」が相当深刻な問題となっていることと関係しているかもしれない。なお、「ユース助成」への応募は23件と少なかったが、「商店街の活性化」を目的としたプロジェクトの応募が5件と目立っている。

## 3. 選考の過程と採択案件の特徴

採択された案件数は、50件(本体)、13件(離島)、10件(ユース)となっており、採択率は、それぞれ15%、22%、43%であった。採択率をアップさせ、グラントの額が少なくても、財団がサポートしているという象徴的な意味をもたせることは、今後の取り組みの姿勢としてきわめて重要であると思われる。とくにはじめての「ファウンド・マネー」のような性格のグラントが、今後も増えてくると思われるが、より広く、より深く、そして効果的に地域社会活性化に資する工夫が必要とされる。

本年度の採択案件についてなべて言える特徴は、第一に地域分散型が達成されたせいも、個々の地域的な特色に応じた取り組みが多かったことである。とりわけ、「助成重点区」とした「北海道、東北、新潟」の採択案件を見る限り、自殺や若者の社会参加、高齢者や障害者の自立支援といった切実な課題への取り組みと、環境や生態系の保存、地域街並みの保護や新しい農産物商品の開

拓など「ベターライフ」に向けた取り組みに分極化しつつある傾向がみられる。今後、この傾向がどのような趨勢をみせるのか、注意していきたい。

第二に、応募案件が全都道府県にまたがり、採択案件も、きわめてバランスのいい分布を示していることがあげられる。首都圏や中部、関西・近畿といった都市部に特化した採択案件の分布状況が是正されたことは評価されるべきである。ただし、東京や神奈川、愛知、大阪といった都市圏の採択件数が減少しており、本プログラムは地方に有利なプログラムであるという印象やイメージが定着しつつあるとすれば、今後はバランスのいい配分にも意を注ぐべきである。

第三に、いのちと暮らしを支える「基礎社会」の再生、活性化に向けて、それぞれの地域の取り組みと、地域横断的な広域的ネットワークが相互補完的に支えあう可能性がみえてきつつあることが指摘できる。地域分散をベースに、地域特化型と広域型との組み合わせをどうするか、今後の工夫が必要になってくるであろう。

以上のように採択案件の傾向は、当初のプログラム設立の趣旨に近づきつつあると同時に今後の可能性と問題点を孕んでいる。以上のような点を念頭に、その選考は、前年度と同じく次のようなプロセスで進められた。

まず、選考委員会に先立ち、各委員が担当する応募案件から「推薦」と「準推薦」の個別評価を募り、選考委員会の基礎資料とした。

次に、選考委員会を2月上旬に2回、財団会議室で開催した。

選考委員会はまず、選考のねらい、要件、進め方、その手続きなどについて共通の了解をうることから始まった。①採択率は10%を確保すること。②地域分散型の採択を心掛けること。③応募団体の活動歴と本年度予算規模を参考に、効率的な助成額の供与につとめること。④継続案件については、新規案件と横並びで評価すること。

⑤「推薦」が多い案件は、採択を原則とし、採択決定の場合には、同時に金額の査定を行うこと、以上である。

本年度は、各委員の「評価表」に若干のバラツキはみられたが、「推薦」と「準推薦」の絞り込み、収斂は概ね順調に達成された。選考過程も円滑に進み、各委員の満足のゆく総意が得られた。選考に要する時間も規定の枠内に収まり、効率的かつ充実した選考の成果が得られた。

採択案件数とその基本的な特徴については、上記の通りであるが、その内容に踏み込んで言えば、とくに「離島助成」が注目をひき、「離島」という限られた生活圏での創意工夫のあり様が具体的なイメージとなってあらわれてくるような案件が多く、「離島」をめぐる選考委員の間に活発な論議が展開され、今後の取り組みにとっても大いにプラスになった。

まだ「離島助成」は事実上の試行期間にあっており、以後、いろいろと手を加えつつ、より発展的なプログラムに育てていく必要があるが、とくに「離島」とはいったいどのような島嶼を指すのか、その具体的な条件や意義について今後も検討していく必要があると思われる。

第二に、応募案件は少なかったが、「ユース助成」では、きわめてユニークなアイデアや工夫の跡がみられ、今後の展開に期待がもてる。

例えば、ほとんどの委員からの推薦を獲得し、圧倒的な支持を得た宮城県柴田農林高等学校の水棲生物研究班の「モクズガニで一石三鳥を狙え」は、文理融合型の環境再生と農業振興の試みとして、高く評価される。今後もこのようなユニークな試みが地域の農業、商業・工業高校などから発信されることを期待したい。

最後に、本年度は前年度と較べても応募案件数が減少しており、この傾向に歯止めをかけることだけでなく、より多くの案件が応募できるように広報・情宣活動の充実と整備を心がけていきたい。



## II-1 活動助成

### ◎助成対象一覧

助成番号	題目 氏名・所属	助成金額(円)
<b>活動</b>		
D06-L-024	中心市街地活性化——空き店舗を利用した障害者就労チャレンジ事業 (高知) 杉野 修 (特活)まあるい心 ちゃれんじどの応援団 副理事長	1,050,000
D06-L-042	峽里ビジネス (愛媛) 長井泰子 あかね会 会長	950,000
D06-L-056	日本の伝統的な芸能を通じたコミュニティの構築とまちづくりネットワーク (東京) 野村久美子 (特活)ACTJIT 理事長	970,000
D06-L-057	高齢者と共に表現活動を通じて育つ社会——紙芝居劇むすび (大阪) 石橋友美 紙芝居劇むすび マネージャー	1,400,000
D06-L-068	愛知県下における在日外国人支援団体との共催による「外国人無料健康相談会」 (愛知) 村地俊二 (特活)外国人医療センター 理事長	1,600,000
D06-L-074	地域住民と都市の若者たちと交流から生まれるエココミュニティの再生 (福井) 駒本長信 (特活)かわだ夢グリーン 理事長	1,400,000
D06-L-078	在住外国人コミュニティサポート事業 (岩手) 小田島栄 (財)岩手県国際交流協会 理事長	1,000,000
D06-L-091	ひまわり家族認定制度による環境と共生した暮らしづくり (山形) 小松誠一郎 めぞみの里協議会 会長	1,000,000
D06-L-106	あねっとワケモノによるアグリチャレンジ大学——ふるさとの特産品等101商品化づくりほか (青森) 村上美栄子 きらさら農村なんでも商品化塾 事務局長	700,000
D06-L-111	「蔵」再生——地域映像アーカイブ創設プロジェクト (東京) 永野武雄 (特活)映画保存協会 理事長	1,000,000
D06-L-118	旧山古志村集落再生支援活動 (新潟) 小川 茂 よしたー山古志 設立代表者	1,600,000
D06-L-123	高度医療の病院における入院児の子育て支援 (東京) 坂上和子 (特活)病気の子ども支援ネット 遊びのボランティア 理事長	1,000,000
D06-L-132	農村地域における自殺予防活動 (秋田) 袴田俊英 心といのちを考える会 会長	350,000

助成番号	題目 氏名 所属	助成金額(円)
D06-L-139	異業種の連携による地域ブランドづくり——現代湯治鳴子スタイル (宮城) 板垣幸寿 鳴子ツーリズム研究会 事務局長	1,000,000
D06-L-153	地域、学校、高度教育機関との連携による地域資源「蔵」の活用プロジェクト (福島) 佐藤芳伸 喜多方蔵の会 代表幹事	1,300,000
D06-L-155	「いのち」を考える犯罪被害者遺族・自助グループの地域連携モデルの展開 (岡山) 川崎政宏 (特活)おかやま犯罪被害者サポート・ファミリーズ 理事長	600,000
D06-L-161	「みんなでつろう! 地域の子育て環境」——子産み・子育て応援イベント事業 (東京) 清水幹子 子産み・子育て多摩らんあ実行委員会 委員長	1,500,000
D06-L-170	色川「百姓養成塾」の試験的实施 (和歌山) 原 和男 色川「百姓養成塾」をつくる会 代表	1,600,000
D06-L-178	青少年育成や障害者支援にNPO・関係機関・行政が連携、地域力を生かした情報発信事業——地方局にFM放送「教育 談話室」(仮称) (静岡) 三好悠久彦 (特活)リベラヒューマンサポート 理事長	1,000,000
D06-L-194	農業後継者がいないため荒廃地となりつつある棚田の風情をよみがえらせるとともに、農業体験活動を通じて、農業の大切 さ、人と人とのふれあいを深めながら棚田を保全していく (長野) 関口幸男 田毎の月棚田保存同好会 会長	1,270,000
D06-L-205	障がい者日常生活相談支援活動の実施 (新潟) 中村 督 (特活)青りんごの会 代表理事	1,600,000
D06-L-218	ホテイアオイの利用による環境美化と地域再生——住民参加型システムの構築へ向けて (京都) 有蘭真代 地域発展研究センター 特別研究員	1,600,000
D06-L-225	認知症になっても怖くない地域づくりへのチャレンジ! ——死ぬまで現役 ～自分のために、みんなのために～ (岐阜) 石原美智子 (特活)校舎のない学校 理事長	1,600,000
D06-L-226	大学生が創る地域のナナメの関係——コミュニティスペースPECO (大阪) 松村幸裕子 コミュニティスペースPECO実行委員会 学生代表	700,000
D06-L-227	柏倉家周辺を活かした地域づくりプロジェクト (山形) 飯野清治 (特活)柏倉家文化村 事務局長	800,000
D06-L-250	鉄道の駅を活用したコミュニティステーション事業 (岩手) 湯川秀俊 (特活)カシオペア連邦地域づくりサポーターズ 代表理事	1,400,000
D06-L-259	いじめ・虐待防止のための包括的こどもエンパワーメント事業 (青森) 一條敦子 「COCOA あおもり」(コミュニティ・コーディネーター・アクションあおもり) 代表	800,000
D06-L-268	私たちにできる綾町の野生植物を活かした特産品開発事業 (徳島) 黒木純一 希少植物を守る会 会長	1,000,000

助成番号	種目 氏名・所属	助成金額(円)
D06-L-269 (継2) (青森)	地域の次代を担う幼い原石たちが郷土愛の醸成と魂の支えあいを学ぶ「キッズカレッジ07」 小山内誠 (特活)あおもりNPOサポートセンター 副理事長	600,000
D06-L-277 (宮城)	病院ボランティアリーダーの育成—いつも笑顔で 深瀬光子 ボランティアたんぽぽ 代表	500,000
D06-L-298 (広島)	地域遺産の再生活用による鞆流まちづくりの仕組みづくりと町家ネットワーク化 松居秀子 (特活)鞆まちづくり工房 代表理事	1,000,000
D06-L-313 (高知)	町民が地域の価値を創造する—住民ディレクターが作る黒潮テレビ局 安光 平 (特活)NPO砂浜美術館 理事長	1,860,000
D06-L-314 (愛知)	東海地方におけるフィリピン人女性DV(ドメスティック・バイオレンス)被害者サポートシステムの形成 バージ石原 フィリピン人移住者センター(Filipino Migrants Center) 代表	1,600,000
D06-L-317 (鹿児島)	若者人材センター拠点・キーマンづくり事業 竹田寿昭 (特活)かごしま青少年自立センター 理事長	1,200,000

## II-2 成果普及助成

### ◎助成対象一覧

助成番号	題目 氏名 所属	助成金額(円)
<b>出版</b>		
D06-L-049	「山形県のひきこもり青年の文化活動——ARTを通してつながろう」に関する出版 (山形) 高橋信子 (特活)発達支援研究センター 代表	900,000
D06-L-087	「中小企業経営者と家族の自殺予防マニュアル」に関する出版 (秋田) 佐藤久男 (特活)蜘蛛の糸 理事長	1,000,000
D06-L-122	「市民社会への道程——ローカルNGOの可能性と新しいネットワーク」に関する出版 (新潟) 多賀秀敏 (特活)NVC新潟国際ボランティアセンター 副代表	900,000
D06-L-186	「小さな集落からの大きなメッセージ——昔ながらの農業風景復活から次世代に伝える『ともに生きる知恵と心』」に関する出版 (新潟) 三浦絵里 中ノ俣たき火会 会員	1,070,000
D06-L-214	「未来への卵・小さな地域からはじまる『クニづくり』——中山間地NPO・かみえちご山里ファン倶楽部の活動から未来に向けた『クニづくり』の手法を探る」に関する出版 (新潟) 大村 恵 (特活)かみえちご山里ファン倶楽部 上越市くわどり市民の森担当	800,000
<b>広域ネットワーク</b>		
D06-L-017	阪神大震災体験手記集ホームページのコンテンツ充実と英文翻訳版の公開 (継2) (兵庫) 高森香都子 阪神大震災を記録しつづける会 代表	1,100,000
D06-L-050	配慮を必要とする人すべてに本を——読み困難に対応するネットワーク (北海道) 二峰紀子 (特活)かかわり教室 理事・事務局長	1,500,000
D06-L-084	アレルギーっ子の防災・救援ネットワークの構築 (愛知) 須藤千春 (特活)アレルギー支援ネットワーク 理事長	1,500,000
D06-L-096	中越大震災被災地からの発信——広域防災応援ネットワークの構築 (新潟) 重川希志依 中越大震災ネットワークおぢや 副会長	1,500,000
D06-L-130	地域難民支援体制の構築——多文化共生社会の実現による地域社会の活性化を目指して (継2) (東京) 中村義幸 (特活)難民支援協会 代表理事	3,980,000
D06-L-184	僻地農山村の課題解決と青年の意欲を向上させるための国内青少年協力隊プロジェクト (長野) 辻 英之 秦草村自然体験活動推進協議会 事務局長	1,600,000
D06-L-198	『いのちの電話帳』作成プロジェクト (継2) (東京) 清水康之 (特活)自殺対策支援センター ライフリンク 代表	4,000,000

助成番号	題目 氏名 所属	助成金額
D06-L-208 (継2) (岩手)	北いわてのスローツーリズムが結ぶ、持続可能な地域社会 吉成信夫 岩手子ども環境研究所 代表理事	2,000,000
D06-L-243 (広島)	瀬戸内・海の路ネットワーク再生事業 柏山泰訓 港町ネットワーク・瀬戸内 代表	1,500,000
D06-L-282 (京都)	地域固有の木造伝統文化を活かした地震・火災に強い住まい・まちづくり 田村佳英 関西木造住文化研究会(Kansai Association for the Research in Traditional Housings) 代表	1,500,000
D06-L-318 (継2) (奈良)	障害のある子どもとその家族のための子育て応援情報配信システムの構築 清水俊行 奈良地域生活支援ネットワーク 代表	1,600,000

## II-3 特定課題 離島助成

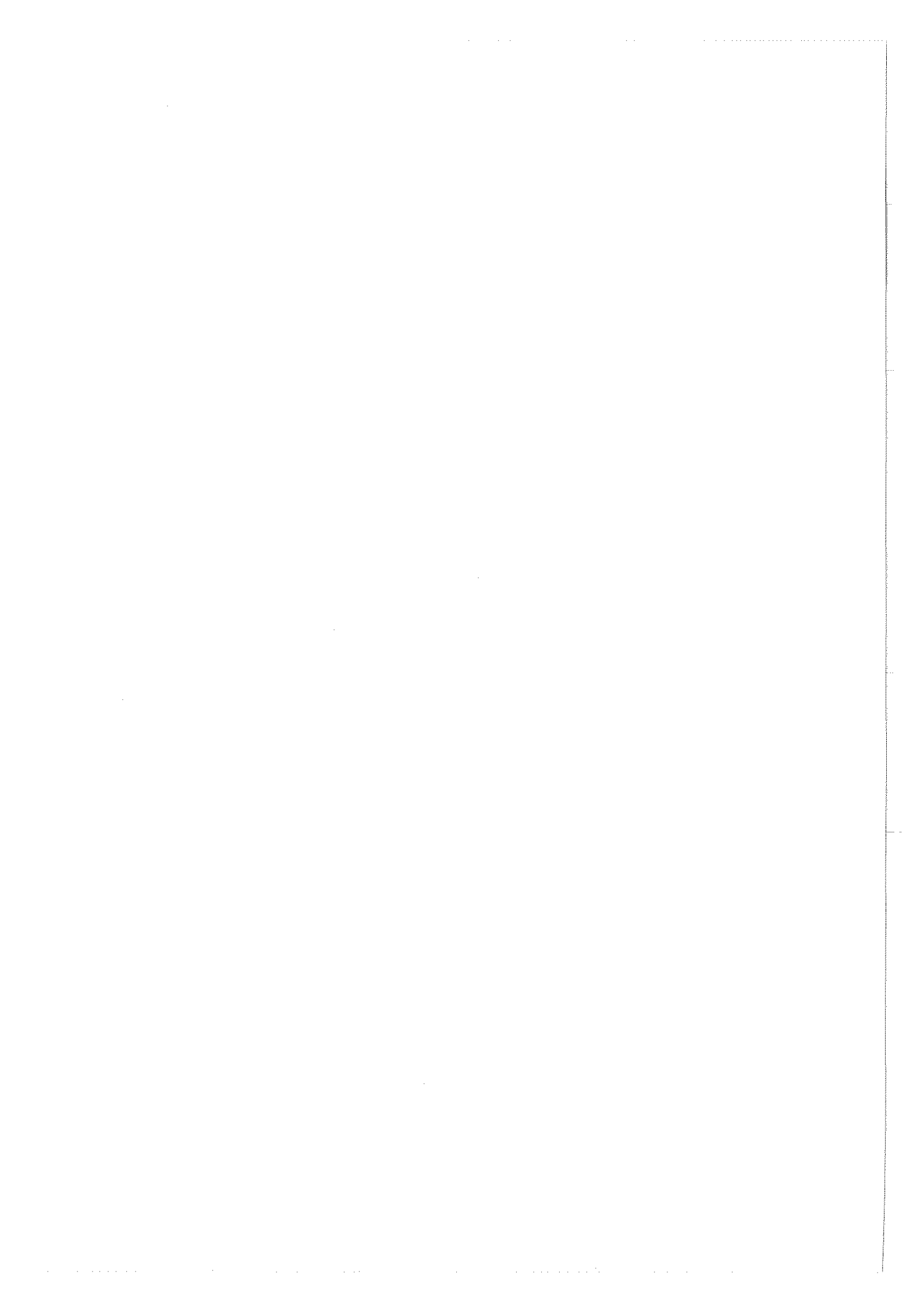
### ◎助成対象一覧

助成番号	題目 氏名 所属	助成金額(円)
D06-LI-004 (継2) (鹿児島)	トカラ【結の里】再生・新生プロジェクト——島内者・出身者・島外者による共生・協働の島おこし 牧口光彦 (特活)トカラ・インターフェイス 代表理事	500,000
D06-LI-011 (継2) (沖縄)	宮古上布の原材料、苧麻系生産に関するプロジェクト 下地克子 (特活)マーズ 理事長	800,000
D06-LI-014 (三重)	住んでよし、訪れてよしの答志島 濱口 巖 答志島活性化21委員会 座長	500,000
D06-LI-017 (継2) (新潟)	牛位置情報システム実験や「スローモウツァー」を通じた放牧基金デビュー 十文字修 佐渡の牛1200年倶楽部 代表	1,000,000
D06-LI-018 (東京)	フラダンスプロジェクトの持続的実践事業化を図り、八丈島産業育成の柱を構築する 宮崎岩一 (特活)八丈島産業育成会 理事長	1,000,000
D06-LI-019 (沖縄)	八重山の在来作物栽培保存と伝統的食の普及活動 石垣博孝 八重山食文化研究会 会長	500,000
D06-LI-020 (宮城)	大島「海の駅交流販売拠点」開設事業 畷 健 大島「海の駅交流販売拠点」開設事業委員会 代表	500,000
D06-LI-030 (島根)	フェアトレードによる Sakura no Ie ブランドの構築 後藤隆志 (特活)だんだん 共同作業所 さくらの家 商品開発研修生	800,000
D06-LI-035 (熊本)	伝馬船復興による地域振興プロジェクト 黒田忠廣 アイランドツーリズム推進協議会 会長	1,000,000
D06-LI-036 (山口)	インターネットTV番組「島シゴトづくり辞典」で自分らしい働き方を考えるきっかけづくり！ 大野圭司 金魚島インターネットTV 運営者	1,400,000
D06-LI-039 (香川)	日本一小さな離島における介護事業の推進 中條愼也 (特活)ハイ・フォロー・ステーション 理事長	700,000
D06-LI-042 (継2) (沖縄)	映画祭でつなぐコザふるさとコミュニティネットワークの構築 林 僚児 スタジオ解放区 共同代表	500,000
D06-LI-050 (佐賀)	玄界灘を結ぶ新しい懸け橋「百済武寧王と加唐島」の日韓観光ルートづくりで地域活性化を！ 浦丸 護 武寧王交流唐津市実行委員会 委員長	800,000

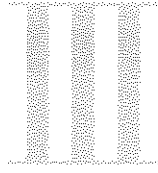
## II-4 特定課題 ユース助成

### ◎助成対象一覧

助成番号	題目 氏名 所属	助成金額(円)
D06-LY-005	モクズガニで一石三鳥を狙え!—農業復興に通じ川の浄化にもなるお年寄りができる簡易養殖技術の確立を目指して (宮城) 我妻一樹 宮城県柴田農林高等学校 水棲生物研究班 高校2年生	500,000
D06-LY-007	地産地消 地域と相可高校生の協働—相可高校食物調理科から5つの提案 (三重) 安達まどか 三重県立相可高等学校食物調理科 高校2年生	500,000
D06-LY-008	認知症対応ネットワークの一翼を担う高校生 (福岡) 高山敦至 (特活)ソーシャルサポート相談室内 中学生自主学習グループ“ぐんぐん” 高校3年生	500,000
D06-LY-009	徳之島の伝統文化である「闘牛」での島興し (鹿児島) 常村成建 樟南第二高等学校 高校2年生	500,000
D06-LY-011	体験を通して学ぶ地域のつながり—児童にひろめる心のバリアフリー (兵庫) 大山貴弘 地域探検隊 高校3年生	500,000
D06-LY-014	ヒロシマから世界に 夢と希望を (広島) 松下英樹 (特活)HPS国際ボランティア ヤングチーム 高校1年生	500,000
D06-LY-015	高校生・若者による問題解決のための相互扶助活動および社会的弱者支援をととしての「家族的共同体」構築事業 (福岡) 武田世菜 市立飯塚高校 高校1年生	500,000
D06-LY-017	兵庫県加古川市志方町周辺の農業環境保全活動 (兵庫) 水谷昌穂 ガテン@工藤組 高専4年生	500,000
D06-LY-019	商品開発を基調とした地域活性化 (三重) 田中千夏子 松阪商業高校 空き店舗活用事業「あきない屋」 高校2年生	500,000
D06-LY-023	もったいないから始まった私たちの町おこし (高知) 和田あゆみ 高知農業高等学校 園芸研究班	500,000







# 研究助成プログラム

## III-0 研究助成プログラムの概要と活動結果

2006年の研究助成プログラムは研究助成(本体)、特定課題「アジア周縁部における伝統文書の保存、集成、解題」、特定課題「助成金が活きたとは」から構成される。

当年度から本体はテーマを「くらしといのちの豊かさをもとめて」、「アジアにおける多元性、相補性、協働性」と切りかえた。これは、グローバル化や近代化の波にさらされる現代社会における生活の質的な豊かさのありよう、およびアジアにおける協調的な関係の諸相を明らかにすることが狙いである。4月1日から5月20日まで一般公募を行い、合計で795件の応募を得た。新テーマが十分には浸透しきれなかったことにより、応募件数は減少した。

選考体制は研究助成本体では、李成市(早稲田大学教授)委員長以下7名から成る選考委員が選考にあたった。選考の結果本体では52件、1億5,000万円が候補として選出され、第113回理事会において決定した。

申請件数に対する助成件数を採択率とした場合、全体では6.5%とさきわめて高い競争率となっている。

特定課題「アジア周縁部における伝統文書の保存、集成、解題」は2004年度において幕を閉じたトヨタ財団(旧)東南アジアプログラムの貝葉文書などの郷土文書保存(集成)事業への支援の流れを引き継いだものであり、当年度は2年度目となった。対象とする地域は、東南アジアよりも広域的な「アジア周縁部」となっている。本体と同様に4月1日から5月20日まで一般公募され、32件の応募があった。

本特定課題の狙いは、グローバル化の圧力下での地域(郷土)アイデンティティの醸成である。個別プロジェクトのアウトプット(成果物)としての集成された伝統文書が、どのように地域(郷土)アイデンティティの強化に資するか、その道筋とアイデンティティの強弱に関する評価指標を研究することが必要になる。

選考体制は、クリスチャン・ダニエルス(東京外国語大学教授)委員長以下全3名からなる選考委員が選考にあたった。選考の結果11件2,000万円が候補として選出され、第113回理事会において決定した。

特定課題「助成金が活きたとは」は、近年爆発的に増大し、研究者集団に大きな影響を与えているいわゆる外部競争的資金とその評価に関わる課題にあらたな光を当てようというものであり、当年度は2年度目となった。当プログラムも4月1日から5月20日まで一般公募され、31件の応募があった。

発表論文数などの現行の学術評価指標に対するオルタナティブな評価指標の提示が、本特定課題の狙いである。しかし、この2年間で研究アウトプットの地元(調査対象地)への還元という評価要素だけがクローズアップされてきたきらいがある。本特定課題の実施期間(2005~2008)の間に、さらに新たな代替的な評価要素が提示されるかが、課題となってくる。

選考体制は石田紀郎(京都学園大学教授)委員長以下、3名からなる選考委員が選考にあたった。選考の結果5件1,000万円が候補として選出され、第113回理事会において決定した。

他に①「在華・在韓朝鮮族、在韓華僑」研究会(2007年2月)、②「『くらしといのちの豊かさ』評価・モニタ研究会(第1回)」(2007年2月)をそれぞれ開催した。

①は当該領域における助成対象者間の情報交流を目指したものであるが、コメンテーターの専門家からの助言等もあり、対象者・研究者にとって有意義なものとなった。

②はこれまでのプログラム運営の力点が、選考(事前評価)に力点を置きすぎて、アウトプット(成果物)やインパクト(特に学術界を超えた社会への波及効果)の把握が不十分であったという問題意識のもとに行われた。プロジェクトやプログラムの評価要素の検討、モニタリング・フォローアップ手法の進化を目指したものであり、議論の中においても、「生命力のあるアウトプット」、「複線的な評価軸」、「助成対象者・選考委員・事務局の連携」などが強調された。こうしたことは財団のプログラム運営にとって非常に重要なテーマであり、次年度以降においても継続的に検討を推進していく必要がある。

[表III-0] 2006年度研究助成助成実績

	応募件数 (件)	助成件数 (件)	予算 (万円)	助成金額 (万円)
研究助成「くらしといのちの豊かさをもとめて」	795	52	15,000	15,000
特定課題「アジア周縁部における 伝統文書の保存、集成、解題」	32	11	2,000	2,000
特定課題「助成金が活きるとは」	31	5	1,000	1,000
計	858	68	18,000	18,000

## III-1 研究助成 くらしといのちの豊かさをもとめて

### 選考について

李成市 [選考委員長]

#### はじめに

2006年度は、トヨタ財団研究助成の枠組みが大幅に改訂された年にあたる。これは12年ぶりのものだという。これまでは「多元価値社会の創造」という主題を掲げていたが、今年度から、「くらしといのちの豊かさをもとめて」に切り替わった。その募集要項を一読すればわかるが、単なる主題の変更にとどまらず、主題の後景にある世界と学問の眺め、主題を取り巻く副主題とでも呼べる発想群、そしてそれらの提示の方法、いずれをとってもトヨタ財団独自の枠組みといえよう。そこからは、トヨタ財団がどのような学問像、さらにはどのような世の中の姿を探求しているのかが見えてくる。この改訂の作業の背後には、2003年秋から2年間に亘るトヨタ財団の未来像についての討議、さらにはその後の実務レベルでの細かな議論の積み重ねがあったと聞く。

上のような性格の新たな助成枠組みであるだけに、われわれ審査にあたる選考委員は相当の時間とエネルギーを費やした。ここに寄せられた800件近い企画書の審査は3ヵ月以上の時間をかけて行われていることを申し上げておきたい。また、この選後評それ自体も、今年度の応募者に向けてかけられるとともに、来年度以降の応募者に向けて書かれていることにも留意していただきたい。

#### 企画を見る視点を作る

審査の過程の最初の段階でもっとも大きな力を注いだのは、どのような視点を以って膨大な量の企画書を見るのかについて議論をおこなうことだった。この点にかかわる意見交換を重ねて、どのような企画がトヨタ財団の新しい枠組みにふさわしいかに関するゆるやかな合意を取

りつけておくと、個々の選考委員の好みと解釈——ともすればばらばらになりやすい——へのお任せで企画が選出されるという事態を避けることができる。逆に言うと、各々の選考委員の個々の見方を越えた、トヨタ財団研究助成選考委員会としての集合的な見識をつくりだし、その傘の下で個々の企画を審査するための仕掛けである。もちろん、この合意は狭いものではなく、国籍、専攻などで多様な背景を持つ選考委員から作り出される寛やかなものである。

参考までに、選考委員の間で合意が取れた視点のうち主なものを整理すると以下のとおりである。一見すると次元の異なるものばかりだが、それがあいまって1つのコスモスをなしている。

●今年度の採択案件は、次年度以降の応募者が企画・立案の際の手がかりとすることに留意する。とりわけ、今年度が「くらしといのちの豊かさをもとめて」の立ち上げの年であるため、上の点はおもい。

●本助成の募集要項3ページに記載されている、「くらしといのちの豊かさをもとめて」、「アジアにおける多元性、相補性、協働性」、「中庸」、「身体を通じた世界の理解」、「まだよくわからない、でも大事な問題である」などを含んだ概念図——選考委員の間ではトヨタ曼陀羅と呼ばれたことを記しておく——に即しつつ、各案件を査読していく事とする。

●また、トヨタ曼陀羅については、排除の原則とはみなさずむしろ包摂の原則とする。

●よい意味のアマチュアリズムを支援する。

●ことばの力に関し、審査にあたる選考委員の知情意に

訴えかける力の強い企画書を優先する。

読者の方々はどのように感じられるだろうか。筆者からすると、「トヨタ曼陀羅」、「よい意味のアマチュアリズム」、「ことばの力」といった点を重んじることにトヨタ財団研究助成の独自性があるように思われる。手元にあるトヨタ財団研究助成と領域的に重なる公的助成金の公募要領を見ても、このあたりはまったく異なる。

### 選考委員の印象

それでは、上のような視点に拠って大部の企画書を読んだ選考委員たちが抱いた印象はどのようなものであったのだろうか。そのいくつかを抜粋して紹介したい。

1. 各々個別の研究をしていたものが、トヨタ財団の名のもとに集い、新しい研究のあり方、ひいては新しい学問のあり方を問いかける。そのような場をトヨタ曼陀羅の中に見出したいと思う。
2. 主題が大幅に変更されたことを受けて、(これまで人類学などに偏る傾向のあった)応募者の多様性が高まった。
3. 客観性、実証性、細分化、精密な方法を駆使する研究者からも「くらしといのちの豊かさをもとめて」という主題に積極的に反応しようという動きが見られたことはうれしい。
4. 従来の研究対象とは異なる研究が確かにできていく。推薦の物差しは、これまでは研究の対象になりにくく、しかも重要な研究であること、そして研究成果がいくらかでも出た場合は、それが他の研究者の意欲を刺激し、従来の発想の範囲を広げる効果があるものとした。
5. 選考の最終段階まで残った応募者は、新たな主題を正

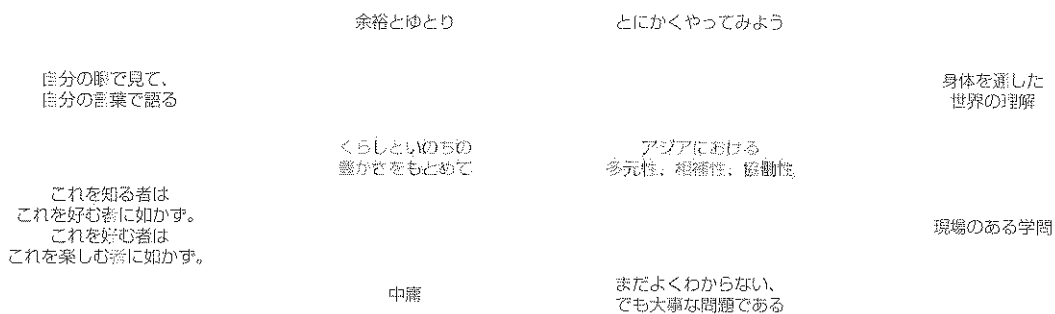
面から受け止める努力を行い、企画書の文章を自らの言葉で語るべく格段の工夫が感じ取れた。

6. 「くらしといのちの豊かさ」を自らの研究に取り組むことによって、形式化した学問の専門性を越えようと試みたり、問題意識の希薄化やルーティンワーク化した研究のあり方を問うたりしている点が印象的であった。たとえば、研究対象を語るにも身体的な感性から再定義されている点など特筆に値する。

各選考委員から寄せられたこの印象も熟読味読していただければ幸いである。ここには、選考の最終段階まで残り、理事会に推挙されるに至った企画の性格が浮き彫りにされている。一言を以って蔽えば、「くらしといのちの豊かさをもとめて」の募集要項(トヨタ曼陀羅と言いかえてもよい)をじっくりと読み込み、それが指し示す思想を咀嚼し、共鳴した応募者の企画が選考委員たちの心を捉えたのである。付け加えるとすれば、研究の対象、さらに方法などを身体的な感性から定義しなおすプロセスもこの枠組みへの応募に際しては必須だといえる。ここが、ことばの力を生み出す源泉なのだから。

「くらしといのちの豊かさ」を中核にすえたトヨタ曼陀羅の最初のステップが今年記された。このような年に選考にあたった筆者をはじめとする選考委員にとっては大きな榮譽である。そして、トヨタ曼陀羅が新たな学風を興すための場になりうるか否かは、今後の助成対象者そして広くは応募者の力を待つところがある。筆者によるこの選後評がそれらの人々の助けになれば望外の喜びである。

### 研究助成「くらしといのちの豊かさをもとめて」概念図：通称「トヨタ曼陀羅」(2006年度研究助成募集要項より抜粋)



◎助成対象一覧

助成番号	題目 氏名・所属	助成金額(円)
D06-R-0003	人と人のふれあいから世界のうねりへ——日韓の障害種別を越えた人々による国際障害者権利条約策定過程における相互理解、連携、そして未来について 田中麻希 オックスフォード大学法社会学研究センター 院生	1,500,000
D06-R-0008	GNH(国民総幸福)のための輝けるブータンのヴィジョンに向けて——保護地域のための持続可能な観光産業モデルの発展 (ブータン) テリング・カルマ シドニー大学 研究生	1,700,000
D06-R-0035	インドシナ半島の人々の由来と生活史——自然人類学が明らかにする多元的構造 松村博文 札幌医科大学医学部 講師	5,100,000
D06-R-0048	芸能による地域共同体の再構築——沖縄における村踊り伝承の支援 板谷 徹 沖縄県立芸術大学 教授	4,000,000
D06-R-0060	アイヌ衣服・製作の歴史——縫合・刺繍技法と文様構成の視点から 津田命子 (社)北海道ウタリ協会 北海道立アイヌ総合センター 学芸員	3,100,000
D06-R-0063	カンボジア農村部に広がる寄生虫感染をなくすために——食習慣が原因となる寄生虫感染への村人と保健行政スタッフによる取組み (継2) 宮本和子 神戸大学大学院医学系研究科 院生	3,980,000
D06-R-0081	伝統工芸品「油団」の化学計測とものづくりへの応用——伝統材料の特質を化学の目で解明する 石田康行 名古屋大学エコトピア科学研究所 助手	2,000,000
D06-R-0083	20世紀前半の韓国における歴史的建造物の保存と修理工事に関する研究 (韓国) 金 政淑 早稲田大学大学院理工学研究科 院生	2,100,000
D06-R-0094	東南アジア諸国の水辺集落の伝統的環境様式と近代化変容に関する調査研究 松田博幸 近畿大学工学部 助教授	4,000,000
D06-R-0097	赤ちゃんにおむつはいらない——失われた身体技法を求めて 三砂ちづる 津田塾大学学芸学部国際関係学科 教授	8,000,000
D06-R-0100	「故郷」を求めて——二つの国家へ移り住んだふたつの民族 (バングラデシュ) チョードリー・マナス・クマール 広島大学大学院国際研究協力学科 特別研究員	1,200,000
D06-R-0102	歴猿の研究——消えゆく民間信仰の記録とサルをめぐる日本およびアジアの自然観の研究 川本 芳 京都大学霊長類研究所 助教授	4,000,000
D06-R-0104	日本における妖怪の見られる生活空間——奄美大島・遠野を事例として 小林久高 筑波大学大学院人間総合科学研究科 院生	1,110,000

助成番号	題目 氏名 所属	助成金額(円)
D06-R-0121	東南アジア島嶼部辺境のくらしと定期市——その文化・歴史・生態に関する人類学的研究 辻 貴志 神戸学院大学大学院人間文化科学研究科 院生	3,000,000
D06-R-0139	農業の身体性と農村空間の表象分析——現代マンガにみる「田舎暮らし」の豊かさおよびよこび 一宮真佐子 京都大学大学院農学研究科 院生	910,000
D06-R-0158	日本の教育現場でアフリカの飢餓・内戦を考える実践的研究——一枚の写真(ハゲワシと少女)を用いて 縄田浩志 鳥取大学乾燥地研究センター 講師	2,800,000
D06-R-0179	日本植民地期台湾人の「日本留学」に関する研究——高等教育機関の受け入れを中心に (台湾) 紀 旭峰 早稲田大学大学院アジア太平洋研究科 院生	1,000,000
D06-R-0214	中国農村部における環境保護と住民生活改善の両立の可能性 (中国) 蔣 宏偉 東京大学大学院医学系研究科 客員研究員	2,520,000
D06-R-0230	地域主体の地域おこしにむけて——熊野古道とともに生きる人びとの実践から 古村 学 龍谷大学社会学部 非常勤講師	1,500,000
D06-R-0241	東南アジアから日本へ続く発酵茶文化の具体的伝播経路に関する研究——日本茶文化起源の再考察 佐々木綾子 京都大学大学院農学研究科 院生	950,000
D06-R-0280	戦時・解放期(1937～50年)における朝鮮農村の社会変動——断絶と連続をめぐる実証研究 (韓国) 李 栄薫 ソウル大学校経済学部 教授	7,600,000
D06-R-0304	タイ北部の都市における山岳少数民族の生活・労働実態と健康リスク——豊かさを求めるマイノリティーの生活・健康改善を目指して 小堀栄子 京都大学大学院医学研究科 研究員	5,800,000
D06-R-0311	1世から2世へ、語りが紡ぎだすくらしの記憶——故郷へ帰らなかったハルモニ、帰ったハルモニのライフ・ストーリーの聞き取りから見えるもの 成相千晶 NPO法人京都コリアン生活センターエルファ 訪問介護員	2,700,000
D06-R-0326	「環境・資源」の視点に立った日本林制アーカイブズの総合的調査研究 高橋 実 大学共同利用機関法人人間文化研究機構 国文学研究資料館 教授	4,000,000
D06-R-0334	職人と守護聖者の「熱い」関係——中央アジアのオアシス都市職人におけるイスラーム的守護聖者崇敬の現代的機能と意義 菊田 悠 北海道大学スラブ研究センター 21世紀COE非常勤研究員	1,000,000
D06-R-0337	マフとして生きる/マフと共に生きる——タヒチの性の多様性について 桑原牧子 千葉大学文学部 非常勤講師	2,600,000
D06-R-0351	絶滅危惧種百山粗冷杉( <i>Abies beshanzuensis</i> )の繁殖力回復および遺伝育種技術開発 (中国) 邵 順流 浙江省林業科学院生態研究所 副研究員	4,500,000
D06-R-0360	親の愛は貧しさに打ち克つ——南インドの多言語農村地帯における児童労働と復学の可能性 伊藤成朗 日本貿易振興機構アジア経済研究所 研究員	3,000,000

助成番号	題目 氏名・所属	助成金額(円)
D06-R-0364	地域に生きる中学生エンジニア育成プログラム——1リットルのガソリンで1000km走れるクルマ作りを通して 箕田大輔 長野市立篠ノ井西中学校 教諭	3,920,000
D06-R-0389	美術館に於ける未就学児のための鑑賞教育プログラムの研究 稲垣立男 稚内北星学園大学情報メディア学部 助教授	2,000,000
D06-R-0422	北京前門・大柵欄地域の伝統的景観の画像化と住民の歴史的記憶に関する緊急調査研究——16世紀以来の住民の日常生活と社会経済構造の全体像を再構築する基礎的資料の蓄積のために 〔中国〕 熊 遠報 早稲田大学理工学術院 助教授	8,000,000
D06-R-0433	カンボジアにおける在来染織物業の生産と消費に関する基礎的研究——自然、文化、社会史を軸とした村落生活世界の総合的理解を目指して 朝日由実子 上智大学大学院外国語学研究所 院生	2,000,000
D06-R-0446	植民地期朝鮮における「儒教文化」の研究、その形成と変容——儒教イデオロギーの再編と植民地文化の遺産 〔韓国〕 柳 美那 ソウル大学奎章閣韓国学研究所 研究員	1,100,000
D06-R-0460	地域社会における自助的課題解決の軌跡に学ぶ——戦後沖縄社会の商工業における互助的金融「模合」の役割に注目して 生地 陽 神奈川県立藤沢工科高等学校 教諭	1,000,000
D06-R-0475	オンナの身体の近現代——日本の近代化・西洋化による女性の月経の変質 鈴木明子 東洋大学東洋学研究所 客員研究員	1,500,000
D06-R-0494	モデル地域での活動経験を全国展開に活かす方法論の開発——ベトナム・ベンチエ省の母子健康手帳プログラム 板東あけみ ベトナムの子ども達を支援する会 事務局長	4,000,000
D06-R-0514	福岡県耳納連山北麓地域における「捨て柿」活用による農村景観の保全と地域経済再生に関する研究 和仁宗憲 グランドワークみのう設立準備会(NPO)	900,000
D06-R-0528	共生困難な(他者)とともに暮らすための手がかりの探求——日中戦争敗戦後の日本人戦犯の“改心”をめぐる「自筆供述書」の収集・調査・整理を通じて 〔中国〕 張 宏波 関西学院大学言語教育研究センター 常勤講師	2,100,000
D06-R-0538	失われゆく文化と創造される文化のはざまに「自分らしさの確かな自信」を求めて——台湾平埔族の伝統文化復興運動の諸相を通して見た、多元化する現代社会における民族と文化の意味 清水 純 日本大学経済学部 教授	1,300,000
D06-R-0548	植民地時代における朝鮮鉄道の社会経済的な影響力に関する研究——断絶と連続性の観点から 〔韓国〕 李 容相 韓国鉄道技術研究院 責任研究員	2,600,000
D06-R-0557	ベトナムにおける貨幣のうごき——出土銭からみる、くらしの豊かさへの探求 菊池誠一 昭和女子大学生活機構研究科 助教授	3,000,000
D06-R-0576	中国近代対日観の形成と変遷(1904～1948年)——商務印書館「東方雑誌」に対する分析を通じて 〔中国〕 呉 広義 中国社会科学院世界経済政治研究所 教授	1,560,000
D06-R-0583	老人の生きる時空・老いを活かす新たな基準——「撮る」「観る」「創る」映像制作ワークショップ 村尾静二 総合研究大学院大学文化科学研究科 院生	5,000,000



助成番号	題目 氏名・所属	助成金額(円)
D06-R-0589	生きる糧としての音楽——大祖国戦争(独ソ戦)期のロシアにおける経験に即して 梅津紀雄 工学院大学 非常勤講師	1,450,000
D06-R-0594	「命」の尊厳を求めて——写真撮影を通して現代ミャンマー(ビルマ)の実態と今後を追う 宇田有三 報道写真家	2,000,000
D06-R-0616	留学生を通じた南アジアと日本の相互理解と共生・共存の課題——異文化の人々と共生・共存する心豊かな社会を目指して 佐藤由利子 東京工業大学留学生センター 助教授	2,700,000
D06-R-0630	「はかる」ことが暮らしに与える影響の研究——東南アジア農村部の暮らしを脅かす陰の力 東 智美 (特活)メコン・ウォッチ ラオス担当	2,500,000
D06-R-0694	タイにおける藻場の生態調査ならびに海産植物図鑑の作製——生命のゆりかごを守るために 筒井 功 国際農林水産業研究センター 特別派遣研究員	6,300,000
D06-R-0698	アパルトヘイト期の南アフリカに居住した日本人に関する考察——「名誉白人」としての経験と語りに注目して 飯田めゆ ケープタウン大学大学院社会学専攻 院生	1,500,000
D06-R-0727	聞き書きを地域再生に生かす——新潟水俣病が生み出した分断を乗り越える実践への貢献 小尾章子 九州大学大学院比較社会文化学府 院生	2,220,000
D06-R-0734	南ラオスの語り歌「ラム」に歌われる故郷の風土と暮らし——そこに描写される豊かな生活世界を味わうための歌詞全訳および解説作成の試み 虫明悦生 京都大学東南アジア研究所 研修員	4,180,000
D06-R-0743	15世紀中央チベットにおける大仏塔建立の調査と記録——郷土愛と信仰の象徴であったチュンリウォンチェを一事例として 大羽恵美 金沢大学大学院社会環境科学研究科 院生	1,500,000

## III-2 特定課題

### アジア周縁部における伝統文書の保存、集成、解題

#### 選考について

クリスチャン・ダニエルス [選考委員長]

##### 1. 審査結果の概要

本年度は「アジア周縁部における伝統文書の保存、集成、解題」が発足して2年目に当たるが、応募件数は初年度より4つ増えて32件にのぼった。この32件のうち、辞退願いが出て1件減り、審査の対象となった件数は合計31件であった。31件のうち21件はアジア周辺地域在住の研究者や機関からの申請案件であり、海外からの申請が10件に止まっていた2005年に比して倍増したことは、アジア地域において本特定課題に対する需要の大きさを反映していると同時に、本特定課題に関する情報がある程度浸透してきたと選考委員会は受け止めている。さらに、採択件数が海外からの申請企画5件を含む11件という高い採択率になったことは、助成金総額が2,000万円に増やされたこととも関係するものの、本特定課題の趣旨に即した堅実な伝統文書保存計画を立てた申請者が多かったことを示していると言えよう。

##### 2. 保存の緊急性と地元参加の必要性

本年度の申請企画の多くは、民間に保有されている伝統文書を対象にしており、企画書からは伝統文書が消滅の危機に晒され、緊急に保存する必要性が切実な課題となっていることがひしひしと伝わっている。昨年度の選後評でこれを指摘しておいたが、本年度の審査過程においても緊急性が常に存在する要因であることが確認され、この報告書でそれを改めて強調しておきたい。すなわち、経済発展と政治統合が進行する中で、アジア各国内の周縁部と位置づけられる少数民族地域において、資金不足や専門家の不在などの理由によって伝統文書が保存されていない現実に対処するために、本特定領域による保存、集成、解題

の事業が急務であることが確信されたのである。

また、昨年度と同様、本年度の申請企画にも地元の人々の参加が広くみられる。日本国内外を問わず、多くの代表者が地元の人々がいづく伝統文書保存への強い要望を活かした申請企画を立てたことは極めて重要である。なぜならば、地元の人々にとっては、伝統文書は自らの歴史と伝統を再構築する貴重な資料となっており、伝統文書の保存は地域文化の維持・発展にも貢献し、地元の人々のためになるからである。本年度の申請案件の約3分の2がアジア地域在住の研究者や機関からの企画を占めた事実は、このような地元の要望が広く認識されている現われである。保存事業を円滑に進めるためにも、今後の本特定課題の選考において、地元の人々が参加する申請案件に対して高い優先順位を与えることが望ましい。

##### 3. 助成の地域的広がり

先ず、本特定課題が対象にしているアジア周縁部について簡単に述べておく。アジア諸国の歴史と文化は往々にして重層する地域や文化圏と絡みあっており、複数の国家にまたがって存在する場合も多い。アジア周縁部は緩やかな概念であるが、ここでいう周縁部とは、1カ国の中にも存在し、また大文明や強大な文化圏からみて周縁部に位置づけられた地域と民族をも指している。この概念の中には、いわゆる大文明に対して小文明とされた地域や文化圏も含まれ、また国家の大小を問わず、アジア各国内で周縁部と位置づけられる少数民族が居住する地域なども含まれる。

本年度の応募案件はアジア各地域に及んでいたが、

採択された案件の地域的分配は、中央アジア1件、モンゴル1件、中国西南部1件、東南アジア7件及びインド1件となった。これは昨年度と同じような広い地域をカバーする結果となったが、7件も東南アジアに集中した点は昨年度と異なる。なお、東南アジアの内訳は、ラオス1件、インドネシア1件及びミャンマー5件であった。これは今年度東南アジアを対象とする優れた申請企画が多かったことに起因する。ミャンマーの比重が重くなったのは、地元の人々への還元とこれまで保存事業が行なわれたことがなかったミャンマーの少数民族が対象となっているなどが評価されたからである。

地域別にみると、採択された各案件は以下の通りである。

#### 〈中央アジア〉

「新疆・フェルガナ両地域におけるマザール文書の調査・集成・研究」(菅原純)は、中華人民共和国とウズベキスタン共和国の両地域において、地元の研究者と共同で民間に所蔵されているマザール文書の保存体制を確立して、文化教育活動も行い、収集文書の一部を影印本の形として出版するプロジェクトである。これは1年目の活動が順調に進行しており、高く評価された継続申請企画である。

#### 〈モンゴル〉

「シルクロード草原の道における仏像遺跡(石窟)出土チベット語古文書の保存と解題」(大野旭(楊海英))は、中華人民共和国内蒙古オールドス市のアルジャイ石窟から出土したチベット語の古文書を電子化・マイクロフィルム撮影・影印出版の手法によって保存する企画である。作業は現地の文物管理所と共に行なう体制をとっている。これは1年目の活動が評価された継続申請企画である。

#### 〈中国西南部〉

「『指路経』を中心とする雲南省彝族経典の収集・保存・分類とデータベースの作成」(藤川信夫)は、中華人民共和国雲南省の少数民族である彝族の文字で書かれた経典を民間から収集して保存するプロジェクトである。デジタルカメラ撮影によって収集された経典のデータベースを制作する企画であり、現地で彝族古文書の救済・保護に従事している人々が強い意志を表明して事業に当たる姿勢を示している。

#### 〈東南アジア〉

「北部ラオスにおけるタイ・ナー文書解題」(コンドワン・ネータヴォン)は、今まで等閑視されたラオスに居住する少

数派のタイ・ナーの文字で書かれた文書を調査・目録化するプロジェクトである。これは現地発案のプロジェクトであり、タイ・ナーの専門家も企画に参加している。これは1年目の活動が順調に進行しており、高く評価された継続申請企画である。

「タノ・アベ宗教塾(インドネシア、アチェ)所蔵写本の調査ならびにカタログ化」(青山亨)は、タノ・アベ寄宿塾が所蔵するイスラーム関係写本所蔵目録を作成する企画である。現地の研究者も多数参加する。

「ミャンマー古文書パラバイの保存・集成」(伊東利勝)は、僧院や個人が保有するパラバイをマイクロフィルム撮影し、これをコマごとに電子化して高精細な画像とし、画像ごとに書誌情報を付したデータベースを作成するプロジェクト。ミャンマーの研究者と協力しながら、書誌情報データなどをインターネット上で閲覧できるようにする企画でもある。

「ミャンマー、カレン族の伝統文書の保存、目録、翻字」(ニ・ニ・ミン)は、ミャンマーのカレン州の僧院に保有されている仏教ポー・カレン文字で書かれた貝葉を調査して影印本による保存を行なう企画である。これは現地発案のプロジェクトである。

「11～19世紀ミャンマー伝統文書ダマサットおよび法律的写本の目録作成・翻字・翻訳・保存」(池谷智慧)は、現地の研究者などと協力しながらミャンマー法制史関係の写本資料を、マイクロフィルム撮影と電子化の手法によって保存し、史料の一部を影印本によって出版することを目指す企画である。

「ミャンマーにおける古代のモン族の貝葉及び文書の保存・集成・解題」(ニュン・ハン)は、ミャンマー、モン州の僧院、農村及び機関に残るモン文字で書かれた貝葉をマイクロフィルム撮影と電子化の手法によって保存し、その一部のミャンマー語翻訳を出版する企画である。これは現地発案のプロジェクトである。

「ミャンマーの貝葉およびパラバイの保存管理 特にシャンとモンの文書に関して」(タン・タウ・カウン)は、主にミャンマーのシャン州に保有されているシャン文字とパオ文字で書かれた貝葉をマイクロフィルム撮影と電子化の手法によって保存し、稀覯と見做される貝葉を影印本によって出版する企画である。これは現地発案のプロジェクトである。

#### 〈インド〉

「東部インド・オリッサ州丘陵地域における伝統文書の目録化と保存・収集プロジェクト」(杉本浩)は、現在のオリッサ州の周縁部に位置した旧ケオンジャル藩王国関係貝葉文書の目録を作成して、写真撮影を行なった上でその一部を影印本出版という形で保存する計画であるが、現地の研究者のほかにも、この文書群に対して豊富な知識を有する現地の僧侶と学者を動員して文書に対する知識の保存・継承をも視野に入れている。これは1年目の活動が順調に進行しており、高く評価された継続申請企画である。

トヨタ財団は約30年にわたり、東南アジア地域の伝統文書の保存事業を助成してきたが、本特定課題はその保存事業をアジア周辺地域へと転換する試みでもある。本年度採択された案件の地域的広がり、このような伝統文書の保存事業に対する需要がアジア各地域へと確実に拡大している事実を示すと同時に、東南アジア地域にも伝統文書の保存に対する需要がなお甚大であることを明示する結果となった。

#### 4. 来年度以降に向けて

2年度目の申請企画から、伝統文書を保存する方法として実にさまざまな手段が想定されていることが確認された。初年度と同様に、最適とされるマイクロフィルム撮影以外にも、デジタル撮影や影印本による出版を企画している申請もみられた。選考委員会では、現地において、

伝統文書に対するアクセスを高める手段としては、影印本による出版は有効ではあるが、出版費が過大な比重を占める予算を組む刊行目的の申請案件は本特定課題の趣旨から外れていると考えている。また、応募金額を最大の上限に合わせた案件は多かったが、どの企画においても申請者が所期の事業を遂行するために、適正な予算を計上して最大の成果を狙うことが望ましいと選考委員会は考えている。

初年度と同様に2年度目の審査経過からも、アジア地域において伝統文書の保存事業に対し、研究者と地元の人々から大きな期待が寄せられていることが確認された。今後も、本財団の助成の特質を活かして、伝統文書の保存・普及に資する成果をもたらす企画を促進していきたい。

#### 5. 成果公開の枠組み作りへ

最後にもう1点付記しておきたい。本特定課題は昨年度から立ち上がった。今回の選考委員会においても議論されたが、来年度からは出版などの形態での成果公開の打診が寄せられてくることになると予想される。本財団の研究助成本体の方では、そのような成果公開のための別の枠組みが既に整備されていると聞く。本特定課題においても同種の枠組み作りがおこなわれることを希望したい。伝統文書保存事業の最大の利点は、通常の研究に比べても、成果が出やすいことにある。これは本財団にとっても、さらにその名を挙げることにつながる。ご配慮をいただければと考える。

◎助成対象一覧

助成番号	題目 氏名・所属	助成金額(円)
D06-Q-001	ミャンマー古文書バラバイの保存・集成 伊東利勝 愛知大学文学部 教授	3,000,000
D06-Q-002	ミャンマー、カレン族の伝統文書の保存、目録、翻字 〔ミャンマー〕 ニ・ニ・ミン 民間研究者	1,000,000
D06-Q-005	北部ラオスにおけるタイ・ナー文書解題 〔タイ〕 コンドゥアン・ネータヴォン ラオス国立図書館 館長	1,300,000
D06-Q-009	11～19世紀ミャンマー伝統文書ダマサットおよび法律的写本の目録作成・翻字・翻訳・保存 池谷智恵 ホーリークロス大学歴史学部 客員助教授	1,000,000
D06-Q-013	ミャンマーにおける古代のモン族の貝葉及び文書の保存・集成・解題 〔ミャンマー〕 ニュン・ハン 考古学局 顧問	1,500,000
D06-Q-016	新疆・フェルガナ両地域におけるマザール文書の調査・集成・研究 〔韓国〕 菅原 純 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 産学官連携研究員	1,600,000
D06-Q-018	「指路経」を中心とする雲南省彝族經典の収集・保存・分類とデータベースの作成——雲南省彝族經典文化の伝承機能復興のための基礎的研究 藤川信夫 大阪大学大学院人間科学研究科 助教授	2,500,000
D06-Q-024	ミャンマーの貝葉およびバラバイの保存管理——特にシャンとモンの文書に関して 〔ミャンマー〕 タン・タウ・カウン ミャンマー図書センター 常務理事	3,000,000
D06-Q-025	シルクロード草原の道における仏像遺跡(石窟)出土チベット語古文書の保存と解題 〔韓国〕 大野 旭(楊海英) 静岡大学人文学部 助教授	1,000,000
D06-Q-026	東部インド・オリッサ州丘陵地域における伝統文書の目録化と保存・収集プロジェクト 〔韓国〕 杉本 浄 東海大学文学部 研究員	1,100,000
D06-Q-030	タノ・アバ宗教塾(インドネシア・アチェ)所蔵写本の調査ならびにカタログ化 青山 亨 東京外国語大学外国語学部 教授	3,000,000

## III-3 特定課題 助成金が活きるとは

### 選考について

石田紀郎 [選考委員長]

#### 1. 概括

昨年度から始められた、トヨタ財団研究助成特定課題「助成金が活きるとは」の公募は2年目になって応募件数も昨年の8件から31件(うち海外から10件)と増加した。本特定課題の募集要項で、「共同努力により支払われた助成金によって、わが国やアジアなどの諸地域の研究がどう進捗し、その結果として社会貢献にどう役立ってきたか、あるいはどの点が不十分なのかが、検討課題となります」と述べていることや、昨年の選後評に、「まことに試行的な枠組みであり、応募する側のとまどいもあったかもしれない」と書かれているように、本課題がすでにできあがった選考基準によって審査されるものではなく、応募者の意図と選考側の意図とがおおいに交差する中から選考基準が逐次確立されていくものであることが徐々に研究者に理解された結果であろうと思われる。しかし、残念ながら、「助成金が活きるとは」というきわめて困難な課題を掲げざるをえない科学界と助成する側が置かれている現状を十分に理解して応募したとは思われない案件も多々あったことも事実であり、残念である。かかる現実から、なぜこの特定課題を設定したかを財団側と研究者(応募者)との間の議論を継続的に深めていく必要を痛感した選考作業であった。

このような事態は本課題の設立時から予想されたことであり、財団としては本年度の募集前の2006年4月14日に本プログラムへの応募件数の増加とその内実を高めるための公開説明会を開催した。多くの大学や民間助成財団関係者の参加があり、助成する側と助成される側が助成の在り方について議論するという意義深い場が持たれた。このような場は、これまではほとんどなかったであ

う。そして、十分ではなかったが、「助成金が活きるとは」という命題は、研究の評価を表現する評価法の構築、研究過程と成果による研究助成の社会還元の実現を意図する研究の推進を通じて、「研究するとはなにか」を問うことへと進んでいくであろうと予感させる議論が展開された。本特定課題の助成を続け、このような議論を繰り返す中から自ずと回答が得られるものと思う。

#### 2. 研究者自身の翻身

昨年度の助成選考後の選考委員会の講評で、「助成金が活きるとは」の助成対象群としては、どのような視点から「活きている」を評価するのかを検討するインジケータを模索する案件と、どのような場で実践的に証明するかを考える社会コミュニケーション群があり、その両群から選考したと報告している。本年度の選考もこのふたつの視点から行われ、その結果、別記の5応募課題を助成対象候補とした。いずれの応募案件も本特定課題の意図を十分に理解したものである。選考時に議論となったもうひとつの視点として、応募した研究者自身が、この特定課題の枠で助成を受け、研究を進展させることによってどのような研究者としての質を獲得する可能性を申請書の中から読みとりたいと考えたことも付け加えておきたい。研究者である応募者はすでに身につけた確固たる考えから応募課題を実践されることを疑うわけではないが、それだけで十分だろうか。この特定課題の解を求める作業の過程で応募者自身が変わっていく可能性もまた重要である。なぜなら、「科学するとはなにか。研究するとは、研究者とはなにか」を繰り返し問い続けることこそ研究者の役割である。しかし、近年はそのような自らへの問いか

けがおろそかにされてきた結果、科学界に多くの問題を発生させている。助成課題のひとつとしてこの特定課題が設けられたのも、助成する側、される側双方に、科学と科学者のありようへの問いかけが今こそ必要であると思われたからであろう。もちろん、申請書の中からその可能性を読みとることは至難であるとは十分承知しているが、読みとることを放棄してはならないと考えた選考であった。

### 3. 採択にいたった課題とそれに対する短評

1. 「尾鷲『ロマン座』に、映画の灯をもう一度——地域の人たちと研究者がともに活動して助成金を『活かす』とは」(島岡哉 京都大学大学院文学研究科)

前年度の助成金によって質的に高い活動を実現しており、地域社会の人々と研究者の協同作業の成果も上がっている。さらに、この活動を進めることによって、実践を通した評価法の構築にまで迫る可能性がある。

2. 「1970年代の反公害住民運動が蓄積した史料の整理・活用の道を探る——史料のもつ代替不可能な価値を活かすために」(友澤悠季 京都大学大学院農学研究科)

時宜を得た研究課題であり、史料整理・研究としての活用と社会への環流を可能にしようとする申請者の意図は助成する価値があると判断した。

3. 「アジア子育て支援プロジェクト実践評価研究——成果の社会的環流は生まれたか?」(青木紀久代 お茶の水女子大学人間文化研究科助教授)

すでに本財団から助成を得て実施した研究フィールドにおける成果があり、その実績を基盤として研究の事後評価を確実に実践することによって、評価法構築へ寄与する活動である。

4. 「教育助成の効果を構成する諸要因の探求——実践による効果波及モデルの精緻化とコミュニティづくり」(波多野和彦 メディア教育開発センター助教授)

昨年度からの継続課題である。昨年度の活動によって評価法の確立を具体的実践の中でまとめつつあり、さらなる質的向上を期待できる。

5. 「もの資料をメディアに『経験』と『思い』をわかちあう手法の開発——トラベリング・ミュージアムによる実践」(落合雪野 鹿児島大学総合研究博物館助教授)

斬新なアイデアで、研究成果の社会への伝達を、研究活動の意義として着実に把握している点は本特定課題の意図に合致するものであり、新たな価値の創造がおいに期待できる。

◎助成対象一覧

助成番号	題目 氏名・所属	助成金額(円)
D06-J-013 〔継2〕	尾鷲「ロマン座」に、映画の灯をもう一度——地域の人たちと研究者がともに活動して助成金を「活かす」とは 島岡 哉 京都大学大学院文学研究科 院生	2,200,000
D06-J-021	1970年代の反公害住民運動が蓄積した史料の整理・活用の道を探る——史料のもつ代替不可能な価値を活かすために 友澤悠季 京都大学大学院農学研究科 院生	2,000,000
D06-J-022	アジア子育て支援プロジェクト実践評価研究——成果の社会的環流は生まれたか? 青木紀久代 お茶の水女子大学人間文化研究科 助教授	1,800,000
D06-J-023 〔継2〕	教育助成の効果を構成する諸要因の探求——実践による効果波及モデルの精緻化とコミュニティづくり 波多野和彦 メディア教育開発センター 助教授	500,000
D06-J-025	もの資料をメディアに「経験」と「思い」をわちあう手法の開発——トラベリング・ミュージアムによる実践 落合雪野 鹿児島大学総合研究博物館 助教授	3,500,000





# 計画助成プログラム

## IV-0 計画助成プログラムの概要と活動結果

2006年度の計画助成プログラムは、①これまでと同様に新プログラムに資するような案件に重点的に助成を実施する、②それに際しては実験的な試みも重視する、③その一方で国内外の研究機関、財団との協調関係を保つためのような案件にも一定の配慮を払う、という考えに基づき実施した。

計画助成は非公募とし、年間を通じて申請を受け付けている。選考体制としては財団内部プログラム会議での審議後、理事長の助言(確認)を経た上で理事会にて決定する。

2006年度は20件のプロジェクトに対する助成を行った。計画助成の一義的な目的は、新しい助成プログラムの開発に資することにあるが、現段階では必ずしも新プログラムの開発につながるようなインパクトは生まれておらず、個別プロジェクトレベルでの助成にとどまっている

のが実情である。これは、現在の当プログラムの運営が、財団に何らかの関わりがある有識者からの企画提案に依拠しているためでもある。

今後の当プログラム運営においては、①新プログラムの開発に資するという目的との連関を強く意識する、②財団事務局側からの積極的な「仕掛け」を促進する、ことなどが必要になってくる。

一方、他の複数の民間財団との共同助成に関しては、「国連・障害者の権利条約特別委員会への参加と推進活動」プロジェクトのように、大きな成果を収めた事例もある。

また、上智大学大学院グローバルスタディーズ研究科と協力して2006年7月に行った「アジアにおけるくらしのちの豊かさ」と題する寄付講座は、同大学側からの評価も高く、財団から広汎な社会へ向けての新たな情報発信の試みとして位置づけることができる。

[表IV-1] 2006 計画助成助成実績

	助成件数 (件)	予算 (万円)	助成金額 (万円)
計画助成	20	7,000	7,273

◎助成対象一覧

助成番号	題目 氏名 所属	助成金額(円)
D06-P-001	寄付講座「アジアにおけるくらしのち—民間学のまなざしから」 赤堀雅幸 上智大学大学院外国語学研究科地域研究専攻 専攻主任	3,300,000
D06-P-002	植民地・占領地の「協力」の比較研究—韓国、中国、満州、台湾、ヴェトナムの事例とヨーロッパの経験 〔韓国〕 朴 尚洙 高麗大学アジア問題研究所 研究助教授	6,000,000
D06-P-003 (継2)	東アジア出版人会議—東アジア地域における出版の現在から、共通の文化的課題と学問研究のあり方を探る 加藤敬事 財団法人 関科学技術振興記念財団 評議員	7,000,000
D06-P-004	デジタル社会と社会的ソフトウェア 林 亜夫 明海大学不動産学部 教授(浦安メディアセンター長)	3,400,000
D06-P-005 (継2)	ヨーロッパ非営利団体制度ならびに活動に関する調査研究 太田達男 (財)公益法人協会 理事長	3,300,000
D06-P-006	検証カンボジア和平協定から15年を振り返る—貧富の格差の縮小と民主的社会的実現に向けて(仮) シンポジウムに向けた事前調査と国際会議開催 田坂興重 (準学)アジア学院 常任理事	700,000
D06-P-007	丸木舟で琵琶湖を漕ぐ—生きがいを求めて 高谷好一 聖泉大学 教授	600,000
D06-P-008 (中国)	<i>Southeast Asia in the Age of Commerce 1450-1680(two volumes)</i> [原著英語 Anthony Reid著 Yale University Press U.S.A. 1988]の中国語での翻訳出版 吴 小安 北京大学歴史学部 副教授	5,000,000
D06-P-009	海外の日本料理ブームから日本食文化を考える 熊倉功夫 財団法人林原美術館 館長	5,000,000
D06-P-010 (継2)	『自然と文化そしてことば』の発行 眞島建吉 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 編集嘱託	5,000,000
D06-P-011 (フィリピン)	第19回アジア歴史家国際会議 フイメロ・アギラルー フィリピン社会科学評議会 会長	\$15,000
D06-P-012 (継2) (中国)	東アジアの教養人と共同知 王 柯 神戸大学国際文化学部 教授	800,000
D06-P-013 (フィリピン)	博士課程の学生を対象とした研究手法に関するトレーニング M.S.I. ジョクノ SEASREP財団 専務理事	\$50,000

助成番号	題目 氏名・所属	助成金額(円)
D06-P-014	助成財団センター 制度改革対応プロジェクト 堀内生太郎 財団法人 助成財団センター 専務理事	3,000,000
D06-P-015	国連・障害者の権利条約特別委員会への参加と推進活動 小川榮一 日本障害フォーラム 代表	1,000,000
D06-P-016	国際シンポジウム「清末中華民国初期の日中関係」 山田辰雄 放送大学 教授	4,000,000
D06-P-017	アフガニスタン国立公文書館所蔵文字資料群の調査・整理および保存 八尾師誠 東京外国語大学外国語学部 教授	4,470,000
D06-P-018 (継続)	行政改革を中心とした1980年代の政治・経済・社会の状況に関する文献目録編纂計画 並河信乃 社団法人行革国民会議 理事・事務局長	7,000,000
D06-P-019	国際会議「南アジアおよび東南アジアのシンクレティズム——選択と受容」の開催 (タイ) ソファナ・S. 南・東南アジア宗教学会(SSEASR) 事務局長	\$5,000
D06-P-020	多声化する東南・東アジア——人々の声をむすび、地域間の対話を促進する(Kyoto Review) 水野広佑 京都大学東南アジア研究所 教授	5,000,000



## 事業実績の概要

## V-0 事業実績の概要

本年度の助成事業の内訳は、次ページの表に示すとおりである。研究助成本体、特定課題計で68件1億8,000万円、地域社会プログラム助成は73件8,000万円、アジア隣人ネットワークプログラム助成は31件1億円、東南アジア研究地域交流プログラム助成は21件2,804万3,327円\*、成果発表助成は19件2,138万854円\*、計画助成は20件7,277万4,700円\*、以上合計すると助成件数は232件、助成金総額は4億8,219万8,881円である。

その結果、これまで32年間の助成金累計は件数で6,770件、金額で143億3,964万2,316円となった。なお、以上の金額は理事会決定段階のものであり、その後の変更(一部助成金の返納等)は含んでいない。

本年度の会計状況は、以降の三つの表に示すとおりである。

★——金額が円単位まで細かくなっているのは、海外向け助成金については、為替相場による現地通貨額の変動をできる限り少なくするために、決定金額を米ドルにしたためである。

### 本年度の財団の自主事業

#### ■ 研究助成「在華・在韓朝鮮族、在韓華僑研究会」

日時：2007年2月

場所：新宿三井ビル会議室

#### ■ 研究助成「『くらしといのちの豊かさ』評価・モニタ研究会」

日時：2007年2月

場所：新宿三井ビル会議室

助成金累計表

平成19(2007)年3月31日現在

助成種別	1975年度 —2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	累計
研究助成金	1,817 5,920,020,000	85 216,890,000	81 190,700,000	71 160,450,000	67 157,100,000	68 180,000,000	2,189 6,825,160,000
地域社会プログラム 助成金				56 55,000,000	47 54,540,000	73 80,000,000	176 189,540,000
市民活動助成金	332 497,380,000	24 35,800,000	30 40,200,000	[当プログラムは 2003年度にて終了]			386 573,380,000
市民社会プログラム 助成金	17 79,100,000	4 20,350,000	1 5,000,000				22 104,450,000
市民研究コンクール 助成金	198 372,600,000	[当プログラムは1994年度にて終了]					198 372,600,000
アジア髯人ネットワーク 助成金					16 58,600,000	31 100,000,000	47 158,600,000
東南アジア国別 助成金	1,318 2,189,787,287	62 81,638,572	48 60,335,316	40 58,091,284	[当プログラムは 2004年度にて終了]		1,468 2,389,852,459
東南アジア研究 地域交流プログラム助成金	208 244,610,978	21 29,926,088	20 24,879,322	17 24,969,172	21 73,046,838	21 28,043,327	308 425,475,725
研究能力向上プログラム 助成金	1 3,202,250	4 15,832,741	7 29,411,990	[当プログラムは2003年度にて終了]			12 48,446,981
インドネシア若手研究 助成金	601 125,246,497	[当プログラムは2000年度にて終了]					601 125,246,497
「個人をよく知る」日本向け プログラム	231 484,140,000	8 12,810,000	5 9,000,000	[当プログラムは 2003年度にて終了]			244 505,950,000
翻訳出版 促進助成金	247 489,272,624	14 8,838,001	14 9,390,299				275 507,500,924
計画助成金	249 722,436,750	13 54,748,191	14 33,371,151	16 55,825,280	17 59,599,566	20 72,774,700	329 998,755,638
特別助成金他	56 446,559,587						56 446,559,587
成果発表助成金	409 606,426,665	4 5,740,000	5 8,899,080	7 11,117,200	15 14,560,706	19 21,380,854	459 668,124,505
合計	5,684 12,180,782,638	239 482,573,593	225 411,187,158	207 365,452,936	183 417,447,110	232 482,198,881	6,770 14,339,642,316

- 注 1—金額は各年度の理事会で決定したものであり、その後の変更については含んでいない。  
 2—上段は件数を表す。  
 3—下段は金額(円)を表す。  
 4—計画助成金は他のプログラムと関連する助成、他の財団との共同助成への参加、緊急な対応を要する助成を示す。  
 5—特別助成金他は10周年記念特別助成金、フェロシップ助成金、その他の助成金を示す。

## V-1 2006年度(平成18)年度会計報告

### 1. 貸借対照表

(2007年3月31日現在)

借方科目	金額(円)	貸方科目	金額(円)
(資産の部)		(負債の部)	
現金・預金	310,309,225	未払費用	7,254,776
有価証券	14,049,727	未払金	272,992,137
前払金	4,560,440	預り金	2,192,779
立替金	3,523,203	賞与引当金	15,200,840
仮払金	195,740	退職給付引当金	54,572,825
未収金	116,084,481		
		(正味財産の部)	
基本財産	25,144,641,800	正味財産	36,172,696,236
特定資産	10,880,919,925	(うち基本財産への充当額)	(25,144,641,800)
固定資産	50,625,052	(うち特定資産への充当額)	(10,826,347,100)
<b>合計</b>	<b>36,524,909,593</b>	<b>合計</b>	<b>36,524,909,593</b>



## 2. 正味財産増減計算書

(自 2006年4月1日 至 2007年3月31日)

	項目	金額(円)
(経常増減の部)	財産運用益	696,089,981
	財産評価益	339,425,200
	受取寄付金	5,420,000,000
	雑収益	14,918,864
	経常収益計(A)	6,470,434,045
	事業費	662,351,249
	30周年記念特別事業費	156,546,332
	管理費	182,656,944
	経常費用計(B)	1,001,554,525
	当期経常増減額(C) = (A) - (B)	5,468,879,520
(経常外増減の部)	退職給付引当金取崩益	34,460,351
	過年度有価証券評価益	1,125,978,930
	経常外収益計(D)	1,160,439,281
	経常外費用計(E)	0
	当期外経常増減額(F) = (D) - (E)	1,160,439,281
	当期一般正味財産増減額(G) = (C) + (F)	6,629,318,801
	一般正味財産期首残高(H)	26,543,377,435
	一般正味財産期末残高(I) = (G) + (H)	33,172,696,236
(指定正味財産増減の部)	指定正味財産期末残高(J)	3,000,000,000
	正味財産期末残高(K) = (I) + (J)	36,172,696,236

★——次期繰越収支差額は、次年度収入予算繰入

### 3. 財産推移表

年度末	基本財産(円)	運用財産(円)*	正味財産計(円)
1974(昭和49)年度	3,000,000,000	133,057,559	3,133,057,559
1975(昭和50)年度	3,000,000,000	2,157,688,541	5,157,688,541
1976(昭和51)年度	3,000,000,000	3,186,517,747	6,186,517,747
1977(昭和52)年度	3,000,000,000	5,287,322,930	8,287,322,930
1978(昭和53)年度	3,000,000,000	7,399,047,725	10,399,047,725
1979(昭和54)年度	3,000,000,000	7,861,285,758	10,861,285,758
1980(昭和55)年度	7,000,000,000	4,003,621,400	11,003,621,400
1981(昭和56)年度	7,000,000,000	4,149,064,517	11,149,064,517
1982(昭和57)年度	7,000,000,000	4,287,154,437	11,287,154,437
1983(昭和58)年度	7,000,000,000	4,516,076,037	11,516,076,037
1984(昭和59)年度	7,000,000,000	4,657,945,551	11,657,945,551
1985(昭和60)年度	7,000,000,000	4,790,109,445	11,790,109,445
1986(昭和61)年度	7,000,000,000	4,895,989,935	11,895,989,935
1987(昭和62)年度	7,000,000,000	4,897,677,802	11,897,677,802
1988(昭和63)年度	7,000,000,000	4,638,898,571	11,638,898,571
1989(平成元)年度	7,000,000,000	4,675,999,340	11,675,999,340
1990(平成2)年度	7,000,000,000	4,707,768,117	11,707,768,117
1991(平成3)年度	7,000,000,000	4,705,697,939	11,705,697,939
1992(平成4)年度	7,000,000,000	4,593,449,759	11,593,449,759
1993(平成5)年度	7,000,000,000	4,543,287,609	11,543,287,609
1994(平成6)年度	7,000,000,000	4,492,182,175	11,492,182,175
1995(平成7)年度	7,000,000,000	4,505,449,966	11,505,449,966
1996(平成8)年度	7,000,000,000	9,572,944,480	16,572,944,480
1997(平成9)年度	12,000,000,000	9,641,774,178	21,641,774,178
1998(平成10)年度	17,000,000,000	9,486,314,837	26,486,314,837
1999(平成11)年度	20,000,000,000	11,496,321,907	31,496,321,907
2000(平成12)年度	20,000,000,000	11,259,353,528	31,259,353,528
2001(平成13)年度	20,000,000,000	9,734,386,335	29,734,386,335
2002(平成14)年度	20,000,000,000	9,546,555,972	29,546,555,972
2003(平成15)年度	20,000,000,000	9,434,672,015	29,434,672,015
2004(平成16)年度	20,000,000,000	9,721,860,737	29,721,860,737
2005(平成17)年度	20,000,000,000	9,543,377,435	29,543,377,435
2006(平成18)年度	25,144,641,800	11,028,054,436	36,172,696,236

★— 運用財産は、研究助成事業基金、固定資産および次期繰越収支差額の合計額

#### 4. 助成金変更及び返納一覧

(自 2006年4月1日 至 2007年3月31日)

助成番号	助成代表者・団体名 事由	助成決定日 助成金種別	上段：決定金額(円)	
			中段：変更及び返納金(円)	下段：最終助成額(円)
1	87-I-311 パトリシア・マクドナルド・スコット 研究助成 助成金残	1987.10. 1	1,800,000 99,486	1,700,514
2	95-X-002 ポール・H.クラトスカ 特別事業助成 助成金残	1995. 9.26	3,354,000 252,568	3,101,432
3	96-S-007 ポール・H.クラトスカ 成果発表助成 助成打ち切り	1997. 3.25	1,999,600 587,400	1,412,200
4	D03-K-06 スナンタ・ガンラニヤー 翻訳出版促進助成アジア相互間 助成打ち切り	2003.10. 7	846,782 899,791	-53,009
5	D04-EC-01 マリア・アントニア・ユニタ・トリワルダニ・ウイナルト 東南アジア研究地域交流プログラム助成 助成金残	2005. 3.14	880,024 6,803	873,221
6	D06-R-334 菊田 悠 研究助成 助成辞退	2006. 9.20	1,000,000 1,000,000	0

## V-2 2006年度(平成18)年度事業日誌

### 2006年

- 4月1日 アジア隣人ネットワーク助成、研究助成公募開始
- 4月8日 2005(平成17)年度地域社会プログラム助成金贈呈式
- 5月20日 アジア隣人ネットワーク助成公募の受付締切(189件)  
研究助成公募の受付締切(858件)
- 6月14日 第112回理事会  
2005(平成17)年度事業報告書、収支計算書の承認  
計画助成、助成先決定 6件  
SEASREP、助成先決定 1件  
評議員の選任  
選考委員の選任  
名誉顧問規程新規制定の承認  
名誉顧問の選任  
経理規程見直しの承認  
成果発表助成、助成先報告 1件  
アジア隣人ネットワーク助成・研究助成応募状況報告  
第35回評議員会  
理事の選任  
2005(平成17)年度事業報告書、収支計算書の報告  
名誉顧問規程新規制定の報告  
研究助成・アジア隣人ネットワーク助成応募状況報告
- 7月1日 第113回理事会  
会長の選任  
理事長の選任  
常務理事の選任
- 9月20日 第114回理事会  
アジア隣人ネットワーク助成、助成先決定 31件  
研究助成、助成先決定 68件  
計画助成、助成先決定 6件  
SEASREP、助成先決定 1件  
地域社会プログラム事業計画一部変更の承認  
成果発表助成、助成先報告 11件  
助成金贈呈式・シンポジウムについて  
第36回評議員会  
理事の選任(交替)

---

地域社会プログラム事業計画一部変更の報告  
助成金贈呈式・シンポジウムについて

第115回理事会

常務理事の選任

30年史編纂委員長並びにプログラム改革委員の選任

10月1日 地域社会プログラム公募開始

11月11日 2006(平成18)年度助成金贈呈式・シンポジウム

11月20日 地域社会プログラム公募の受付締切(404件)

---

## 2007年

---

1月12日 2004(平成16)年度年次報告書(英文)発行

2月9日 研究助成「在華・在韓朝鮮族・在韓華僑研究会」

2月19日 「『くらしといのちの豊かさ』評価・モニタ研究会」

3月5日 第116回理事会

理事長の選任

地域社会プログラム、助成先決定 73件

SEASREP、助成先決定 19件

計画助成、助成先決定 7件

2006(平成18)年度変更収支予算の承認

2006(平成18)年度収支決算見込の説明・承認

2007(平成19)年度事業計画、収支予算の承認

成果発表助成、助成先報告 7件

公益法人制度改革への対応方針について

地域社会プログラム助成金贈呈式について

30年史(英語版)完成報告

第37回評議員会

理事(1名)の選任

2006(平成18)年度変更収支予算の報告

2006(平成18)年度収支決算見込の報告

2007(平成19)年度事業計画、収支予算の報告

公益法人制度改革への対応方針について

地域社会プログラム助成金贈呈式について

30年史(英語版)完成報告

---

常務理事 ————— 加藤広樹

事務局長 ————— 佐々木敬介

プログラム部門 — 姫本由美子 [チーフ・プログラム・オフィサー]

本多史朗 [チーフ・プログラム・オフィサー]

田中恭一 [シニア・プログラム・オフィサー]

川崎恵津子 [プログラム・オフィサー]

喜田亮子 [アシスタント・プログラム・オフィサー]

楠田健太 [アシスタント・プログラム・オフィサー]

権 修珍 [アシスタント・プログラム・オフィサー]

加賀 道 [アシスタント・プログラム・オフィサー]

石井恵子 [プログラム・サポーティング・スタッフ]

新出洋子 [プログラム・サポーティング・スタッフ]

村井美奈 [プログラム・サポーティング・スタッフ]

渡辺 元 [シニア・フェロー]

岩本一恵 [シニア・アドバイザー]

総務部門 ————— 佐々木敬介 [総務部長・兼務]

成田真澄 [課長代理]

川島治彦 [主任]

土方かほる [主任]

---

## 2005-6 (平成17-8)年度年次報告

発行者 ————— 財団法人トヨタ財団

〒163-0437 東京都新宿区西新宿2-1-1

新宿三井ビル37階・私書箱236

TEL.(03)3344-1701

FAX.(03)3342-6911

URL.<http://www.toyotafound.or.jp>

発行日 ————— 2007年12月20日

デザイン ————— 中垣デザイン事務所

印刷 ————— 大日本印刷株式会社